

平成 28 年 度 第 2 回
寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略
策定等外部委員会 資料番号：3-2
平成 28 年 8 月 16 日（火）

寒川町プロモーション戦略策定に関する 基礎調査報告書（案）

平成 28 年 8 月 16 日

寒川町

《目次》

序 調査の目的・概要	1
(1) 背景	1
(2) 基礎調査の概要	1
1 比較対象自治体の設定	3
(1) 転入・転出状況	3
(2) 通勤移動	4
(3) 比較対象自治体	5
2 基礎調査分析結果の再整理	6
(1) しごとづくり	7
(2) 人の流れ	12
(3) 結婚・出産・子育て	16
(4) まちづくり	21
(5) まとめ	23
3 各種アンケートの再整理	24
(1) 寒川町の各種アンケート調査結果	24
(2) 比較対象自治体における「総合戦略策定に関する現状分析」及び「類似アンケート結果」	70
4 人口関連政策の比較分析	77
(1) 産業・雇用系政策	77
(2) 人口流動系政策（定住、交流人口）	78
(3) 子育て系政策	79
5 地域資源の整理	81
(1) 寒川町	81
(2) 茅ヶ崎市	83
(3) 藤沢市	83
(4) 海老名市	84
(5) 厚木市	84
(6) 平塚市	85
(7) 綾瀬市	85
6 アンケート調査	86
(1) 基本属性	87
(2) 利用メディア	91
(3) 寒川町の認知度・イメージ	93
(4) 回答者の生活スタイルや考え方に基づくタイプ分類	117
7 基礎調査のまとめ	125
(1) 寒川町のイメージ・ポジショニング	125
(2) 寒川町の「暮らしやすさ資源」	126
(3) 生活スタイルや考え方に基づくタイプ別のアプローチの方向性	127

序 調査の目的・概要

(1) 背景

「町人口ビジョン」及び「町総合戦略」で設定した目標人口を実現するためには、寒川町の知名度を向上させ、新たな人の流れを生み出す必要がある。

寒川町では、平成 28 年度において寒川の魅力を町外に発信し、定住可能性を高めるための具体的な取組の方向性と手法等を明らかにした「寒川町プロモーション戦略」（以下「戦略」と言う。）を策定することとしている。

本調査は、「戦略」の検討の基礎的資料として、町外に発信することが有効な寒川町の強みや魅力を把握するとともに、プロモーション活動となるターゲットを設定し、ターゲットの特性に応じたアプローチの方向性を整理することを目的に実施するものである。

(2) 基礎調査の概要

寒川町の地域資源に関する環境分析、競争相手である近隣市（比較対象自治体）との競合分析により、寒川町の強みや魅力を整理する。

寒川町の地域資源等（強みや魅力）を町外住民の視点で評価・検証するとともに、プロモーション活動のターゲット像を明らかにするためのアンケート調査を実施する。

①比較対象自治体の設定

➤人口移動及び通勤流動を基に、転入促進を図る上で競合する自治体を設定

②総合戦略基礎調査結果の再整理

➤定量的なデータを中心に、比較対象自治体も含めた中で寒川町の特性を抽出

③既存の各種アンケート結果の再整理（比較対象自治体の類似・関連アンケート含む）

➤定住や住環境等に対する評価・意識を把握

④人口関連施策の比較分析

➤寒川町及び比較対象自治体の「総合戦略」を基に人口関連施策を整理

⑤地域資源の整理

➤①～④の整理及びインターネット等における外部情報を基に転入促進の視点で活用すべき地域資源を整理（比較対象自治体の地域資源も整理）

⑥アンケート調査による検証

➤比較対象自治体及び東京都・横浜市 of 住民（2000 名）を対象にアンケートを実施

➤町民アンケート調査（郵送アンケート調査）：町外住民対象のアンケート結果の比較対象

➤職員アンケート調査：町民・町外アンケートの補完

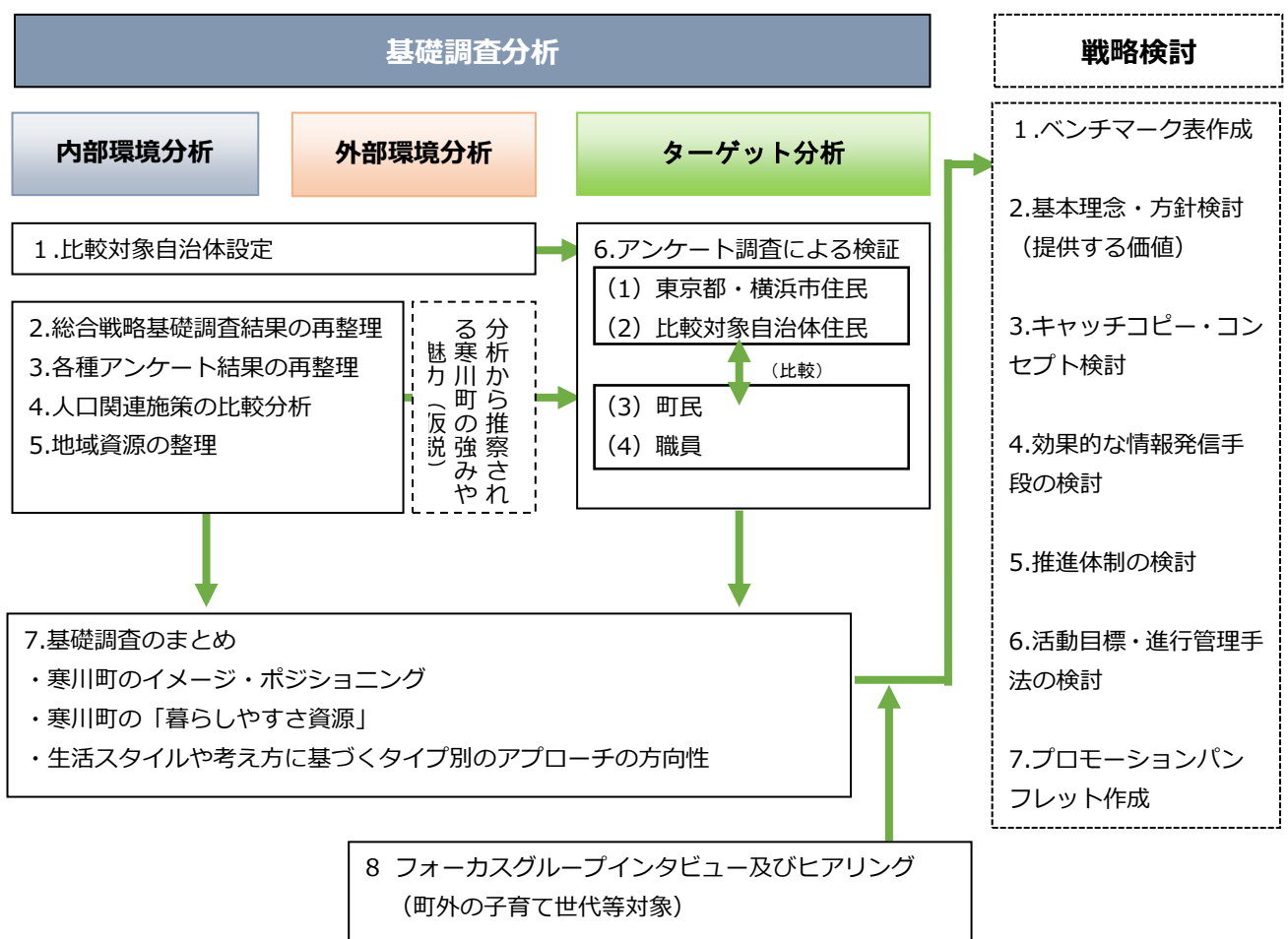
⑦基礎調査のまとめ

- ①～⑥の結果を基に、強みや機会、町のイメージ・ポジショニング、ターゲット別のアプローチの方向性を整理

⑧フォーカスグループインタビュー及びヒアリング

- ⑦の結果を基に戦略検討に着手する前に、アンケートでは得られない町外住民のニーズや意識を把握するため、基礎調査を踏まえ、フォーカスグループインタビュー及びヒアリングを実施

■基礎調査の流れ



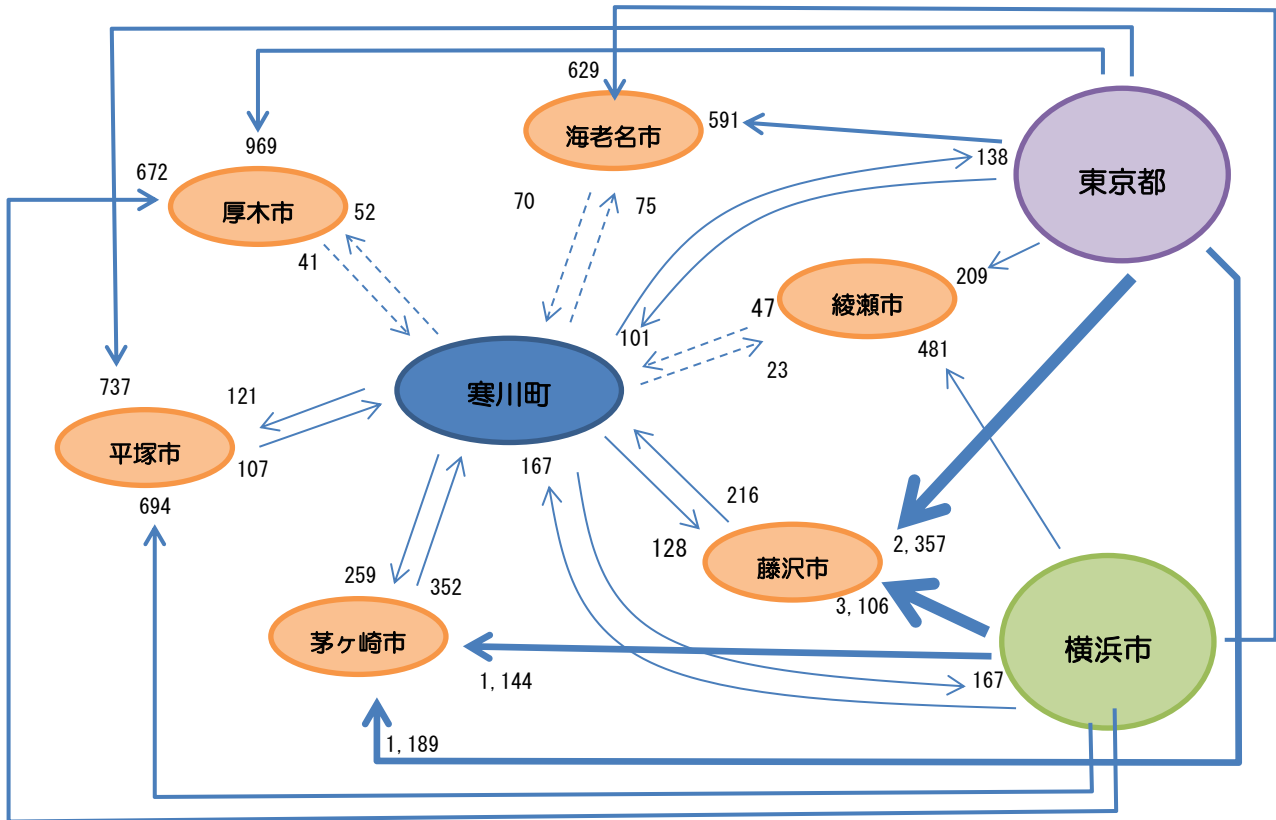
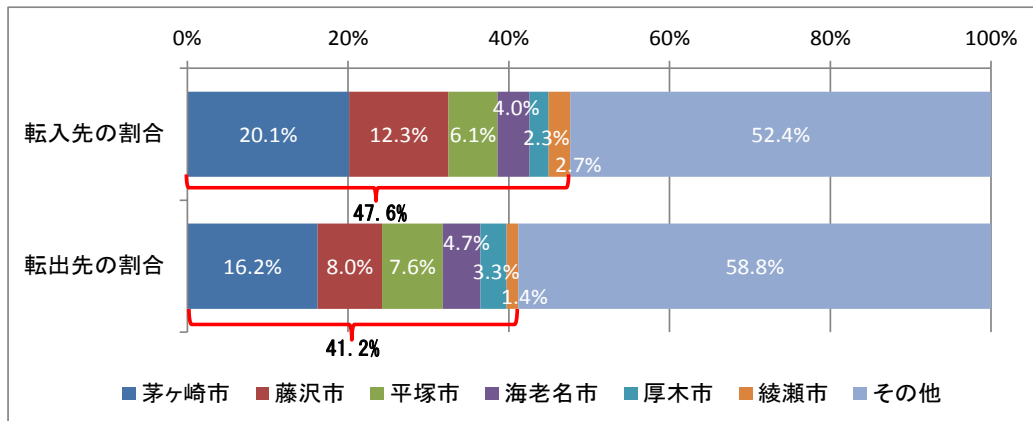
1 比較対象自治体の設定

(1) 転入・転出状況

寒川町を中心とした転出入の状況を見ると、転入者の約5割、転出者の約4割が周辺自治体であり、人口流動が量的に多いという点で、転入促進・転出抑制のポテンシャルが大きい。

また、東京都・横浜市といった大都市部から周辺自治体への転入も多い（大都市部から寒川町への転入よりも多い）。この中には必ずしも茅ヶ崎市、藤沢市等を居住地とする必要がない転入行動が含まれているとすれば、大都市部も人口誘導のターゲットとして有効である。

■寒川町を中心とした人口移動状況（平成26年）



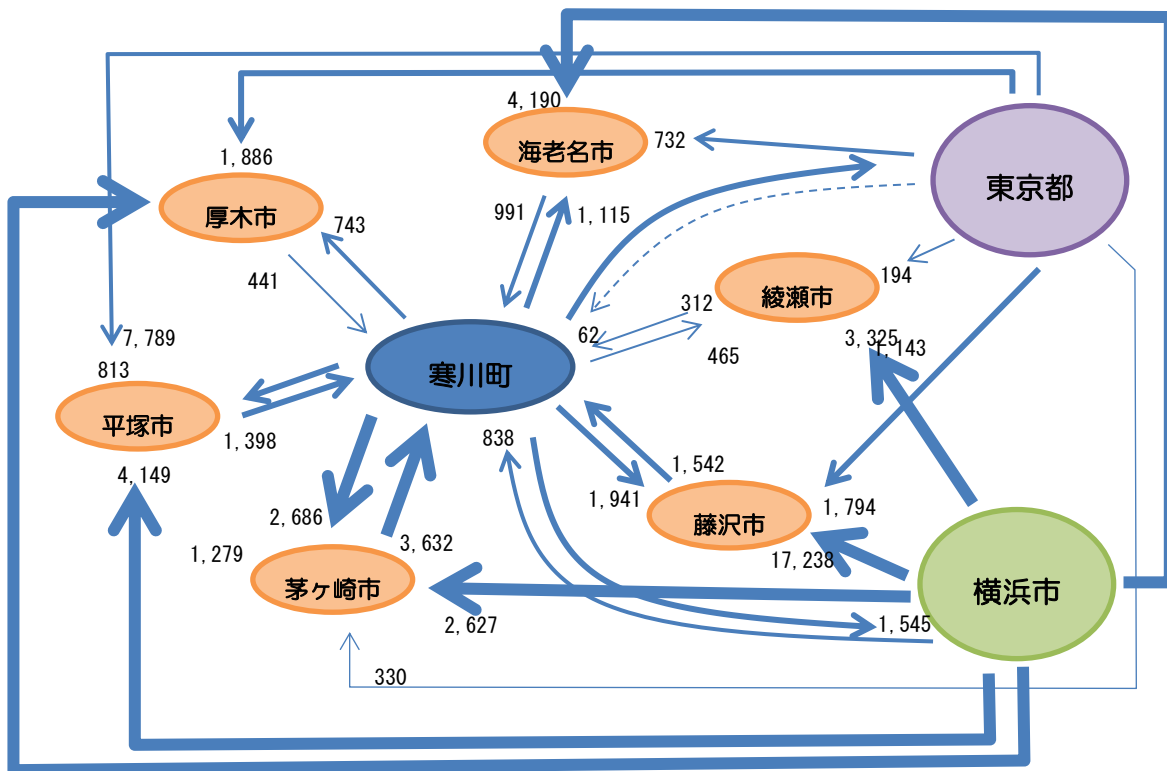
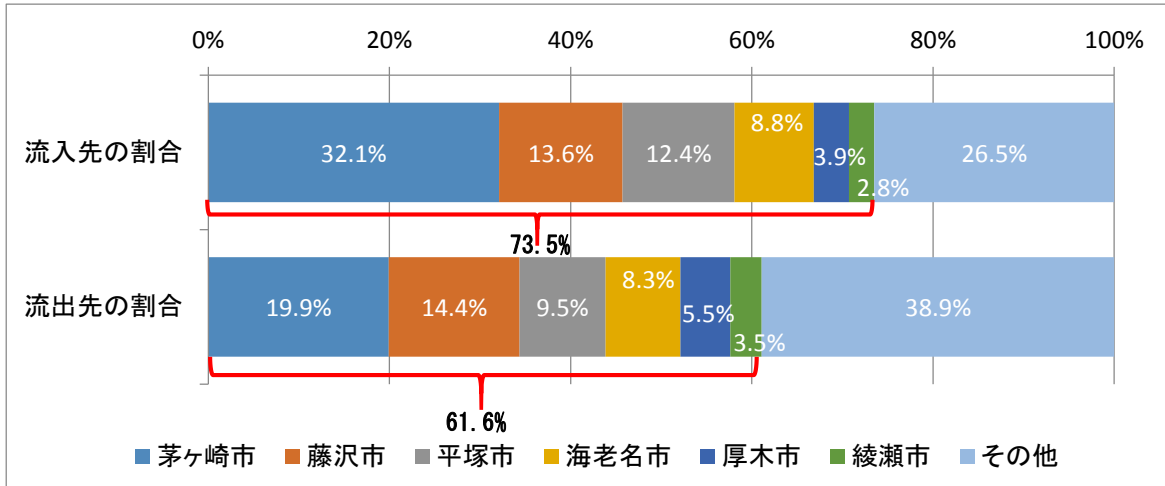
---> 100人未満 -> 100~499人 -> 500~999人 -> 1000~1999人 -> 2000人以上

出典：住民基本台帳人口移動報告

(2) 通勤移動

寒川町を中心とした通勤流動の状況を見ると流入の約7割、流出の約6割が周辺自治体であり、通勤流動での結び付きが強いという点で、転入促進・転出抑制のポテンシャルが大きい。

■寒川町を中心とした通勤移動状況（平成22年）



---> 100人未満 → 100~499人 → 500~999人 → 1000~1999人 ➤ 2000人以上

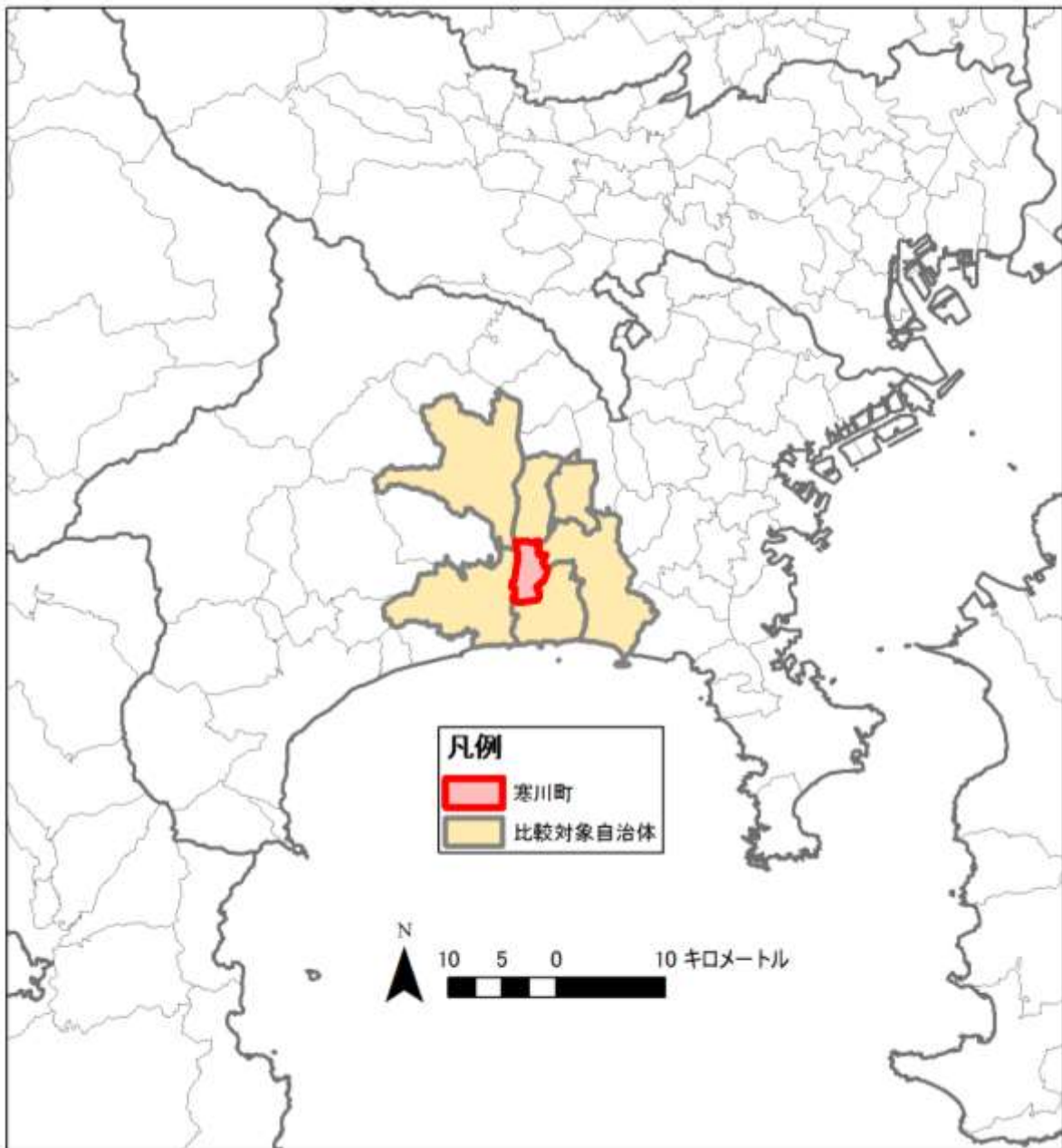
出典：国勢調査

(3) 比較対象自治体

寒川町を中心とした転入・転出状況及び通勤流動を踏まえ、寒川町の近隣自治体をプロモーション活動を行う上で競合相手となる自治体を分析の比較対象自治体として設定する。

また、プロモーションの対象としては、東京都や横浜市も対象となるが、ピンポイントで寒川町を居住地として選択するというよりも、まず、湘南地域あたりで住みたいと考え、次に湘南地域のどこが良いかの探すものと想定されることから、いずれにしても近隣自治体が競合相手になると考えられる。

■ 比較対象自治体



2 基礎調査分析結果の再整理

ここでは、平成 27 年度の総合戦略の策定にあたって実施した「基礎調査分析結果」（以下「平成 27 年度調査結果」と言う。）の再整理を行う。

再整理にあたっては、寒川町の特徴をより明らかにする趣旨から、次のような視点で新たな分析を追加（分析指標を追加）する。

【分析の視点】

- ・現状把握のための指標を追加し、多角的に分析
- ・男女別・年齢別のデータ集計作業を追加し、子育て世代（20～39 才）の現状を分析
- ・GIS（地理情報システム）を活用して人口や都市機能の空間分布を把握し、市街化区域に占める都市機能の利用圏域のカバー率を分析
- ・行政サービスの質的部分の情報収集※を追加し、子育て環境を分析

※保育サービスであれば、保育施設の量的側面だけでなく、一時保育や延長保育の実施状況など、サービスの質的な情報を収集

■ 追加分析の内容

	追加分析
しごとづくり	<p>【製造業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度は、「生産年齢人口一人当たりの製造業出荷額等」（生産性）の指標を基に、寒川町は製造業に特化した産業構造であるとの分析がなされている。 ・今回は、雇用力を評価する観点から、就業者ベースの分析（製造業の就業者がどれくらいのシェアを占めているのか、また増加傾向にあるのか等）を追加する。 <p>【通勤流動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度は、寒川町⇄近隣自治体間の通勤流動が分析されている。 ・今回は、子育て世代の傾向を把握する趣旨から年齢別に寒川町への通勤率の分析を追加する。 <p>【農業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎調査報告書では、産出額の規模が小さく、減少傾向にあるとの分析がなされている。 ・一方、低農薬など農産品の質が PR 材料になる可能性があるため、農業センサデータを基に環境保全型農業への取組状況の分析を追加する。
人の流れ	<p>【人口分布】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎調査報告書では、町全体の値で男女別・年齢別人口の分析がなされている。 ・今回は、子育て世代の人口が増加しているエリアを抽出し、当該エリアでの居住環境の特徴を分析する。 <p>【昼間人口】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎調査報告書では、町全体で昼間人口の分析がなされている。 ・今回は、子育て世代の昼間人口を分析する。 <p>【住宅】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎調査報告書では、「茅ヶ崎市、藤沢市から住宅価格の安い寒川町へ転入している可能性」との分析がなされている。 ・今回は、子どもから成る世帯の所有関係別の住宅形態を分析する。
結婚・出産・子育て	<p>【子育て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎調査報告書では、待機児童数を基に保育環境の分析がなされている。 ・今回は、多角的に子育て環境を評価するため、保育所・幼稚園や小児科の利用圏域や保育サービスの質（延長保育、一時預かり等）についての分析を追加する。
まちづくり	<p>【世帯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎調査報告書では、単独世帯が少なく、家族で生活している世帯が多いとの分析がなされている。 ・今回は、家族世帯（非単独世帯）の内訳（6 歳未満の子どもがいる世帯等）の整理など、家族構成の特徴の分析を追加する。 <p>【居住環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎調査報告書では、商業施設、都市公園、医療施設の密度が低いとの分析がなされている。 ・公園については、日常生活に密着した身近な公園を対象とした整備状況の分析を行う。

(1) しごとづくり

1) 製造業

①平成 27 年度調査結果の概要

製造業に従事している方が多く、製造品出荷額も近隣自治体と比較して高い水準にある。産業（製造業）の町として、町内に雇用の場が確保されている強みがある。

生産年齢人口一人あたりの製造業出荷額は「10.24 百万円/人」となり、他市と比較して高い水準にある。寒川町が他市と比較して工業地としての優位性があることが認められる。神奈川県内で比較すると、神奈川県内で 13 位、生産年齢人口一人あたりに換算すると 2 位となる。製造品出荷額等については神奈川県内でもトップクラスに位置している。

②追加分析

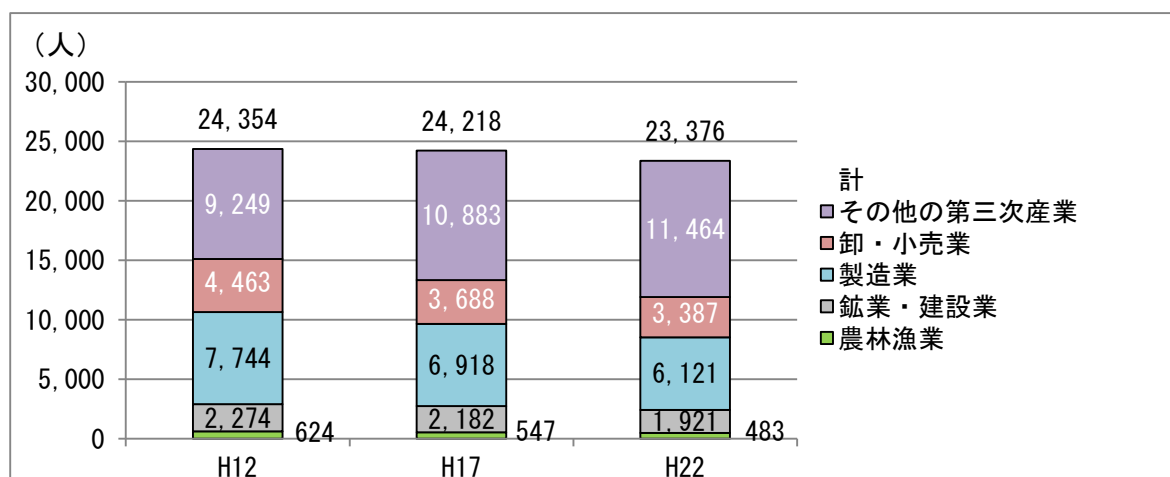
【産業別就業者数の推移】

製造業の就業者数は減少傾向にあり、就業者全体に占めるシェアも低下している。全体の就業者数が減少傾向にあるなか、卸・小売業を除くその他の三次産業は就業者数及び就業者全体に占めるシェアが拡大している。

製造品出荷額等（平成 27 年度調査）の点では製造業の集積は高く、生産性（生産年齢人口一人あたりの製造業出荷額）も高いことから、製造業の「稼ぐ力」は強いと言える。ただし、「稼ぐ力」と雇用力が必ずしも比例関係にあるとは限らない。

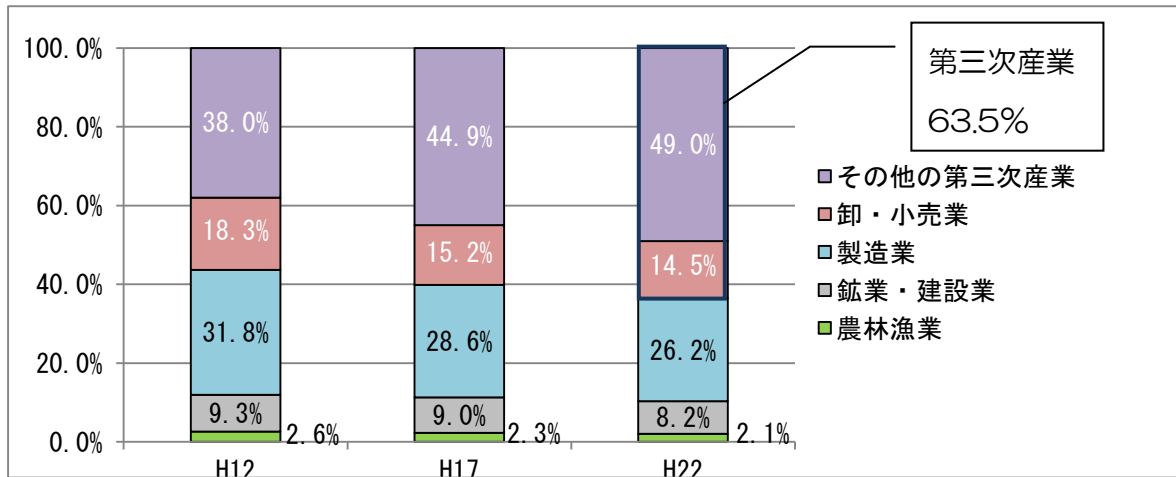
雇用力という点では、平成 22 年の国勢調査で、製造業の就業割合が 26.2%であるのに対し、第三次産業は 63.5%を占めている。

■産業別就業者数の推移



出典：国勢調査

■産業別就業者割合の推移



出典：国勢調査

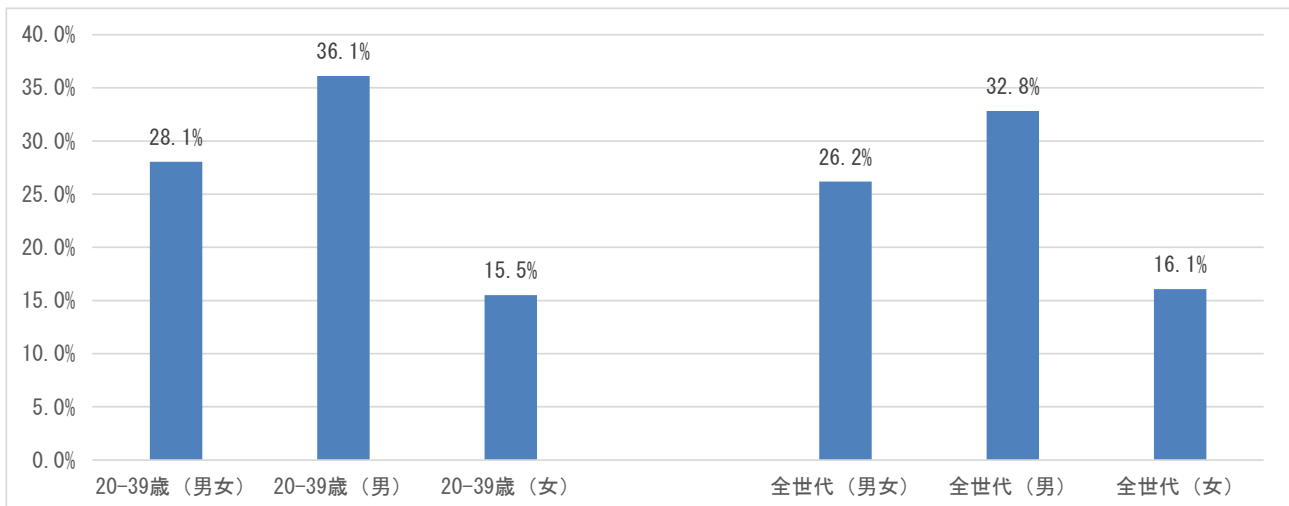
【若年・子育て世代の製造業の就業割合】

20～39歳の製造業就業割合を見ると、男女計では全世代の平均より2ポイント高い程度である。男性では全世代の平均より3ポイント高い程度である。女性では全世代平均より2ポイント低い程度である。

20～39歳の製造業就業割合は、比較的全世代と同様のレベルにある。製造業は就業者の3割を占めていることから、寒川町の雇用の一翼を担ってはいるものの、シェアという意味では三次産業の雇用力も大きい。

雇用機会の充実をPRするという点では、町内の産業集積だけでなく、近隣自治体も含めて多様な雇用機会があること、寒川町はその通勤圏であることをPRすることが考えられる。

■製造業の就業割合における若年・子育て世代と全世代の比較（平成22年）



出典：国勢調査

2) 通勤流動

①平成 27 年度調査結果の概要

他市区町村からの通勤者が多く、通勤のために寒川町へ流入している人が多い。通勤で他市区町村から来る人を呼び込み、寒川町への定住を促すことが課題となる。

茅ヶ崎市、藤沢市など、相模線沿線あるいはその近隣への通勤者が多数を占めている。それに続いて、男性は横浜市や相模原市といった都市部への通勤者が多く、女性は近隣市への通勤者が多い。

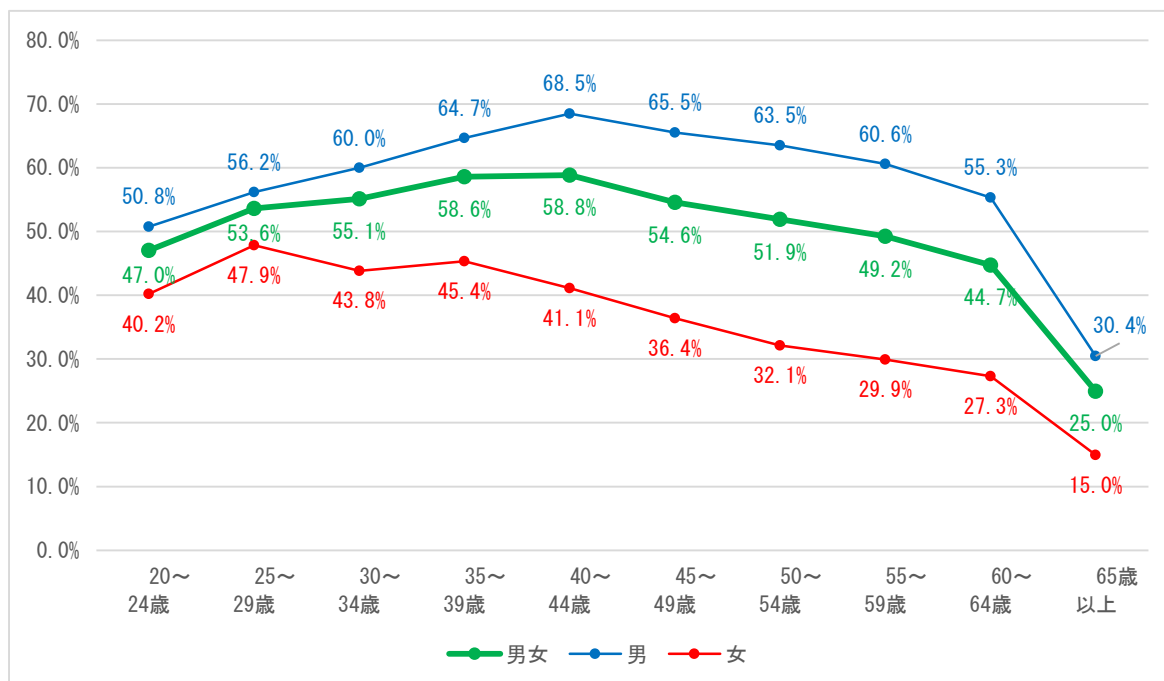
寒川町への通勤者も、茅ヶ崎市、藤沢市からの通勤者が多くなっている。相模線沿線あるいはその近隣から通勤している人が多い。

②追加分析

【年齢別・男女別に見た県内他市区町村からの通勤率】

男女計で見た場合、25～39 歳層は 50%以上が他市区町村からの通勤である。40 歳以上では年齢が高くなるにつれて、他市区町村からの通勤率は低下する傾向にある。男女別では、男性の他市区町村から通勤率が女性よりも高い水準にある。子育て世代の転入を誘導する上では近隣からの通勤者は転入促進のターゲットとして量的なポテンシャルがある。

■年齢別・男女別の県内他市区町村から寒川町への通勤率（平成 22 年）



※通勤率＝寒川町で従業する就業者のうち県内他市区町村の常住者数÷寒川町で従業する就業者数（総数）

出典：国勢調査

■ 年齢別・男女別の県内他市区町村から寒川町への通勤率（平成 22 年）

年齢	県内他市区町村からの通勤率 (b) ÷ (a)			寒川町の従業者数 (a)			従業者数のうち 県内他市区町村常住者数 (b)		
	男女	男	女	男女	男	女	男女	男	女
20～24歳	47.0%	50.8%	40.2%	1,123	725	398	528	368	160
25～29歳	53.6%	56.2%	47.9%	1,664	1,152	512	892	647	245
30～34歳	55.1%	60.0%	43.8%	2,230	1,557	673	1,229	934	295
35～39歳	58.6%	64.7%	45.4%	2,845	1,952	893	1,667	1,262	405
40～44歳	58.8%	68.5%	41.1%	2,662	1,725	937	1,566	1,181	385
45～49歳	54.6%	65.5%	36.4%	2,366	1,476	890	1,291	967	324
50～54歳	51.9%	63.5%	32.1%	2,121	1,337	784	1,101	849	252
55～59歳	49.2%	60.6%	29.9%	2,318	1,459	859	1,141	884	257
60～64歳	44.7%	55.3%	27.3%	2,185	1,357	828	977	751	226
65歳以上	25.0%	30.4%	15.0%	2,019	1,304	715	504	397	107
計	50.6%	58.7%	35.5%	21,533	14,044	7,489	10,896	8,240	2,656

出典：国勢調査

3) 農業

①平成 27 年度調査結果の概要

近隣自治体と比較して農業産出額の規模は小さいが、推移としては近隣自治体と同様のトレンドであり、年を追うごとに減少している傾向にある。

寒川町の農業従事者の数は年々減少傾向にある。農業産出額の減少は、農業の担い手の減少によるものが多いと考えられる。

②追加分析

【農業経営体の環境保全型農業への取組】

化学肥料の低減に取り組んでいる割合は 57.8%であり、近隣自治体の中では第 3 位、県の平均的な水準である。

農薬の低減に取り組んでいる割合は 82.8%であり、近隣自治体の中では最も高く、県の平均を上回る水準である。

堆肥による土づくりに取り組んでいる割合は 55.2%であり、近隣自治体の中で最も低く、県平均を下回る水準である。

農薬の低減は、食の安全・安心の面で PR 材料として活用することが考えられる。「わいわい市」など直売施設との連携で PR することも有効である。

■環境保全型農業に取り組んでいる農業経営体の割合（平成 22 年）



出典：世界農林業センサス

(2) 人の流れ

1) 人口分布

①平成 27 年度調査結果の概要

外国人人口の割合が近隣自治体と比較して低い水準にある。人口の構成割合はほぼ近隣自治体と同水準である。

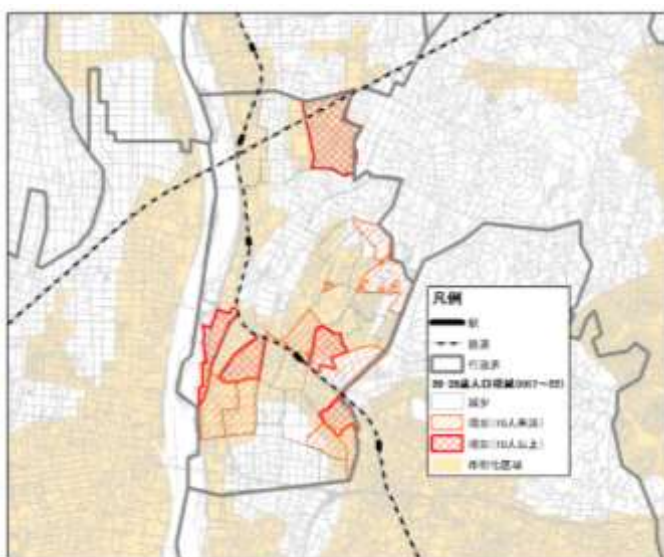
②追加分析

【地域別に見た若年・子育て世代の人口増減率】

平成 17～22 年の 5 年間で若年・子育て世代（20～39 歳）が 10 人以上増加している町丁を見ると、寒川駅及び香川駅周辺に分布している。駅の徒歩圏外では倉見地区（原・才戸・大村）で 10 人以上の増加が見られる。

■若年・子育て世代（20～39 歳）が増加している町丁の概要（平成 17～22 年）

町丁名	概要
一之宮 3 丁目	・寒川駅まで 10～15 分以内の交通至便な住環境である。 ・教育施設としては、寒川中学校が立地しているほか隣接町丁に一之宮小学校、一之宮相和幼稚園がある。 ・一之宮公園は、一之宮緑道と一体となった自然あふれる公園であり、かながわの公園 50 選にも選ばれている。
一之宮 5 丁目	・寒川駅まで 15～20 分以内。 ・低未利用地や工場等の立地が見られ、住宅に土地利用転換していると考えられる。
大曲 1 丁目	・香川駅まで 10 分以内の交通至便な住環境である。 ・隣接町丁にスーパーやドラッグストアが立地している。 ・都市機能と自然が融合した永住にふさわしい住環境などのキャッチフレーズの戸建住宅販売が見られる。
岡田 3 丁目	・寒川駅まで 10 分以内の交通至便な住環境である。 ・スーパーやドラッグストアなどの最寄商業施設が充実している。
倉見（原・才戸・大村）	・倉見駅までは 20 分以上。 ・教育施設としては、倉見幼稚園がある。 ・企業が多く立地している。



出典：国勢調査

2) 昼間人口

①平成 27 年度調査結果の概要

昼間人口は近隣自治体と比較してもほぼ同水準である。通勤のために近隣自治体へ流出するという状況ではなく、町内における仕事の場が確保されていると考えられる。

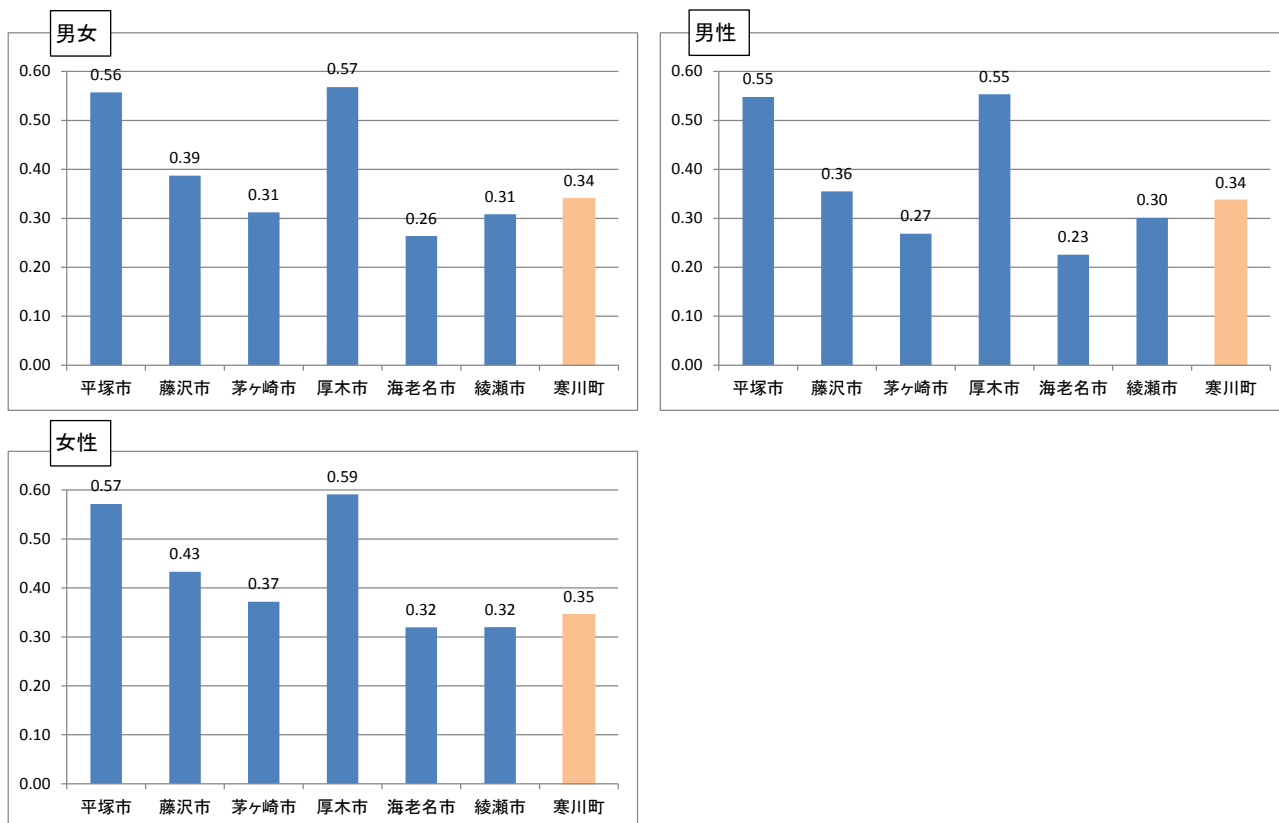
寒川町の人口総数に占める昼間人口は「0.94」と、人口総数とほぼ同水準となっている。通勤等による昼間の流出はあまり多くなく、町内での通勤者も比較的多いことがわかる。

②追加分析

【若年・子育て世代の自市町内従業率】

若年・子育て世代の自市町内従業率は 0.34 であり、町外への流出が多くなっている。男女間で自市町内従業率に大差はない。寒川町に住んで、近隣自治体に通勤するライフスタイルが多いことがわかる。

■ 20～39 歳の就従比（平成 22 年）



出典：国勢調査

3) 住宅

①平成 27 年度調査結果の概要

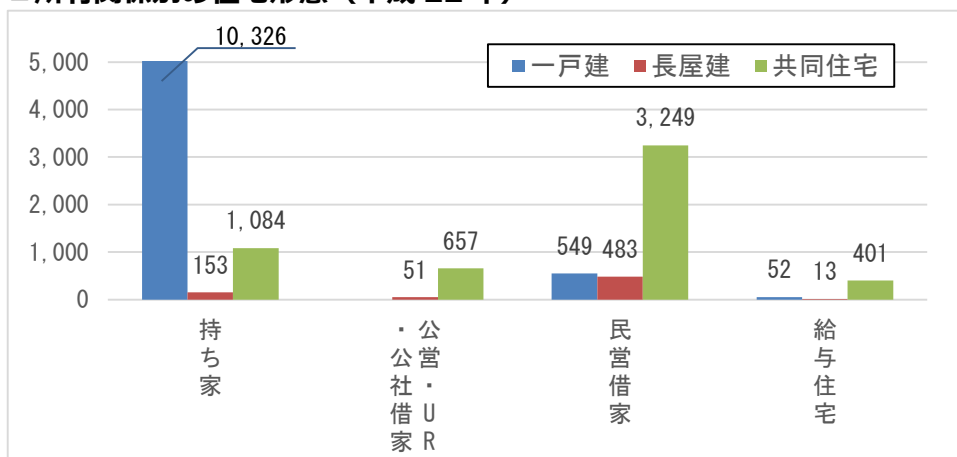
寒川町の住宅地価格は他市と比較しても低い水準にある。茅ヶ崎市、藤沢市などに住んでいた人が住宅の安い寒川町へ転入している可能性がある。

②追加分析

【寒川町の所有関係別の住宅形態】

寒川町全体では住宅に住む主世帯（間借り除く）が 17,060 世帯あり、そのうち 10,326 世帯（60.5%）が持家一戸建であり、次いで借家の共同住宅が 3,249 世帯（19.0%）となっている。持ち家の共同住宅は 1,084 世帯（6.4%）である。持家に限って見ると 11,563 世帯（67.8%）となっている。

■所有関係別の住宅形態（平成 22 年）

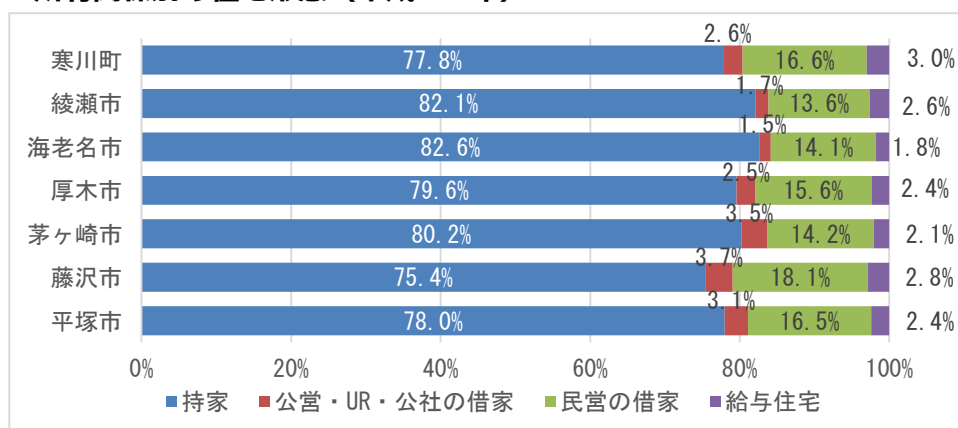


出典：国勢調査

【夫婦と子世帯の住宅所有の状況】

夫婦と子世帯の住宅所有の状況を見ると、寒川町は持家が 77.8%であり、近隣自治体と同程度の水準である。近隣自治体も含めて基本的に持家ニーズが高いことから、寒川町の居住環境を PR することは有効である。

■所有関係別の住宅形態（平成 22 年）

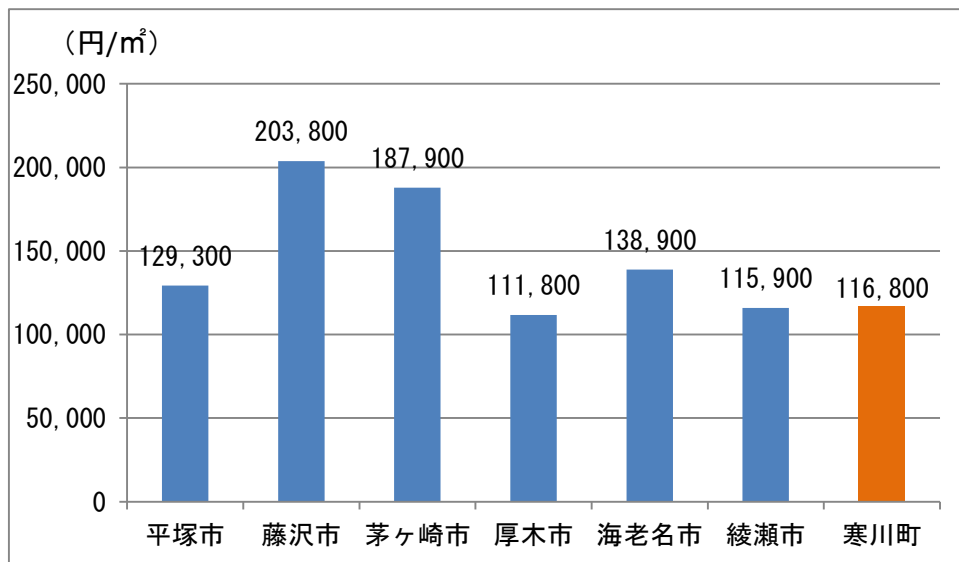


出典：国勢調査

【都道府県地価調査：住宅地】

寒川町の住宅地地価は 11.7 万円/m²であり、近隣自治体では厚木市、綾瀬市と並んで低い水準にある。

■ 都道府県地価調査：住宅地（平成 27 年）

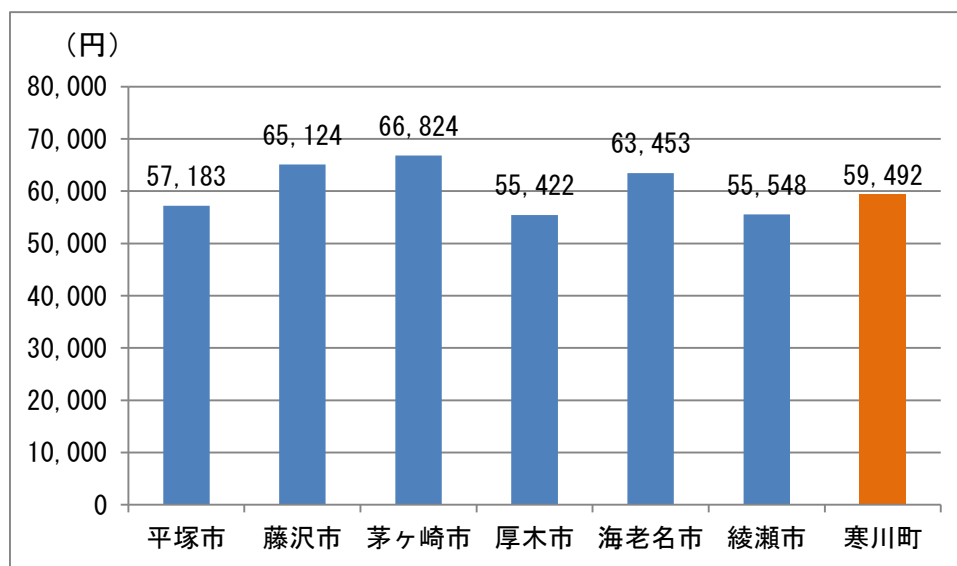


出典：神奈川県「地価調査」

【1ヶ月当たりの平均家賃】

寒川町の1ヶ月の平均家賃(家賃0円は除く)は 5.9 万円であり、近隣自治体では平塚市、厚木市、綾瀬市、寒川町が6万円を下回っている。

■ 1ヶ月の平均家賃（平成 25 年）



出典：総務省「住宅・土地統計」

(3) 結婚・出産・子育て

1) 子育て

①平成 27 年度調査結果の概要

茅ヶ崎市、海老名市に次いで未婚率が低いが、大きな相違はない。近隣他市及び神奈川県全体を見ても、配偶関係に特徴的な相違はみられない。

出生率は、平成 23 年に底を打ち、一旦上昇に転じたが、直近では再び下落している。平成 24 年に上昇に転じているのは、第 2 次ベビーブーム世代の出産による一時的な増加と考えられる。

20 代の比較的若い年代の出生数が高い自治体は、合計特殊出生率も高い傾向にある。これは、第 2 子、第 3 子と出産する可能性が高いためと考えられる。若い年代の出生数をあげることが、出生率上昇のための課題となる。

神奈川県内で比較すると、寒川町の合計特殊出生率は「1.37 人」で、6 位の位置にある。神奈川県内では上位にあたるが、全国平均とほぼ同水準である。

保育所数の割合が近隣自治体と比較して低いが、待機児童数の割合が茅ヶ崎市、綾瀬市と比較して低い水準にある。保育環境については、近隣の他市と比較して一定の整備がなされているといえる。

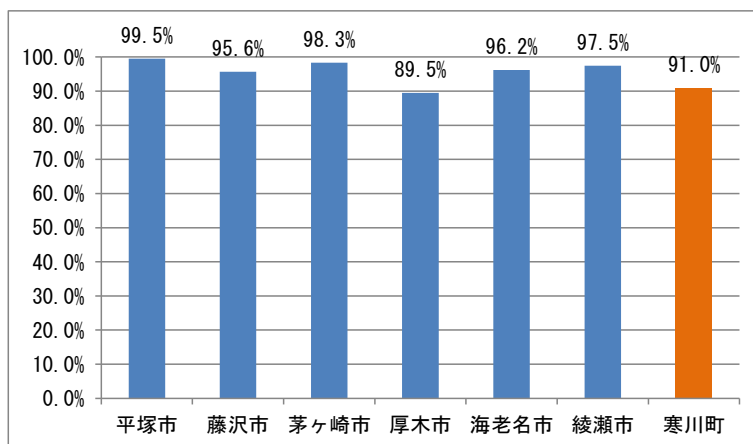
②追加分析

【保育所・幼稚園の 1000m 圏カバー率】

市街化区域における保育所・幼稚園の 1000m 圏（徒歩 10～15 分、自転車 5 分程度）カバー率を見ると、寒川町は 91.0%である。市街化区域の 9 割は、保育所・幼稚園にアクセスしやすい環境にある。

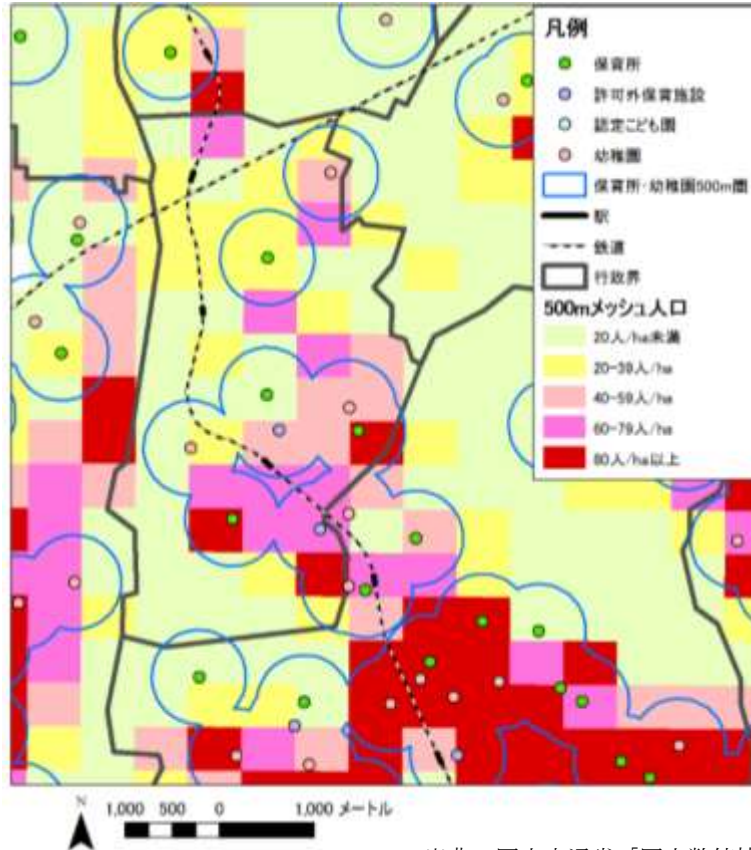
また、保育所・幼稚園へのアクセスが特に良好なエリアを抽出する趣旨で、保育所・幼稚園の 500m 圏域を見ると、地域的には人口密度が高い寒川駅周辺に分布している。

■市街化区域における保育所・幼稚園の 1000m圏カバー率



出典：国土交通省「国土数値情報 福祉施設データ (H23)」を基に作成

■ 保育所・幼稚園の 500m 圏



出典：国土交通省「国土数値情報 福祉施設データ (H23)」
総務省「国勢調査 500m メッシュデータ (H22)」を基に作成

【保育サービスの多様性】

延長保育や一時保育、休日保育など保育サービスの多様性を見ると、寒川町では延長保育、一時保育、地域子育て支援活動がすべての保育所で実施されている（一時保育は平成 28 年度中に実施予定）。

また、ファミリーサポートセンター事業では、寒川町の場合、預かり対象が生後 3 箇月～6 年生までとなっており、近隣自治体と比較しても遜色はない。さらに、寒川町では利用料金に町の負担分があることから、近隣自治体の中では最も利用しやすい料金となっている。

■ 保育所における各種サービスの実施状況

	延長保育所実施数	一時保育実施所数	休日保育	地域子育て支援活動実施保育所数	病児保育実施所数
寒川町	4	4	-	4	-
平塚市	31	16	15	30	1
藤沢市	39	6	1	28	1
茅ヶ崎市	35	13	13	14	1
厚木市	28	21	20	19	1
海老名市	5	-	-	8	-
綾瀬市	8	5	-	6	-

【保育所全体に占める実施率】

	延長保育所実施率	一時保育実施率	休日保育	地域子育て支援活動実施保育所率	病児保育実施率
寒川町	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
平塚市	91.2%	47.1%	44.1%	88.2%	2.9%
藤沢市	95.1%	14.6%	2.4%	68.3%	2.4%
茅ヶ崎市	100.0%	37.1%	37.1%	40.0%	2.9%
厚木市	100.0%	75.0%	71.4%	67.9%	3.6%
海老名市	27.8%	0.0%	0.0%	44.4%	0.0%
綾瀬市	100.0%	62.5%	0.0%	75.0%	0.0%

出典：寒川町は町資料より作成

寒川町以外は「子育て支援情報サービスかながわ」を基に作成

■ファミリーサポートセンターの比較

	対象	料金
寒川町	生後3か月～6年生	<p>月曜日～金曜日：7：00～19：00 700円 一部町負担分200円 差引後 おねがい会員支払額 500円 上記以外の時間帯 900円 一部町負担分200円 差引後 おねがい会員支払額 700円 土曜日・日曜日・祝日 12/28～1/3 900円</p> <p>一部町負担分200円 差引後 おねがい会員支払額 700円</p> <p>ひとり親家庭及び生活保護世帯の方は町一部負担分が1時間300円 (該当世帯の方は「ひとり親・生活保護世帯申告書」の提出と証明書確認が必要)</p>
平塚市	0歳～おおむね9歳くらい	<p>月曜日から金曜日の午前6時から午後10時まで：1時間あたり700円 月曜日から金曜日の上記以外の時間帯：1時間あたり900円 土曜日、日曜日、祝日、年末年始の終日：1時間あたり900円 ※食事・おやつ・おむつ等及び支援会員の交通費等の実費は、別途お支払い。</p>
藤沢市	0歳児～小学校6年生まで	<p>月曜日～金曜日6時00分～22時00分：700円 土曜日・日曜日・祝日、年末年始6時00分～22時00分：900円 病児・病後児の預かり月曜日～日曜日 6時00分～22時00分：900円 夜間の預かり22時00分～6時00分：900円</p>
茅ヶ崎市	生後3か月～6年生	<p>月曜日から金曜日までの6時から20時 1時間当たり700円 土曜日、日曜日、祝日及び年末年始並びに上記の時間帯以外の時間 1時間当たり900円</p>
厚木市	生後3か月～6年生	<p>【月曜日～金曜日】 (午前7時～午後8時) 3箇月児～3歳未満児 1時間当たり800円 3歳児以上～小学校6年生 1時間当たり700円 【上記以外の時間】 土曜日、日曜日、祝日、年末年始 3箇月児～3歳未満児 1時間当たり900円 3歳児以上～小学校6年生 1時間当たり800円</p>
海老名市	生後3か月～3年生	<p>月～金曜日の午前6時30分～午後9時まで(基本時間) 1時間あたり700円 月～金曜日の上記以外の時間帯 1時間あたり900円 土曜日、日曜日、国民の祝日及び年末年始(12月29日から1月3日) 1時間あたり1,000円</p>
綾瀬市	生後3か月～3年生	<p>月曜日から金曜日が1時間につき700円で、土曜日が1時間につき1000円</p>

出典：子育て支援情報サービスかながわ

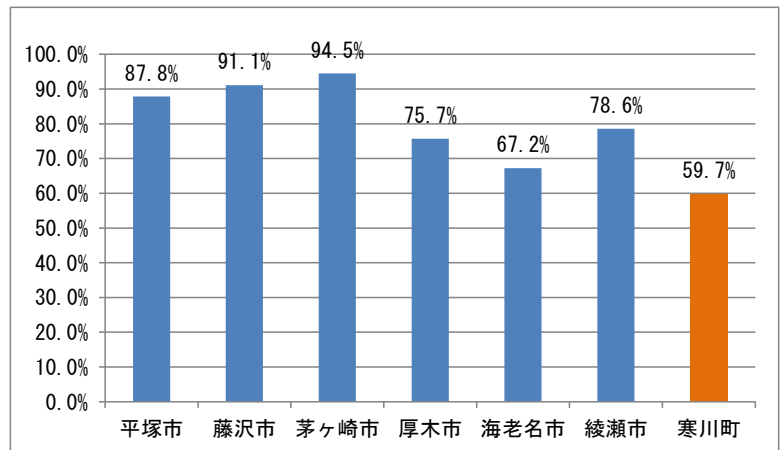
【小児科の1000m圏カバー率】

子育てを支える医療施設として、市街化区域における小児科の1000m圏（徒歩10～15分、自転車5分程度）カバー率を見ると、寒川町は59.7%である。市街化区域の6割は、小児科にアクセスしやすい環境にある。

また、小児科へのアクセスが特に良好なエリアを抽出する趣旨で、小児科の500m圏域を見ると、地域的には人口密度が高い寒川駅周辺に小児科が分布しており、前述の保育施設の分布と重ね合わせると寒川駅周辺は子育て世代の生活を支える諸機能が集積していると捉えることができる。寒川駅周辺は、子育てがしやすい街としてPRできるポテンシャルを持っている。

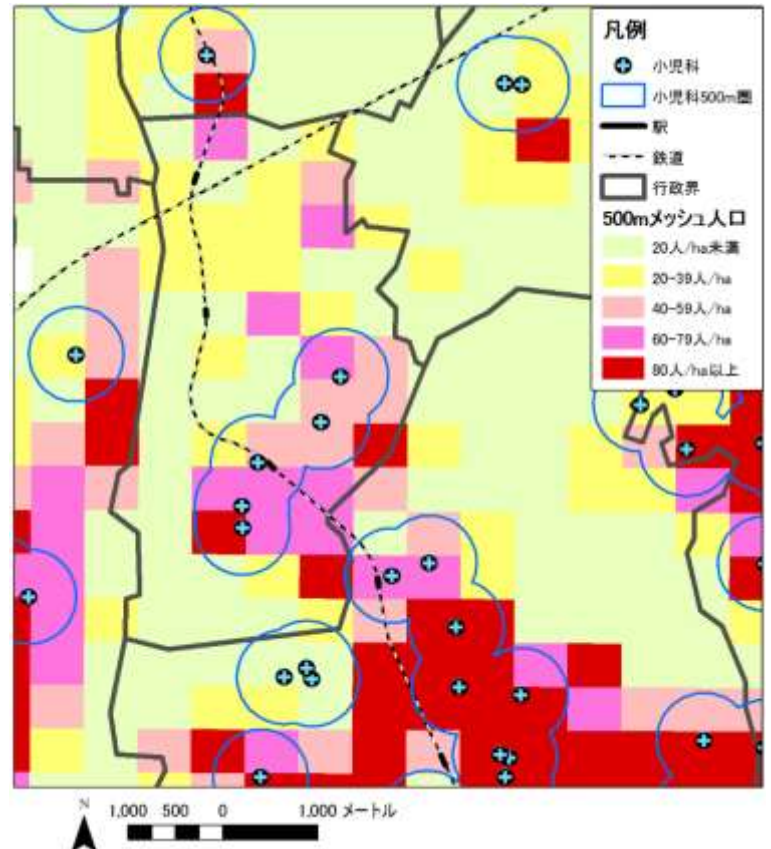
年少人口（15歳未満）千人当たりの小児科の立地数を見ると、寒川町は綾瀬市より高く、茅ヶ崎市と概ね同水準にある。

■市街化区域における小児科の1000m圏カバー率



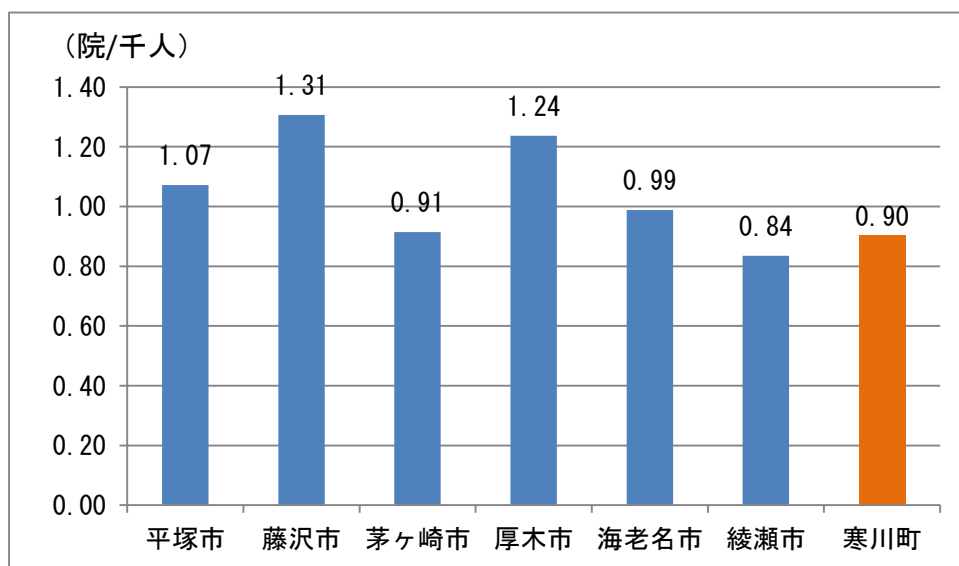
出典：国土交通省「国土数値情報 医療機関データ（H26）」を基に作成

■小児科の500m圏



出典：国土交通省「国土数値情報 医療機関データ（H26）」、総務省「国勢調査500mメッシュデータ（H22）」を基に作成

■年少人口千人当たりの小児科立地数



出典：国土交通省「国土数値情報 医療機関データ（H26）」、総務省「国勢調査（H22）」を基に作成

(4) まちづくり

1) 世帯

①平成 27 年度調査結果の概要

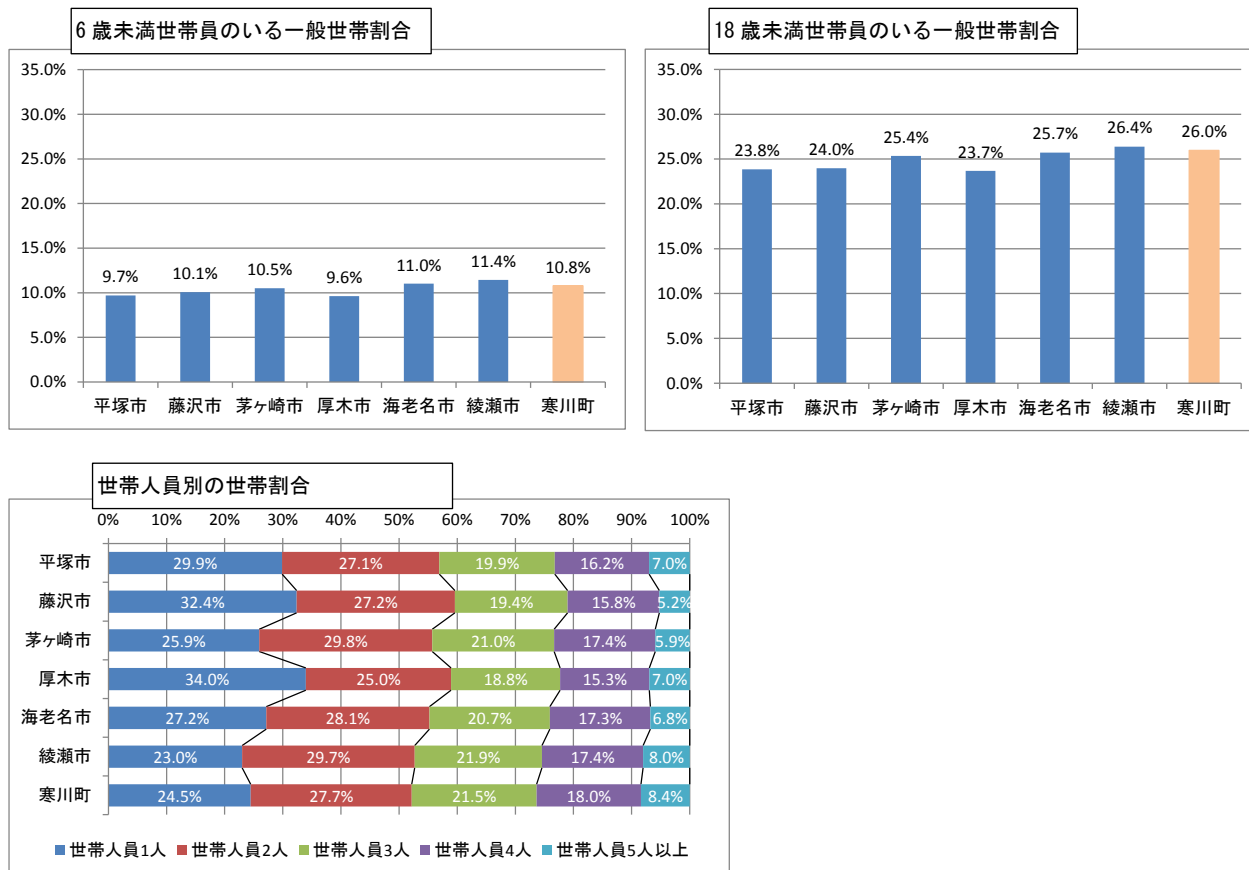
単独世帯の割合が、近隣自治体平均と比較して低い水準にある。ファミリー世帯が多く、相対的に子育て中の親や高齢者の孤立化を防ぐことが可能な状況にある。

②追加分析

【世帯の特性】

寒川町の6歳未満の子どもがいる世帯は10.8%、18歳未満の子どもがいる世帯は26.0%であり、近隣自治体の中ではそれぞれ第3位、第2位である。また、世帯人員別の世帯割合では寒川町は3人以上の世帯が47.8%と最も高い。3人以上世帯のすべてが夫婦と子ども世帯とは限らないが、ファミリー世帯が多いと推察される。ファミリーの暮らしやすさの基盤は整っていると言える。

■子育て世帯の特性（平成 22 年）



出典：国勢調査

2) 居住環境

① 平成 27 年度調査結果の概要

公民館数の割合が近隣自治体と比較して高い水準にある。地域のコミュニティ活動や交流拠点へのアクセスは整備されているといえる。

市街化区域 1k m²あたりの住宅数が近隣自治体と比較して低い水準にある。1 住宅あたりの延床面積は他市と大きな相違はないため、住宅がまばらに点在していると考えられる。住宅地となっていない土地が、他市よりも相対的に多く存在している状況にある。

市街化区域面積あたりの空き家の数は、近隣他市と比較して低い水準にある。定住・転入促進の資源としての空き家の数は限定的であるといえる。

小売店、飲食店等の商業施設は、近隣自治体と比較して少ない傾向にある。近隣自治体と比較して、買物の利便性に課題がある。買い物等については町内ではなく近隣の他市へ出かけている可能性がある。

都市公園数の割合が近隣自治体と比較して低い水準にある。1 k m²あたりの都市公園数は「5.59 箇所/k m²」と、厚木市、海老名市に次いで低い水準にある。子育て環境という観点からは公園は重要であるため、課題として認識することが考えられる。

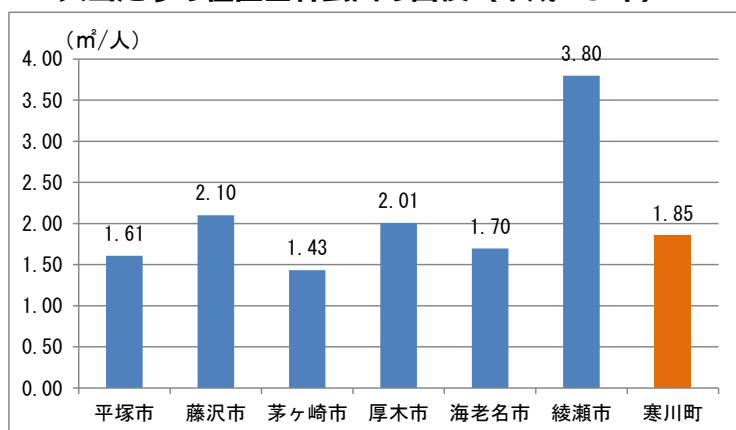
医療の充実度合いについては、平均的な状況であるといえる。男性は、寒川町で特有の死因が多いという傾向はみられない。相対的に肝がん・肝内胆管がんの割合が多いが、他市と大きな相違はみられない。

② 追加分析

【1人当たりの住区基幹公園面積】

身近な公園である住区基幹公園[※]について1人当たりの面積を見ると寒川町は 1.85 m²であり、近隣自治体と比較して平均的な水準にある。身近な公園については、一定程度充足していると言える。

■ 1人当たりの住区基幹公園の面積（平成 25 年）



出典：神奈川県 都市整備統計年報

※住区基幹公園とは、歩いていける範囲の身近な公園を指し、種別としては街区公園、近隣公園、地区公園がある。

これに対し、都市全体の住民が利用することを目的とした大規模な公園のことを都市基幹公園と呼び、総合公園や運動公園などがある。通常、子どもたちが日常利用する公園は住区基幹公園であり、ここでは、身近な公園の利用環境を評価する趣旨から、住区基幹公園を対象に分析した。

(5) まとめ

平成 27 年度調査及び追加分析結果などの統計データからみた寒川町の強みや魅力を以下に整理する。

しごとづくり	
経済基盤・製造業	<ul style="list-style-type: none"> 産業（製造業）の町として町内に雇用の場が確保されている。 一方、雇用力という点では、製造業の就業割合が 26.2%であるのに対し、第三次産業は63.5%を占めている（平成22年の国勢調査）。
通勤流動	<ul style="list-style-type: none"> 25～39 歳層は 50%以上が他市区町村からの通勤であり、転入促進のターゲットとして量的なポテンシャルがある。
農業	<ul style="list-style-type: none"> 農薬の低減に取り組んでいる割合は 82.8%であり、近隣自治体の中では最も高く、県の平均を上回る水準である。 農薬の低減は、食の安全・安心、食育などの面で PR 材料として活用することが考えられる。 「わいわい市」など直売施設との連携で PR することも有効である。
人の流れ	
人口分布	<ul style="list-style-type: none"> 若年・子育て世代（20～39 歳）が増加しているエリアは、寒川駅及び香川駅周辺、駅の徒歩圏外では倉見地区（原・オ戸・大村）となっている。
昼間人口	<ul style="list-style-type: none"> 若年・子育て世代の自市町内従業率は 0.34 であり、近隣自治体に通勤するライフスタイルが多いことがわかる。 雇用機会の充実を PR するという点では、町内の産業集積だけでなく、近隣自治体も含めて多様な雇用機会があること、寒川町はその通勤圏であることを PR することが考えられる。
住宅	<ul style="list-style-type: none"> 寒川町の住宅地価格や家賃は他市と比較しても低い水準にある。 夫婦と子世帯の住宅所有の状況を見ると、寒川町は持家が 77.8%であり、近隣自治体と同程度の水準である。 近隣自治体も含めて基本的に持家ニーズが高いことから、寒川町の居住環境を PR することは有効である。
結婚・出産・子育て	
子育て	<ul style="list-style-type: none"> 茅ヶ崎市、綾瀬市と比較して待機児童数が少ない。 寒川町では延長保育、一時保育、地域子育て支援活動がすべての保育所で実施されている（一時保育は平成 28 年度中に実施予定）。 近隣自治体の中では寒川町だけがファミリーサポートセンターの利用料金に補助をしている（最も利用者負担が少ない）。 市街化区域の 9 割は、保育所・幼稚園の 1000m 圏域でカバーされている。 市街化区域の 6 割は、小児科の 1000m 圏域でカバーされている。 年少人口（15 歳未満）千人当たりの小児科の立地数を見ると、寒川町は綾瀬市より高く、茅ヶ崎市と概ね同水準にある。 寒川駅周辺は、保育所・幼稚園や小児科の 500m 圏域となっており、子育てがしやすい街として PR できるポテンシャルを持っている。
まちづくり	
世帯	<ul style="list-style-type: none"> 寒川町は 3 人以上の世帯が 47.8%と近隣自治体の中で最も高く、ファミリー世帯に選ばれる地域であることを PR できるポテンシャルを持っている。
居住環境	<ul style="list-style-type: none"> 公民館数の割合が近隣自治体と比較して高い水準にある。 身近な公園（住区基幹公園）の 1 人当たりの面積は、近隣自治体と比較して平均的な水準にある。

3 各種アンケート結果の再整理

(1) 寒川町の各種アンケート調査結果

ここでは、次に示す各種アンケート調査結果を整理し、転入者を含む町民の定住意識や住環境に対する評価等を把握する。

■ 分析の対象とした各種アンケート調査結果

名称	分析内容
人口減少対策のためのアンケート調査(平成 27 年 6 月～7 月実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・若年・子育て世代(20～39 歳)を抽出して分析 ①転入のきっかけ ②転入の際の他の検討市区町村 ③住宅取得をきっかけとした転入者が重視する住環境 ④住宅取得をきっかけとした転入者の定住意向
寒川町総合計画後期基本計画第 2 次実施計画策定アンケート調査(平成 26 年 4 月～5 月実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代が重要だと感じ、満足度も高い施策分野を分析
平成 25 年度すみよいまちづくりアンケート(平成 26 年 2 月実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・若年・子育て世代(20～39 歳)を抽出して分析 ①寒川町の住みよさ ②定住意向 ③住み続けたい理由 ④寒川町の良いところ ⑤日常生活の評価 ⑥寒川町が目指すべき方向
平成 27 年度都市マスタープラン改定に関する町民意識アンケート(以下「都市マスターアンケート」と言う。)(平成 28 年 2 月～3 月実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・若年・子育て世代(20～39 歳)を抽出して分析 ①通勤・通学先 ②通勤通学の交通手段 ③日常的な買い物の購入行動 ④日常的な買い物の交通手段 ⑤日常的な買い物の場所 ⑥日常的な買い物の場所への交通手段 ⑦休日の外出先 ⑧休日の外出での交通手段 ⑨医療・病院の場所 ⑩医療・病院への交通手段 ⑪地域活動やイベントへの参加状況 ⑫地域活動やイベントへ参加する際の交通手段 ⑬よく利用する公共施設 ⑭よく利用する公共施設に行く際の交通手段 ⑮寒川町の住みよさ ⑯住みよい理由 ⑰まちづくりの取組にたいする評価 ⑱寒川町の魅力

1) 人口減少対策のためのアンケート調査

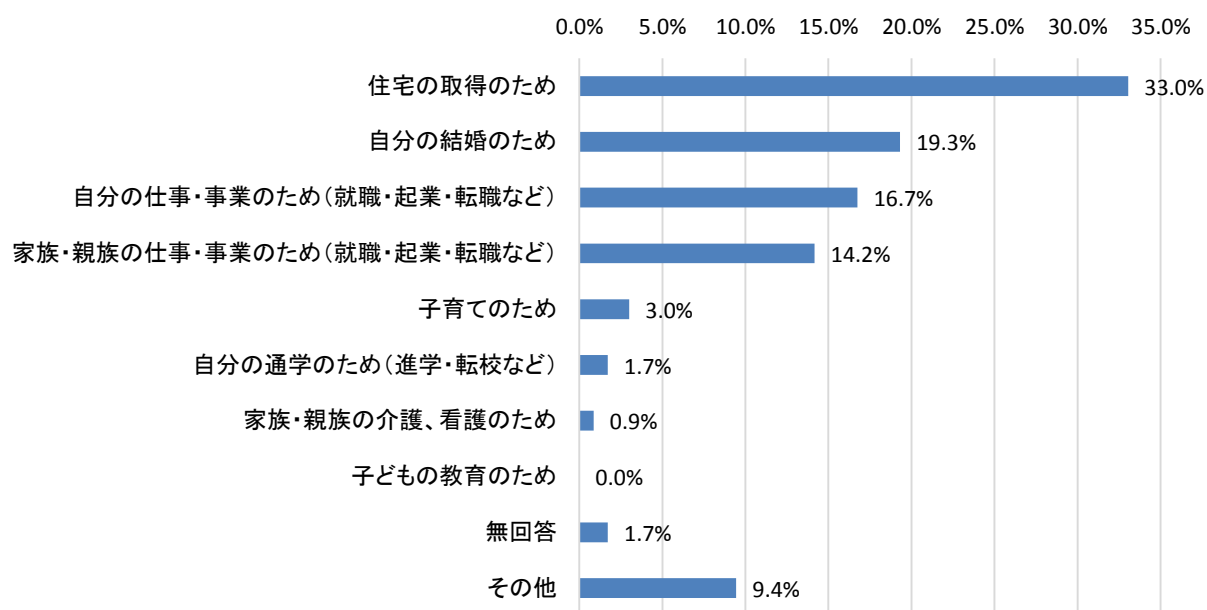
ここでは、若年・子育て世代（20～39歳）を抽出して分析を行う。

① 転入のきっかけ

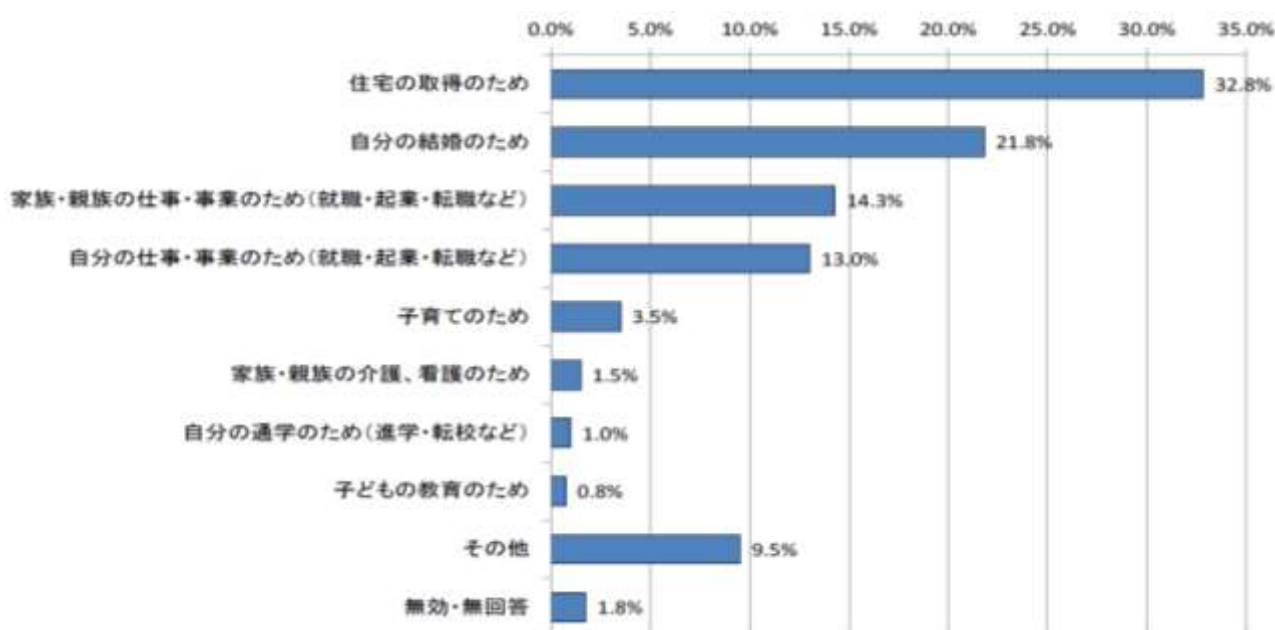
寒川町に転入したきっかけは、「住居の取得のため」が33.0%と最も多くなっている（全体と同様の傾向）。住宅取得が最も多いという点では、寒川町の住環境が評価されていると考えられる。

■ 寒川町に転入したきっかけ

<若年・子育て世代>



<全体>



<若年・子育て世代>

選択肢	回答数	割合
住宅の取得のため	77	33.0%
自分の結婚のため	45	19.3%
自分の仕事・事業のため(就職・起業・転職など)	39	16.7%
家族・親族の仕事・事業のため(就職・起業・転職など)	33	14.2%
子育てのため	7	3.0%
自分の通学のため(進学・転校など)	4	1.7%
家族・親族の介護、看護のため	2	0.9%
子どもの教育のため	0	0.0%
その他	22	9.4%
無回答	4	1.7%
回答者数	233	100.0%

<全体>

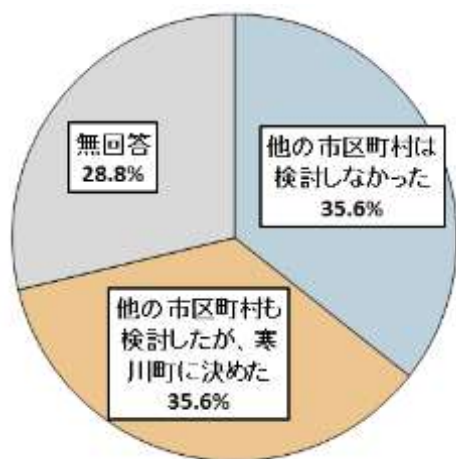
選択肢	回答数	割合
住宅の取得のため	131	32.8%
自分の結婚のため	87	21.8%
家族・親族の仕事・事業のため(就職・起業・転職など)	57	14.3%
自分の仕事・事業のため(就職・起業・転職など)	52	13.0%
子育てのため	14	3.5%
家族・親族の介護、看護のため	6	1.5%
自分の通学のため(進学・転校など)	4	1.0%
子どもの教育のため	3	0.8%
その他	38	9.5%
無効・無回答	7	1.8%
回答者数	399	100.0%

②転入の際の他の検討市区町村

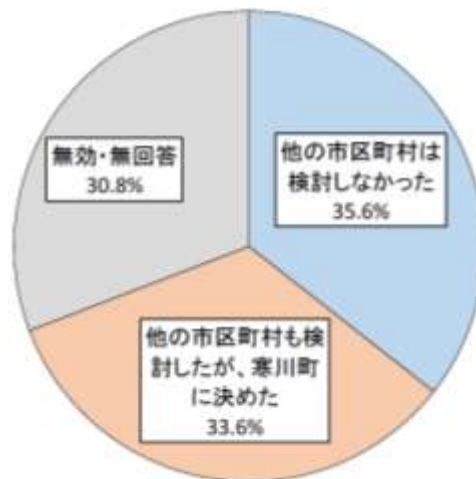
転入の際の検討市区町村は、「他の市区町村も検討したが、寒川町に決めた」が約 1/3 を占めている。他の市区町村との相対比較の中で寒川町を居住地として選択することのメリットがあることを示している。

■寒川町に転入する際の他の市区町村の検討状況

<若年・子育て世代>



<全体>



<若年・子育て世代>

選択肢	回答数	割合
他の市区町村は検討しなかった	83	35.6%
他の市区町村も検討したが、寒川町に決めた	83	35.6%
無回答	67	28.8%
回答者数	233	100.0%

<全体>

選択肢	回答数	割合
寒川町にずっと住み続けている	150	27.2%
寒川町以外の市区町村から転入した	399	72.3%
無効・無回答	3	0.5%
回答者数	552	100.0%

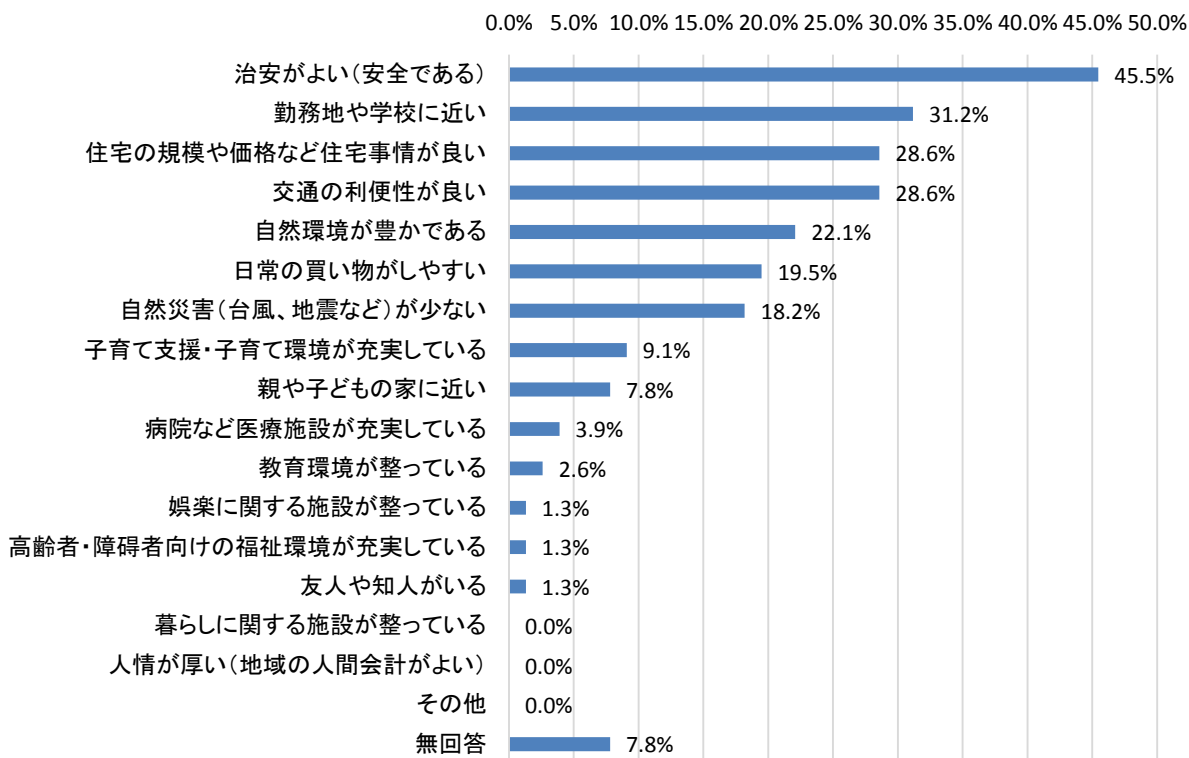
③住宅取得をきっかけとした転入者が重視する住環境

「治安がよい」が45.5%と最も多く、次いで「勤務地や学校に近い」が31.2%、「住宅規模や価格の良さ」と「交通の利便性」が28.6%、「自然環境が豊か」が22.1%となっている。住宅取得をきっかけにした転入者であることから、一般論としてではなく、転入経験を踏まえた回答であると考えられる。

上記の認識に立つと寒川町は「治安がよい」印象を持たれており、これは第4位に「自然環境が豊か」が挙げられていることを踏まえると、繁華街のような喧噪な空間がないことがプラスに評価されていると考えられる。

「勤務地や学校に近い」、「住宅規模や価格の良さ」、「交通の利便性」が上位に来ていることの解釈としては、近隣自治体に職場がある若年・子育て世代から見て、寒川町は鉄道通勤圏の範囲で、手頃な価格で住宅を取得できる点が評価されていると考えられる。

■住宅取得をきっかけに転入した若年・子育て世代が重視する環境

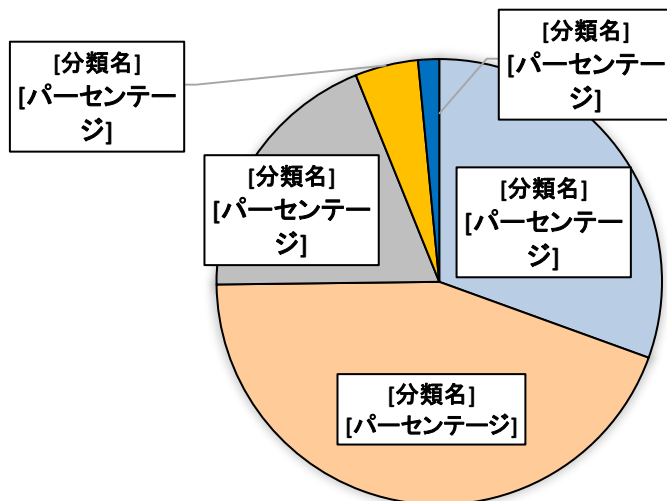


④住宅取得をきっかけとした転入者の定住意向

住宅取得をきっかけに転入した回答者の定住意向を見ると、「寒川町に住みつづけたい」、「当分の間は住みつづけたい」を合わせて74.8%が定住意向を示している。

■住宅取得をきっかけに転入した若年・子育て世代の寒川町での定住意向

＜若年・子育て世代＞



＜若年・子育て世代＞

選択肢	回答数	割合
当分の間は住みつづけたい	58	44.3%
寒川町に住みつづけたい	40	30.5%
できれば他の市区町村に転出したい	25	19.1%
他の市区町村に転出する予定である	6	4.6%
無回答	2	1.5%
回答者数	131	100.0%

⑤人口減少対策のためのアンケート調査のまとめ

若年・子育て世代（20～39歳）の寒川町の住環境に対する意識等を以下に整理する。

転入のきっかけ	<ul style="list-style-type: none">・住宅取得をきっかけとした転入が 1/3 を占めており、寒川町の住環境が評価されていると考えられる。
転入の際の他の検討市区町村	<ul style="list-style-type: none">・「他の市区町村も検討したが、寒川町に決めた」が約 1/3 を占めており、積極的に寒川町を選択していると捉えることができる。・他の市区町村との相対比較の中で寒川町を居住地として選択することのメリットがあると考えられる。
住宅取得者が重視する住環境	<ul style="list-style-type: none">・「治安が良い」や「自然環境が豊か」が上位に挙げられていることから、繁華街のような喧噪な空間がないことがプラスに評価されていると考えられる。・「勤務地や学校に近い」、「住宅規模や価格の良さ」、「交通の利便性」が上位に挙げられていることから、近隣に職場がある方から見て、寒川町は鉄道通勤圏の範囲で、手頃な価格で住宅を取得できる点が評価されていると考えられる。
住宅取得者の定住意向	<ul style="list-style-type: none">・「寒川町に住みつづけたい」、「当分の間は住みつづけたい」という回答者が約 75%おり、寒川町に定住意向を示していた。

2) 寒川町総合計画後期基本計画第2次実施計画策定アンケート調査

ここでは、子育て世代が重要だと感じ、満足度も高い施策分野について分析を行う。

当該施策分野では、「下水道の整備」、「河川の整備」、「公害の防止」、「リサイクル活動」、「ごみ処理体制」が挙げられており、生活環境の良さが評価されている。

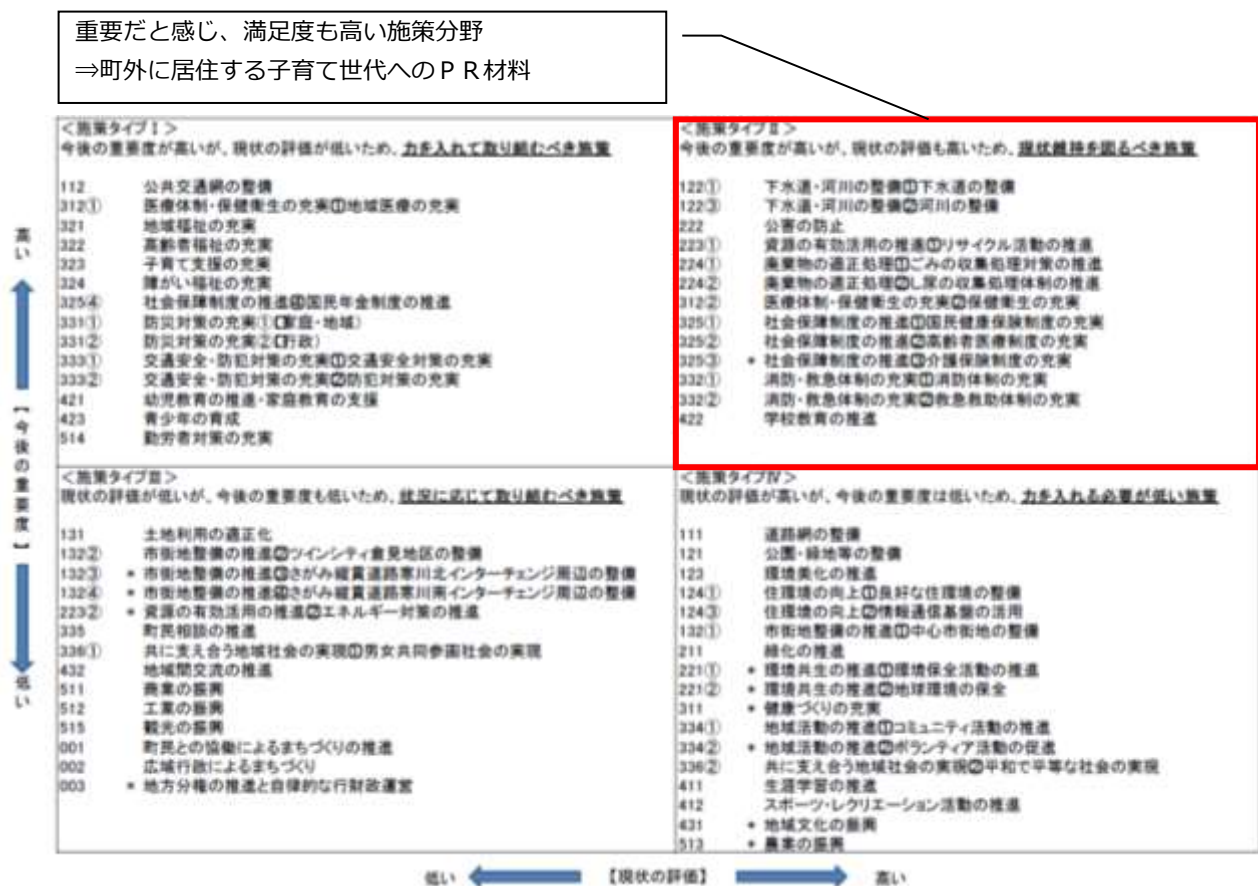
「保健衛生の充実」、「国民健康保険制度の充実」、「高齢者医療制度の充実」、「介護保険制度の充実」が挙げられており、こうした高齢者向けの施策分野が評価されているということは、子育て世代にとって、寒川町が将来のライフステージ（老後等）の居住の場として安心感をもたれていると考えられる。

「消防体制の充実」、「救急救助体制の充実」が挙げられており、暮らしの安心に関わる施策分野が評価されていると言える。

「学校教育」が挙げられており、子どもの教育面でも評価されていると言える。

全体を通して見ると、生活に密着した基礎的な施策分野は総じて評価が高い傾向にあることから、それに加えて手頃な価格で住宅が取得可能であるなどのPRを行うことができる。

■ 子育て世代の施策タイプ分類



3) 平成 25 年度すみよいまちづくりアンケート

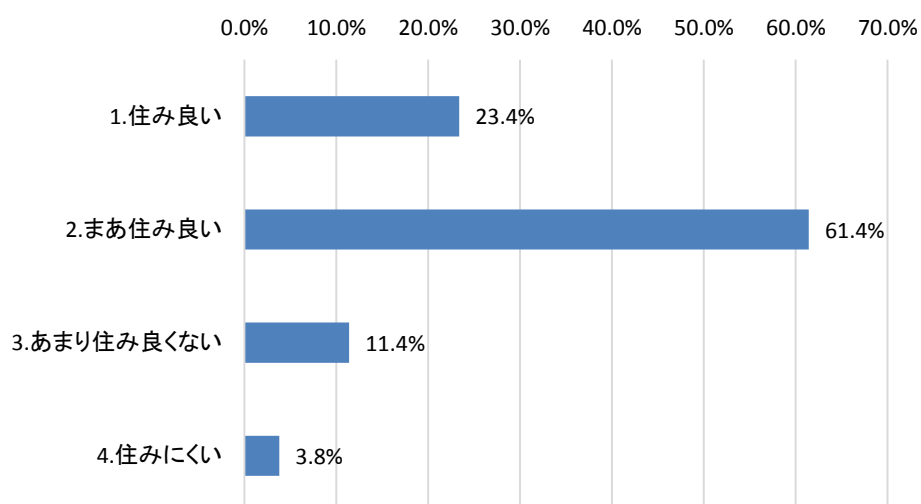
ここでは、若年・子育て世代（20～39 歳）を抽出して分析を行う。

① 寒川町の住みよさ

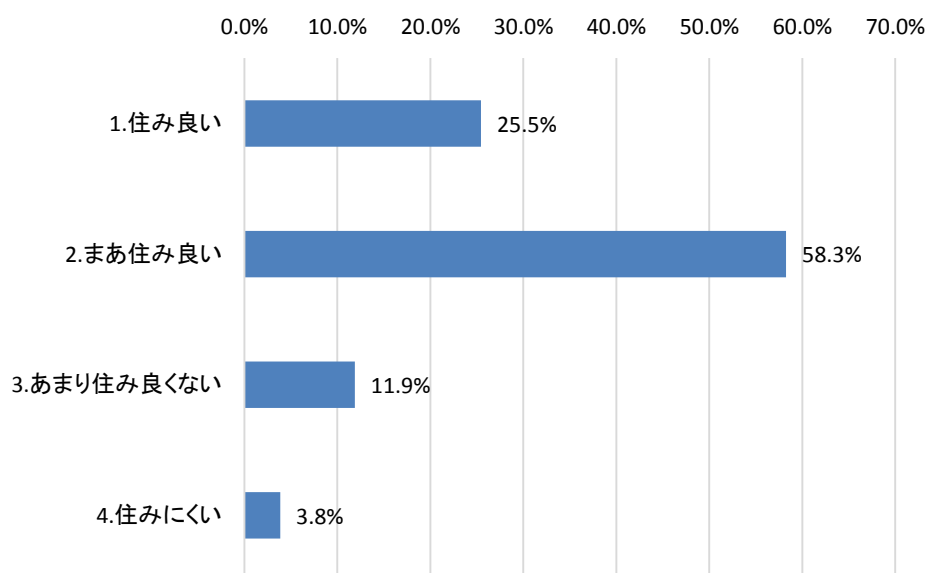
約 85%が住み良いと感じており、寒川町は住み良い町であると認識されている。

■ 寒川町の住みよさ

<若年・子育て世代>



<全体>



<若年・子育て世代>

選択肢	回答数	割合
1. 住み良い	43	23.4%
2. まあ住み良い	113	61.4%
3. あまり住み良くない	21	11.4%
4. 住みにくい	7	3.8%
無回答・無効	0	0.0%
回答者数	184	100.0%

<全体>

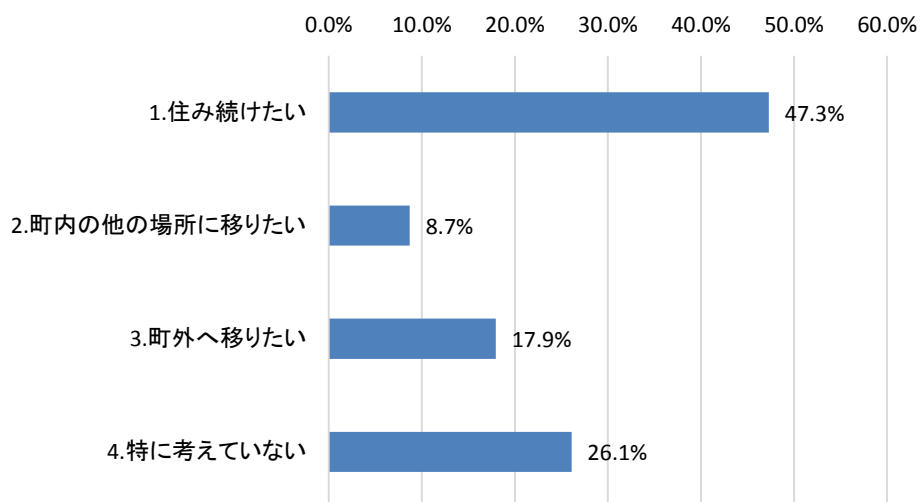
選択肢	回答数	割合
1. 住み良い	225	25.5%
2. まあ住み良い	515	58.3%
3. あまり住み良くない	105	11.9%
4. 住みにくい	34	3.8%
無回答・無効	5	0.6%
回答者数	884	100.0%

②定住意向

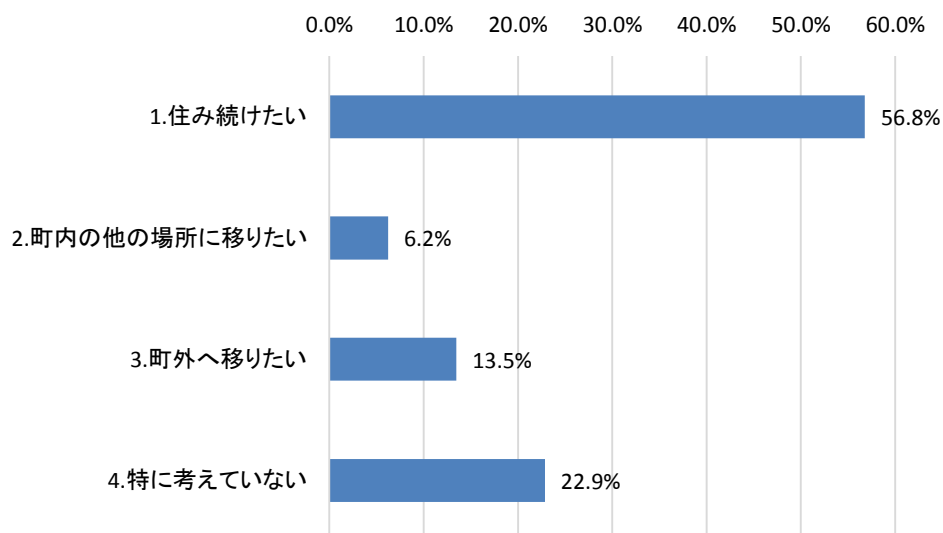
寒川町内に「住み続けたい」、「町内の他の場所に移りたい」が56%であり、若年・子育て世代の過半が1/2以上が寒川町内に定住意向を示している。

■寒川町内に住み続けたいかどうか

<若年・子育て世代>



<全体>



<若年・子育て世代>

選択肢	回答数	割合
1. 住み続けたい	87	47.3%
2. 町内の他の場所に移りたい	16	8.7%
3. 町外へ移りたい	33	17.9%
4. 特に考えていない	48	26.1%
無回答・無効	0	0.0%
回答者数	184	100.0%

<全体>

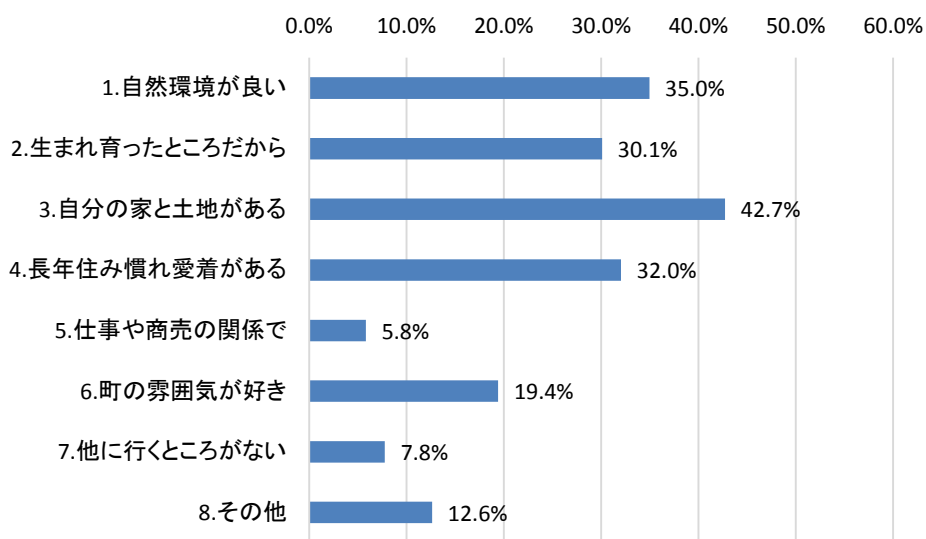
選択肢	回答数	割合
1. 住み続けたい	502	56.8%
2. 町内の他の場所に移りたい	55	6.2%
3. 町外へ移りたい	119	13.5%
4. 特に考えていない	202	22.9%
無回答・無効	6	0.7%
回答者数	884	100.0%

③ 住み続けたい理由

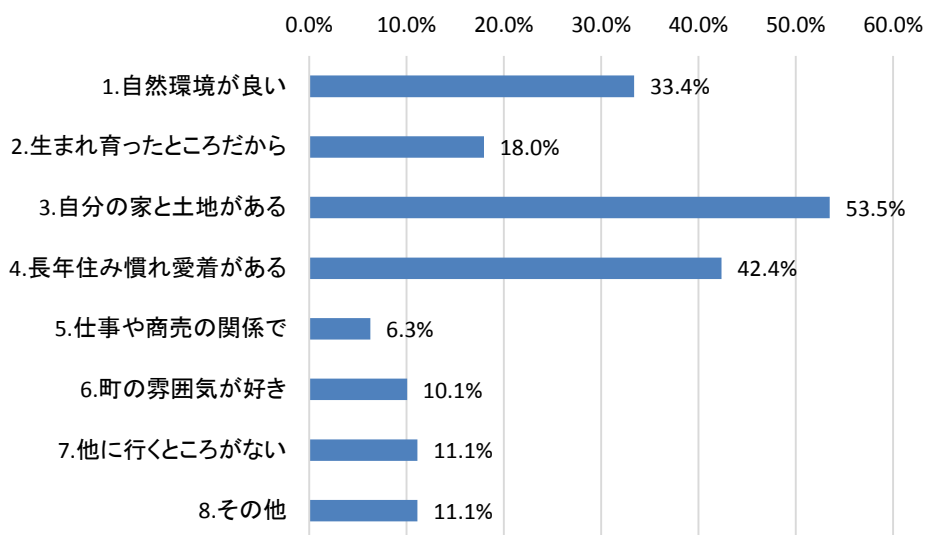
若年・子育て世代(20～39歳)において、「自分の家と土地がある」が42.7%と最も高く、次いで「自然環境が良い」が35.0%、「長年住み慣れ愛着がある」が32.0%、「生まれ育ったところだから」が30.1%の順となっている。居住環境面では、自然環境の良さが定住意向に好影響を与えている。

■ 寒川町内に住み続けたい理由（複数回答）

<若年・子育て世代>



<全体>



<若年・子育て世代>

選択肢	回答数	割合
1. 自然環境が良い	36	35.0%
2. 生まれ育ったところだから	31	30.1%
3. 自分の家と土地がある	44	42.7%
4. 長年住み慣れ愛着がある	33	32.0%
5. 仕事や商売の関係で	6	5.8%
6. 町の雰囲気が好き	20	19.4%
7. 他に行くところがない	8	7.8%
8. その他	13	12.6%
無回答・無効	15	14.6%
回答者数	103	-
※複数回答(2つ以内)		

<全体>

選択肢	回答数	割合
1. 自然環境が良い	186	33.4%
2. 生まれ育ったところだから	100	18.0%
3. 自分の家と土地がある	298	53.5%
4. 長年住み慣れ愛着がある	236	42.4%
5. 仕事や商売の関係で	35	6.3%
6. 町の雰囲気が好き	56	10.1%
7. 他に行くところがない	62	11.1%
8. その他	41	11.1%
無回答・無効	100	18.0%
回答者数	557	-
※複数回答(2つ以内)		

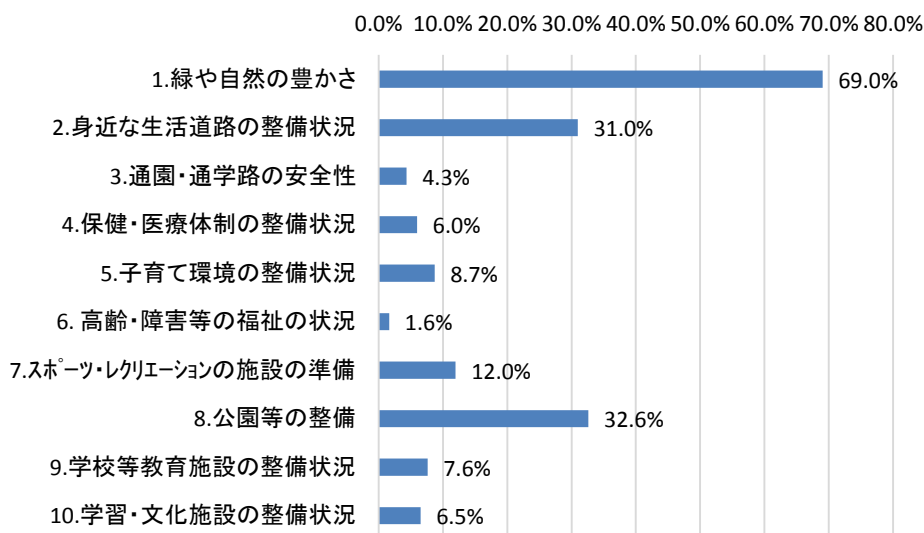
④寒川町の良いところ

若年・子育て世代(20～39歳)が町の良いところと評価しているのは、「緑や自然の豊かさ」が最も高く 69.0%、次いで「公園等の整備」が 32.6%、「身近な生活道路の整備状況」が 31.0% である。

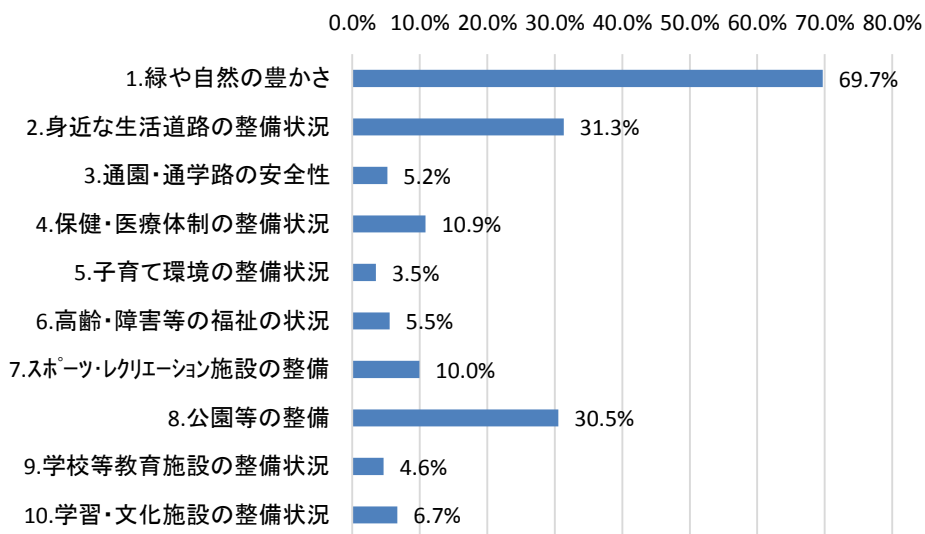
前述の分析において、身近な公園である住区基幹公園の1人当たりの面積を近隣自治体と比較した場合、寒川町は平均的な水準であったが、良いところとして「公園等の整備」が挙げられている要因として、さむかわ中央公園などの特徴的な公園の整備が良い印象を与えていると考えられる。

■寒川町の良いところ（複数回答）

<若年・子育て世代>



<全体>



<若年・子育て世代>

選択肢	回答数	割合
1. 緑や自然の豊かさ	127	69.0%
2. 身近な生活道路の整備状況	57	31.0%
3. 通園・通学路の安全性	8	4.3%
4. 保健・医療体制の整備状況	11	6.0%
5. 子育て環境の整備状況	16	8.7%
6. 高齢・障害等の福祉の状況	3	1.6%
7. スポーツ・レクリエーションの施設の準備	22	12.0%
8. 公園等の整備	60	32.6%
9. 学校等教育施設の整備状況	14	7.6%
10. 学習・文化施設の整備状況	12	6.5%
無回答・無効	222	120.7%
回答者数	184	-
※複数回答(3つ以内)		

<全体>

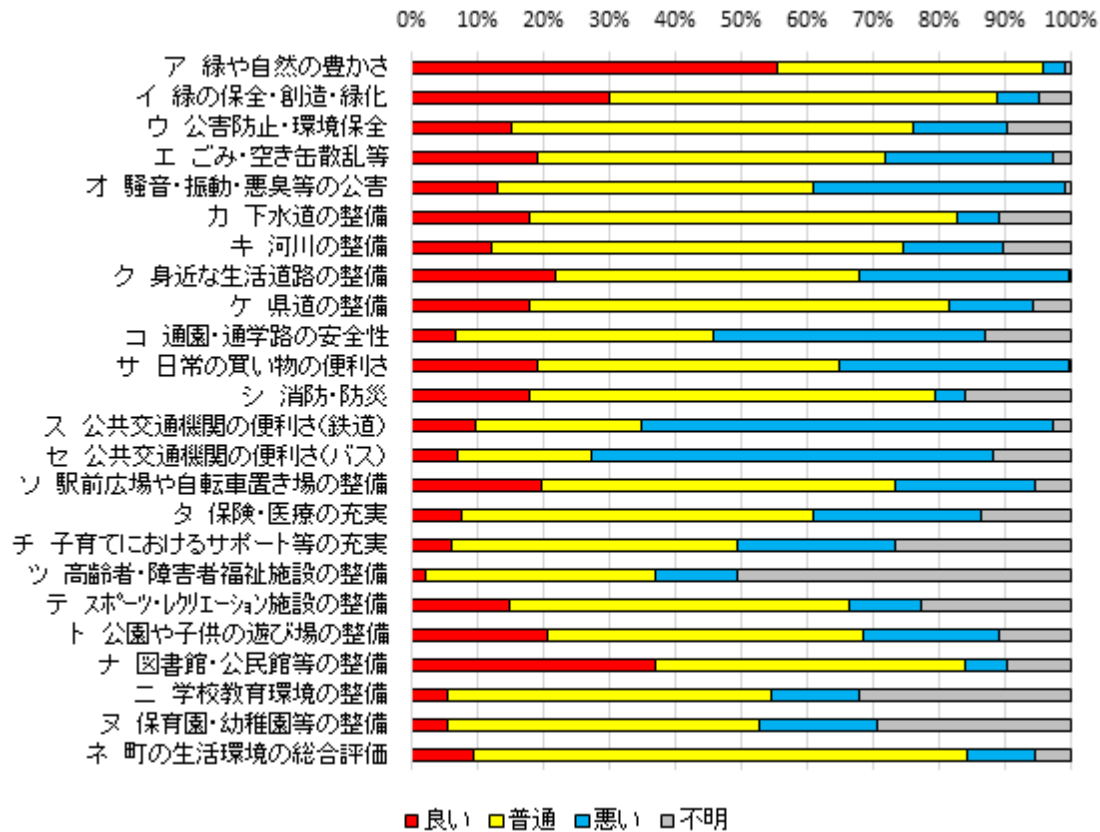
選択肢	回答数	割合
1. 緑や自然の豊かさ	616	69.7%
2. 身近な生活道路の整備状況	277	31.3%
3. 通園・通学路の安全性	46	5.2%
4. 保健・医療体制の整備状況	96	10.9%
5. 子育て環境の整備状況	31	3.5%
6. 高齢・障害等の福祉の状況	49	5.5%
7. スポーツ・レクリエーション施設の整備	88	10.0%
8. 公園等の整備	270	30.5%
9. 学校等教育施設の整備状況	41	4.6%
10. 学習・文化施設の整備状況	59	6.7%
無回答・無効	1079	122.1%
回答者数	884	-
※複数回答(3つ以内)		

⑤日常生活の評価

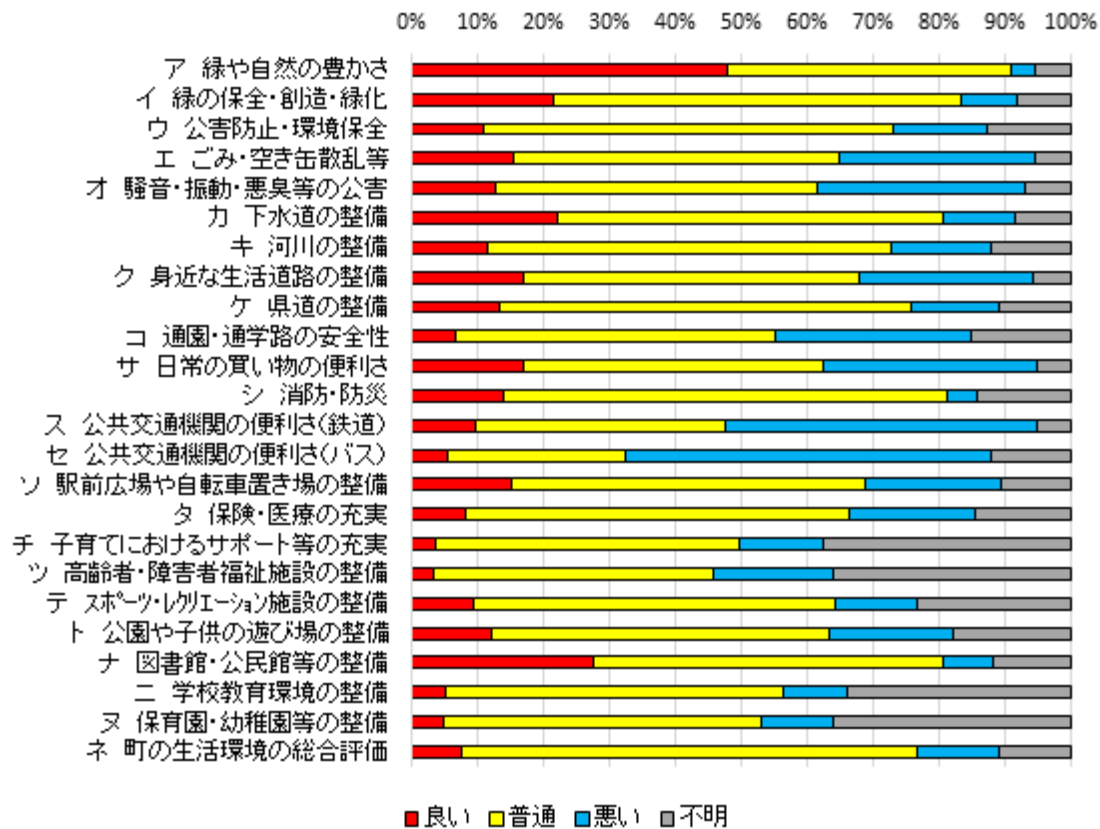
若年・子育て世代(20～39歳)において、日常生活の中で良いと感じていることは、「緑や自然の豊かさ」が55.4%と最も高く、次いで「図書館・公民館などの整備」が37.0%、「緑の保全・創造・緑化」が29.9%の順となっている。これまでの設問の回答結果も踏まえると、寒川町の自然の豊かさや緑・自然の保全是好印象を与えている。また、図書館・公民館の整備についても評価されている。

■寒川町の日常生活について感じること

<若年・子育て世代>



<全体>



<若年・子育て世代>

設問	良い	普通	悪い	不明
ア 緑や自然の豊かさ	55.4%	40.2%	3.3%	1.1%
イ 緑の保全・創造・緑化	29.9%	58.7%	6.5%	4.9%
ウ 公害防止・環境保全	15.2%	60.9%	14.1%	9.8%
エ ごみ・空き缶散乱等	19.0%	52.7%	25.5%	2.7%
オ 騒音・振動・悪臭等の公害	13.0%	47.8%	38.0%	1.1%
カ 下水道の整備	17.9%	64.7%	6.5%	10.9%
キ 河川の整備	12.0%	62.5%	15.2%	10.3%
ク 身近な生活道路の整備	21.7%	46.2%	31.5%	0.5%
ケ 県道の整備	17.9%	63.6%	12.5%	6.0%
コ 通園・通学路の安全性	6.5%	39.1%	41.3%	13.0%
サ 日常の買い物の便利さ	19.0%	45.7%	34.8%	0.5%
シ 消防・防災	17.9%	61.4%	4.3%	16.3%
ス 公共交通機関の便利さ（鉄道）	9.8%	25.0%	62.5%	2.7%
セ 公共交通機関の便利さ（バス）	7.1%	20.1%	60.9%	12.0%
ソ 駅前広場や自転車置き場の整備	19.6%	53.8%	21.2%	5.4%
タ 保険・医療の充実	7.6%	53.3%	25.5%	13.6%
チ 子育てにおけるサポート等の充実	6.0%	43.5%	23.9%	26.6%
ツ 高齢者・障害者福祉施設の整備	2.2%	34.8%	12.5%	50.5%
テ スポーツ・レクリエーション施設の整備	14.7%	51.6%	10.9%	22.8%
ト 公園や子供の遊び場の整備	20.7%	47.8%	20.7%	10.9%
ナ 図書館・公民館等の整備	37.0%	46.7%	6.5%	9.8%
ニ 学校教育環境の整備	5.4%	48.9%	13.6%	32.1%
ヌ 保育園・幼稚園等の整備	5.4%	47.3%	17.9%	29.3%
ネ 町の生活環境の総合評価	9.2%	75.0%	10.3%	5.4%

<全体>

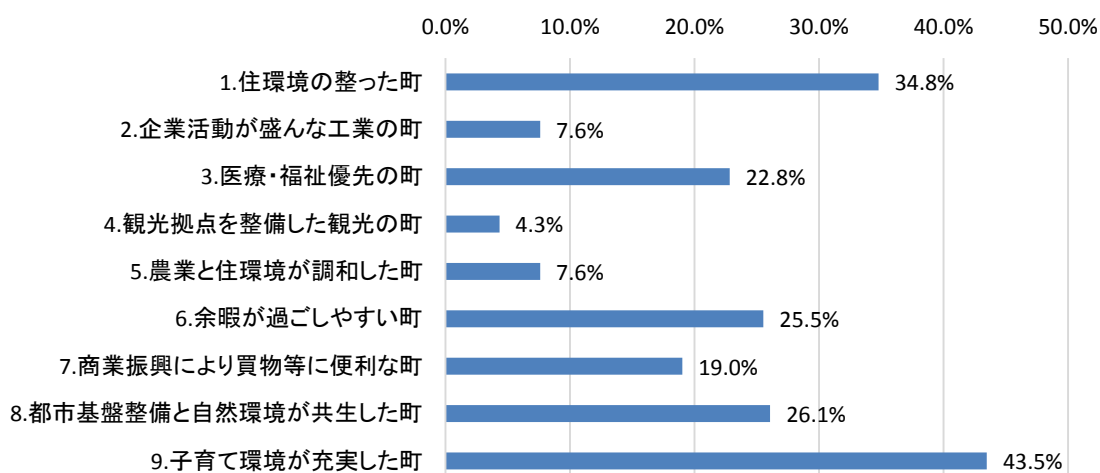
設問	良い	普通	悪い	不明
ア 緑や自然の豊かさ	47.7%	43.2%	3.6%	5.4%
イ 緑の保全・創造・緑化	21.5%	61.9%	8.5%	8.1%
ウ 公害防止・環境保全	10.7%	62.1%	14.4%	12.8%
エ ごみ・空き缶散乱等	15.5%	49.3%	29.5%	5.7%
オ 騒音・振動・悪臭等の公害	12.6%	49.0%	31.4%	7.0%
カ 下水道の整備	22.1%	58.6%	10.9%	8.5%
キ 河川の整備	11.5%	61.1%	15.0%	12.3%
ク 身近な生活道路の整備	17.0%	50.8%	26.4%	5.9%
ケ 県道の整備	13.3%	62.4%	13.3%	10.9%
コ 通園・通学路の安全性	6.7%	48.4%	29.5%	15.4%
サ 日常の買い物の便利さ	17.0%	45.4%	32.5%	5.2%
シ 消防・防災	14.0%	67.1%	4.4%	14.5%
ス 公共交通機関の便利さ（鉄道）	9.7%	37.8%	47.3%	5.2%
セ 公共交通機関の便利さ（バス）	5.4%	26.8%	55.5%	12.2%
ソ 駅前広場や自転車置き場の整備	15.0%	53.5%	20.8%	10.6%
タ 保険・医療の充実	8.3%	57.9%	19.1%	14.7%
チ 子育てにおけるサポート等の充実	3.7%	46.0%	12.4%	37.8%
ツ 高齢者・障害者福祉施設の整備	3.3%	42.5%	18.1%	36.1%
テ スポーツ・レクリエーション施設の整備	9.5%	54.5%	12.6%	23.4%
ト 公園や子供の遊び場の整備	12.2%	50.9%	18.8%	18.1%
ナ 図書館・公民館等の整備	27.5%	52.9%	7.7%	11.9%
ニ 学校教育環境の整備	5.0%	51.2%	9.7%	34.0%
ヌ 保育園・幼稚園等の整備	4.8%	48.3%	10.7%	36.2%
ネ 町の生活環境の総合評価	7.6%	69.1%	12.4%	10.9%

⑥寒川町が目指すべき方向

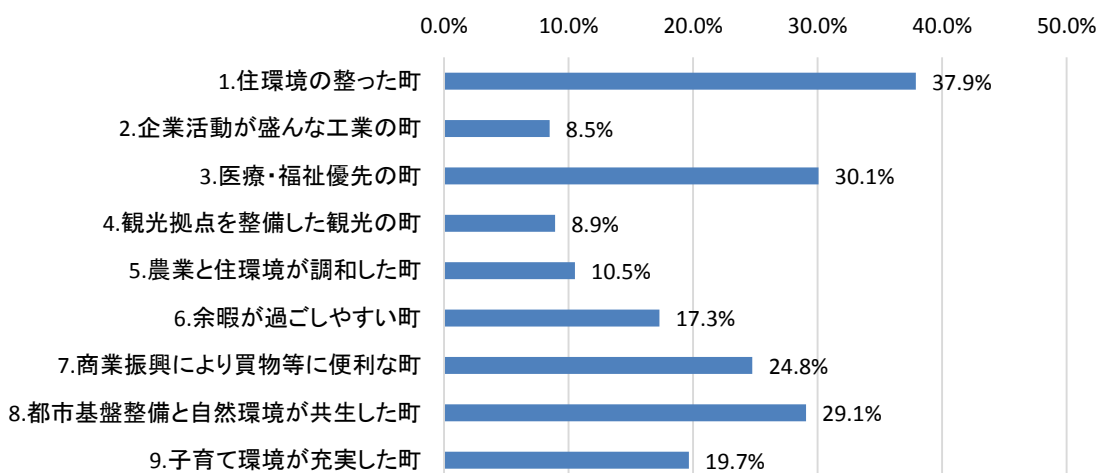
若年・子育て世代では、「子育て環境が充実した町」が43.5%と最も高く、次いで「住環境の整った町」が34.8%、「都市基盤整備と自然環境が共生した町」が26.1%、「余暇が過ごしやすい町」が25.5%、「医療・福祉優先の町」が22.8%の順となっている。若年・子育て世代は身近な生活環境の向上に対して期待していると言える。

■寒川町が目指すべき方向（複数可五男）

<若年・子育て世代>



<全体>



<若年・子育て世代>

選択肢	回答数	割合
1. 住環境の整った町	64	34.8%
2. 企業活動が盛んな工業の町	14	7.6%
3. 医療・福祉優先の町	42	22.8%
4. 観光拠点を整備した観光の町	8	4.3%
5. 農業と住環境が調和した町	14	7.6%
6. 余暇が過ごしやすい町	47	25.5%
7. 商業振興により買物等に便利な町	35	19.0%
8. 都市基盤整備と自然環境が共生した町	48	26.1%
9. 子育て環境が充実した町	80	43.5%
無回答・無効	16	8.7%
回答者数	184	-
※複数回答(2つ以内)		

<全体>

選択肢	回答数	割合
1. 住環境の整った町	335	37.9%
2. 企業活動が盛んな工業の町	75	8.5%
3. 医療・福祉優先の町	266	30.1%
4. 観光拠点を整備した観光の町	79	8.9%
5. 農業と住環境が調和した町	93	10.5%
6. 余暇が過ごしやすい町	153	17.3%
7. 商業振興により買物等に便利な町	219	24.8%
8. 都市基盤整備と自然環境が共生した町	257	29.1%
9. 子育て環境が充実した町	174	19.7%
無回答・無効	117	13.2%
回答者数	884	-
※複数回答(2つ以内)		

⑦平成 25 年度すみよいまちづくりアンケートのまとめ

若年・子育て世代（20～39 歳）の寒川町の住環境に対する意識等を以下に整理する。

寒川町の住みよさ	・約 85%が住み良いと感じており、寒川町に住みよさを感じていると考えられる。
定住意向	・現在の場所に「住み続けたい」と「町内の他も場所に移りたい」を合わせて 56%が寒川町内に定住意向を示している。
寒川町での定住意向者の定住理由	・「自分の家と土地がある」が最も多く、それに次いで「自然環境の良さ」が定住意向に好影響を与えている。
寒川町の良さ	・「緑や自然の豊かさ」が最も支持され、その他、「公園等の整備」も好印象を与えていると考えられる。
寒川町の日常生活の評価	・寒川町の自然の豊かさや緑・自然の保全、図書館・公民館の整備に対する評価が高い。
寒川町が目指すべき方向	・子育て環境の充実や住環境が整った町など、身近な生活環境の向上に期待していると考えられる。

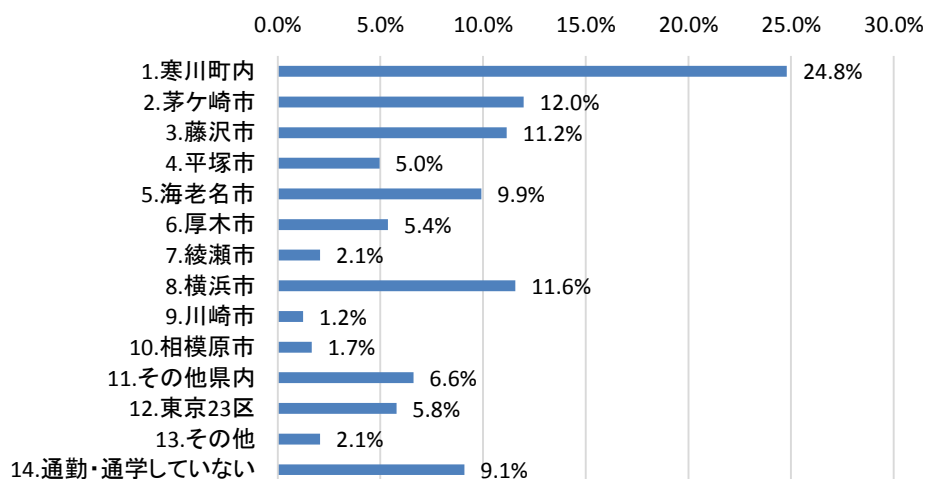
4) 都市マスアンケート

ここでは、若年・子育て世代（20～39歳）を抽出して分析を行う。

①通勤・通学

若年・子育て世代の通勤・通学場所を見ると、町内が最も多いが、茅ヶ崎市、藤沢市、海老名市へも10%程度が通勤・通学している。

■通勤・通学などの日常的な行き先

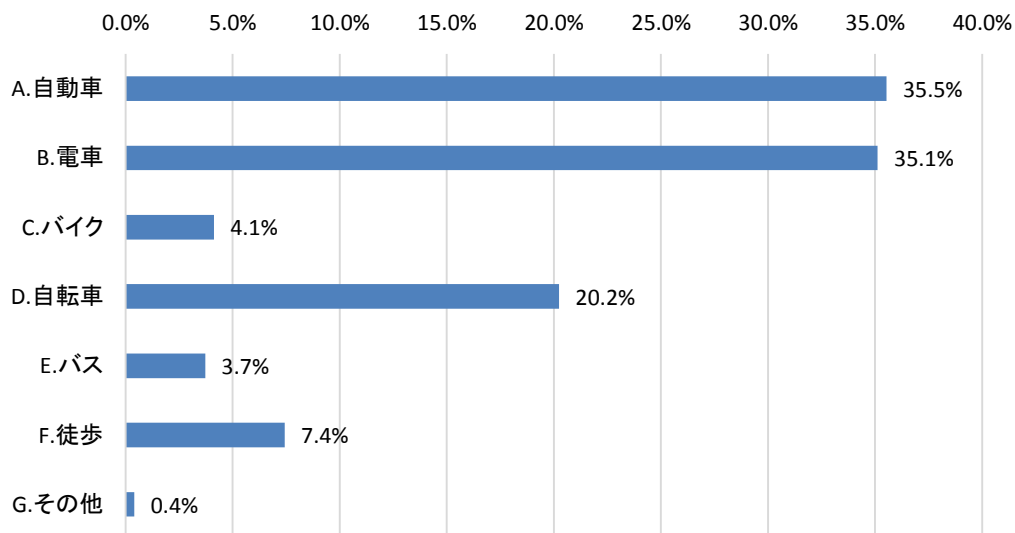


選択肢	回答数	割合
1.寒川町内	60	24.8%
2.茅ヶ崎市	29	12.0%
3.藤沢市	27	11.2%
4.平塚市	12	5.0%
5.海老名市	24	9.9%
6.厚木市	13	5.4%
7.綾瀬市	5	2.1%
8.横浜市	28	11.6%
9.川崎市	3	1.2%
10.相模原市	4	1.7%
11.その他県内	16	6.6%
12.東京23区	14	5.8%
13.その他	5	2.1%
14.通勤・通学していない	22	9.1%
回答者数	242	-
※複数回答可		

②通勤・通学の交通手段

通勤・通学の交通手段は、自動車と電車がともに 35%程度で多い。自動車による交通移動が多いことから、通勤・通学において鉄道の利便性が必ずしも影響しないと考えられる。

■通勤・通学などの日常的な行き先への交通手段



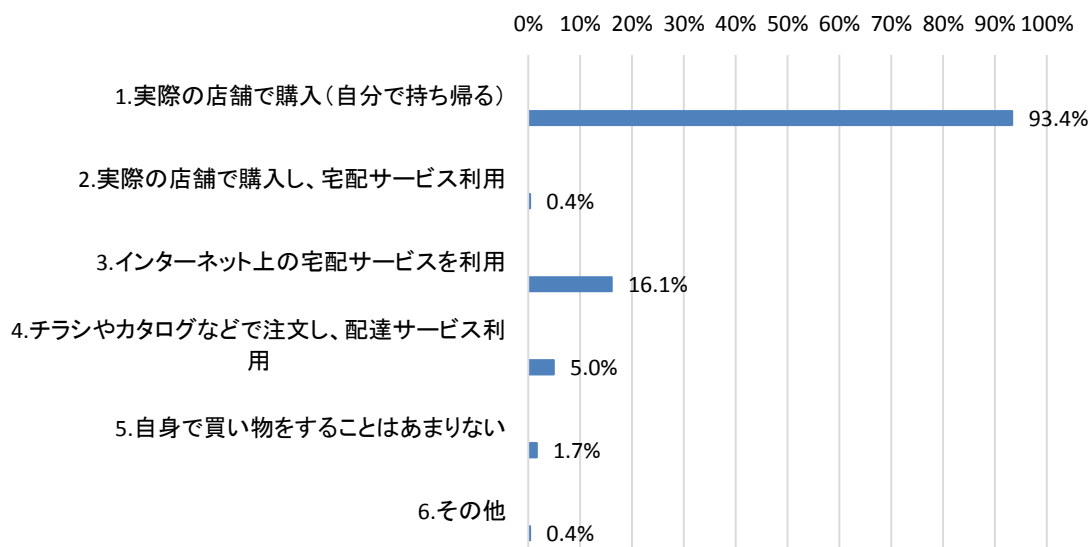
選択肢	回答数	割合
A.自動車	86	35.5%
B.電車	85	35.1%
C.バイク	10	4.1%
D.自転車	49	20.2%
E.バス	9	3.7%
F.徒歩	18	7.4%
G.その他	1	0.4%
回答者数	242	-
※複数回答可		

③日常的な買物の購入行動

日常的な買物購入については、ほとんどが実際の店舗で購入し、自分で購入品を持ち帰っている。

近年普及しているインターネット上の宅配サービスの利用は 16.1%となっている。インターネットショッピング等を利用することで身近に量販店や大きなスーパー等がなくても買物ができると感じている町民もいると考えられる。

■ 日常的な買物の購入行動について

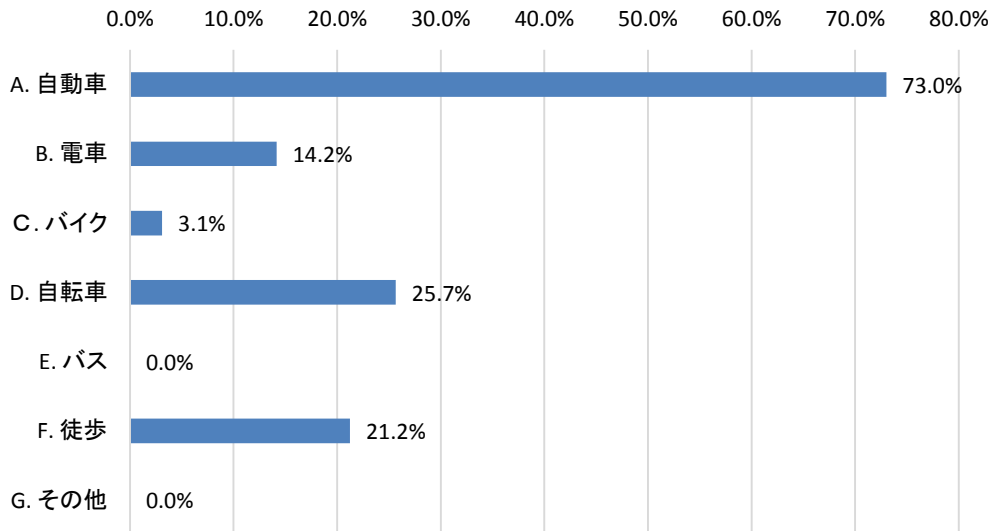


選択肢	回答数	割合
1.実際の店舗で購入(自分で持ち帰る)	226	93.4%
2.実際の店舗で購入し、宅配サービス利用	1	0.4%
3.インターネット上の宅配サービスを利用	39	16.1%
4.チラシやカタログなどで注文し、配達サービス利用	12	5.0%
5.自身で買い物をするのはあまりない	4	1.7%
6.その他	1	0.4%
回答者数	242	-
※複数回答可		

④ 日常的な買物の購入行動をするにあたっての交通手段

日常的な買物には、73.0%が自動車を利用しており、日常的な買物には、公共交通の利便性が影響を与えないと考えられる。

■ 日常的な買物の購入行動をするにあたっての交通手段



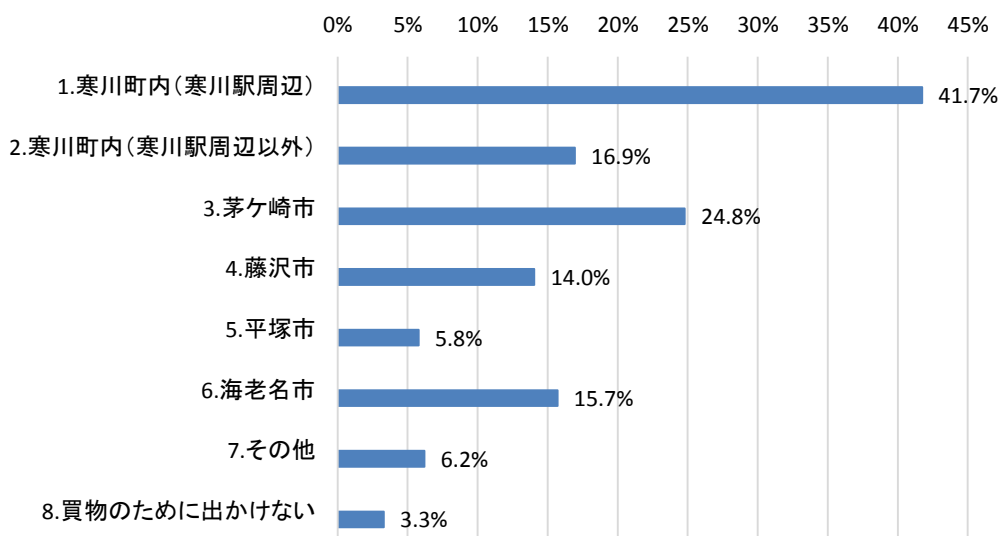
<若年・子育て世代>

選択肢	回答数	割合
A. 自動車	165	73.0%
B. 電車	32	14.2%
C. バイク	7	3.1%
D. 自転車	58	25.7%
E. バス	0	0.0%
F. 徒歩	48	21.2%
G. その他	0	0.0%
回答者数	226	-
※複数回答可		

⑤ 日常的な買い物場所

日常的な買物を寒川町内でする割合は約 59%であり、そのうち寒川駅周辺の店舗の利用者は41.7%である。また、寒川町以外の様々な近隣都市も利用されている。

■ 日常的な買物をする店舗等がある場所



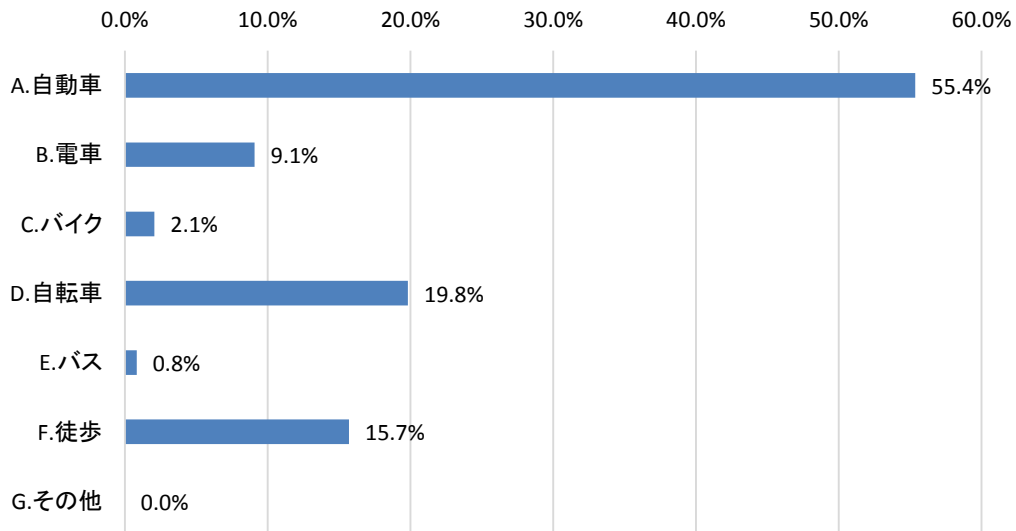
選択肢	回答数	割合
1. 寒川町内(寒川駅周辺)	101	41.7%
2. 寒川町内(寒川駅周辺以外)	41	16.9%
3. 茅ヶ崎市	60	24.8%
4. 藤沢市	34	14.0%
5. 平塚市	14	5.8%
6. 海老名市	38	15.7%
7. その他	15	6.2%
8. 買物のために出かけない	8	3.3%
回答者数	242	-
※複数回答可		

⑥ 日常的な買物をする店舗等がある場所に行く際に使用する交通手段

日常的な買物をする際の交通手段は、「自動車」が約 55%、「自転車」が約 20%、「徒歩」が約 16%であり、日常的な買物をする際に公共交通を利用する割合は 1 割未満である。

■ 日常的な買物をする店舗等がある場所に行く際に使用する交通手段

<若年・子育て世代>



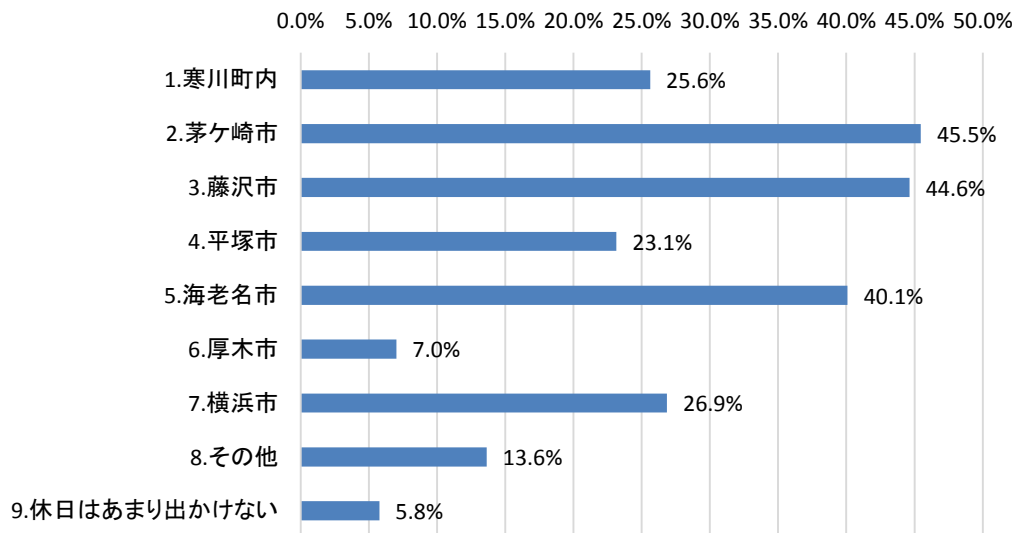
<若年・子育て世代>

選択肢	回答数	割合
A.自動車	134	55.4%
B.電車	22	9.1%
C.バイク	5	2.1%
D.自転車	48	19.8%
E.バス	2	0.8%
F.徒歩	38	15.7%
G.その他	0	0.0%
回答者数	242	-
※複数回答可		

⑦ 休日の外出先

休日などによく行く外出先は、寒川町内よりも近隣都市が多く、その中でも 40%以上が茅ヶ崎市、藤沢市、海老名市に外出している。

■ 休日の外出先

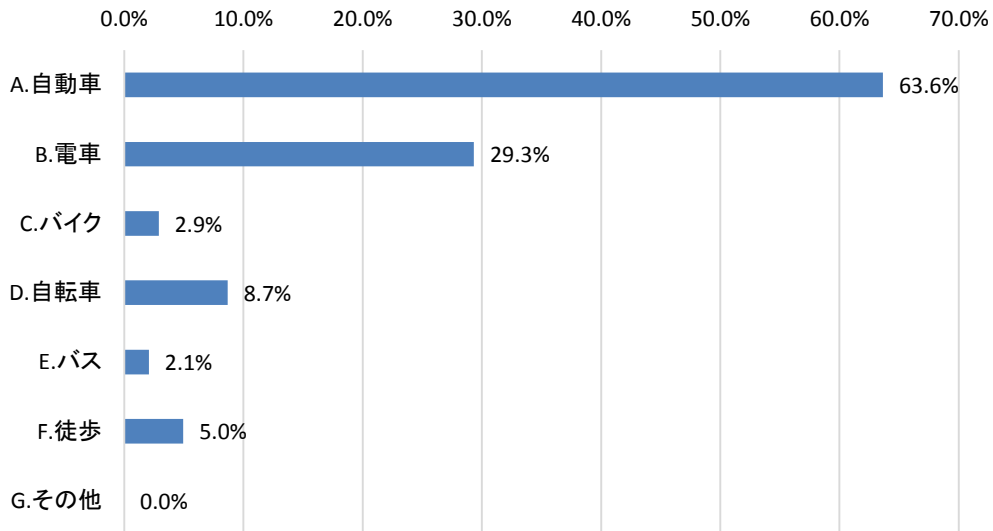


選択肢	回答数	割合
1.寒川町内	62	25.6%
2.茅ヶ崎市	110	45.5%
3.藤沢市	108	44.6%
4.平塚市	56	23.1%
5.海老名市	97	40.1%
6.厚木市	17	7.0%
7.横浜市	65	26.9%
8.その他	33	13.6%
9.休日はあまり出かけない	14	5.8%
回答者数	242	-
※複数回答可		

⑧ 休日の外出での交通手段

交通手段で最も多いのは自動車で 63.6%、次いで電車が 29.3%となっている。

■ 休日などによく行く外出先への交通手段

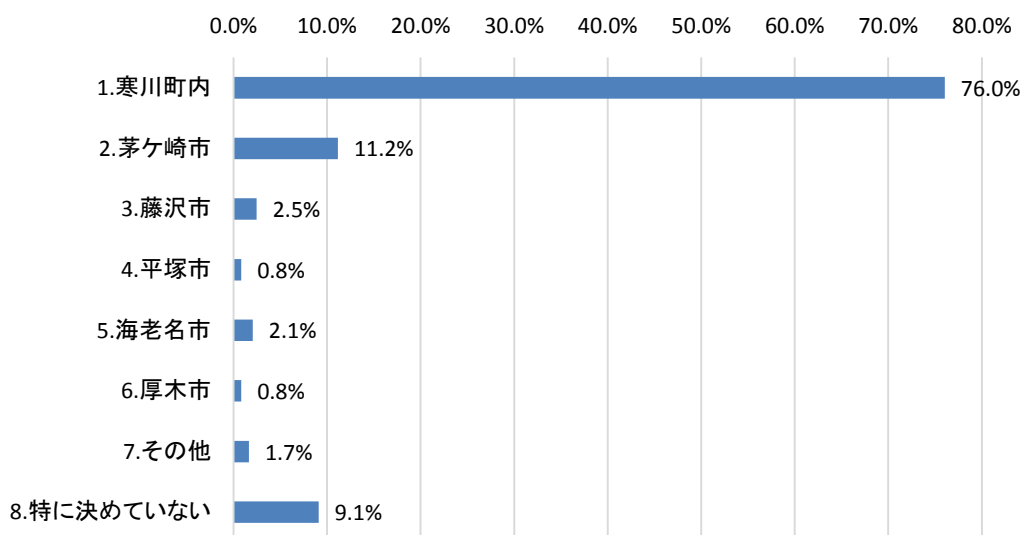


選択肢	回答数	割合
A.自動車	154	63.6%
B.電車	71	29.3%
C.バイク	7	2.9%
D.自転車	21	8.7%
E.バス	5	2.1%
F.徒歩	12	5.0%
G.その他	0	0.0%
回答者数	242	-
※複数回答可		

⑨ 医院・病院の場所

風邪等の時に見てもらう医院・病院等は、76%が寒川町内の施設を利用している。

■ 風邪等の時に見てもらう医院・病院の場所

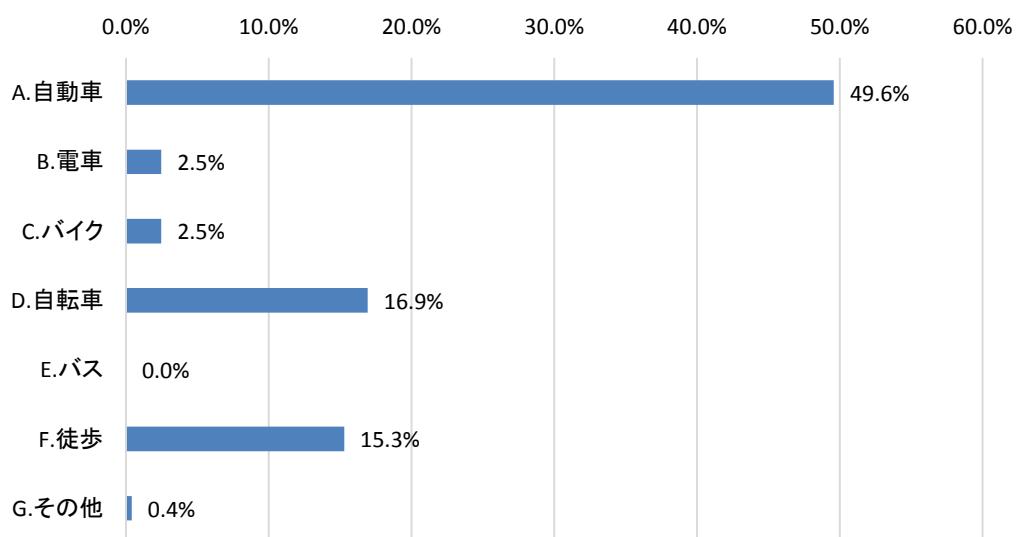


選択肢	回答数	割合
1.寒川町内	184	76.0%
2.茅ヶ崎市	27	11.2%
3.藤沢市	6	2.5%
4.平塚市	2	0.8%
5.海老名市	5	2.1%
6.厚木市	2	0.8%
7.その他	4	1.7%
8.特に決めていない	22	9.1%
回答者数	242	-
※複数回答可		

⑩ 医院・病院への交通手段

交通手段は、自動車の利用が 49.6%と最も多く、次いで自転車が 16.9%、徒歩が 15.3%の順になっている。

■ 風邪等の時に見てもらう医院・病院の場所へ行く際の交通手段

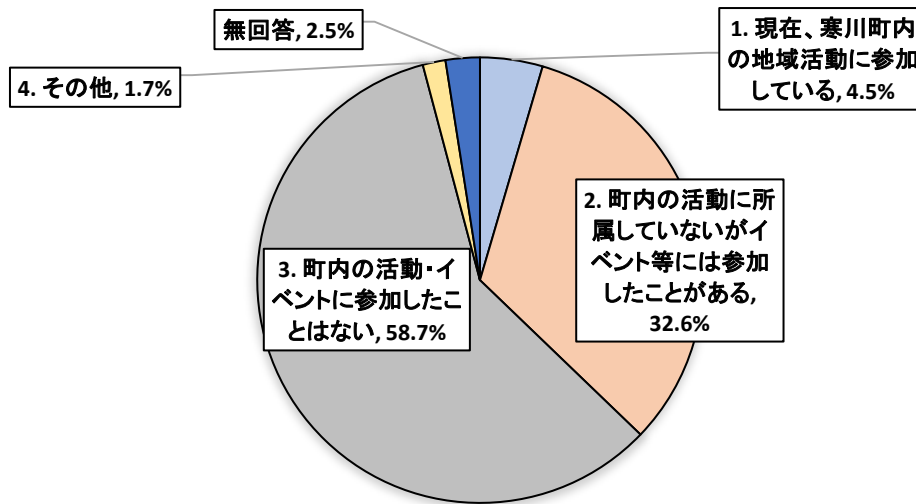


選択肢	回答数	割合
A.自動車	120	49.6%
B.電車	6	2.5%
C.バイク	6	2.5%
D.自転車	41	16.9%
E.バス	0	0.0%
F.徒歩	37	15.3%
G.その他	1	0.4%
回答者数	242	-
※複数回答可		

⑪ 地域活動やイベントへの参加状況

町内の活動・イベントに参加経験は37.1%となっている。

■ 地域活動やイベントへの参加状況

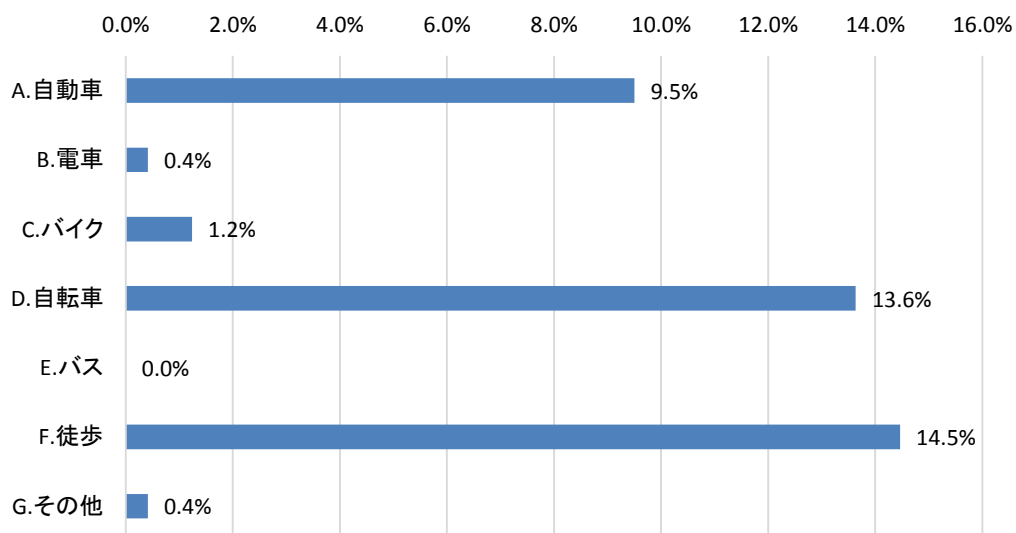


選択肢	回答数	割合
1. 現在、寒川町内の地域活動に参加している	11	4.5%
2. 町内の活動に所属していないがイベント等には参加したことがある	79	32.6%
3. 町内の活動・イベントに参加したことはない	142	58.7%
4. その他	4	1.7%
無回答	6	2.5%
回答者数	242	100.0%

⑫地域活動やイベントへ参加する際の交通手段

地域活動やイベントへの参加は、寒川町内で行われるものが中心であると考えられるため、自動車よりも自転車や徒歩で参加する方が多い傾向にある。

■地域活動やイベントへの参加する際の交通手段

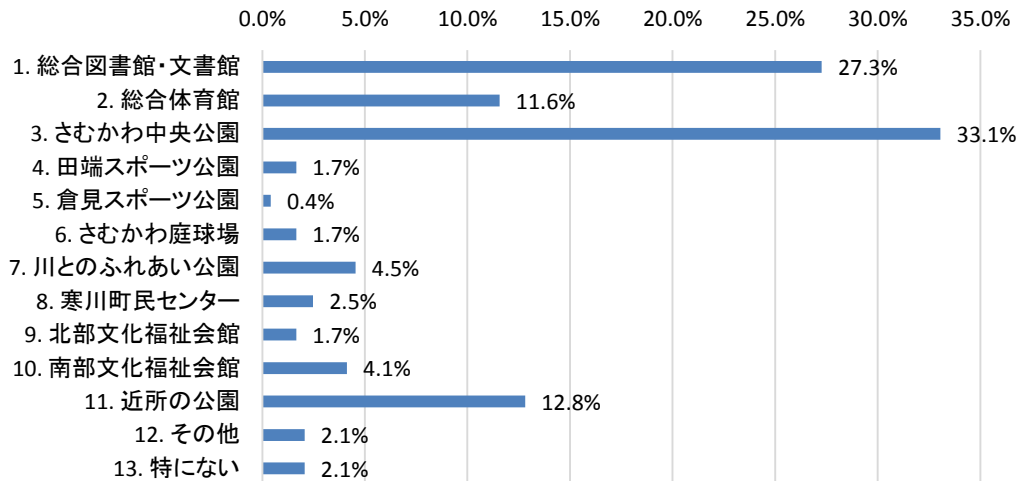


選択肢	回答数	割合
A.自動車	23	9.5%
B.電車	1	0.4%
C.バイク	3	1.2%
D.自転車	33	13.6%
E.バス	0	0.0%
F.徒歩	35	14.5%
G.その他	1	0.4%
回答者数	242	-
※複数回答可		

⑬よく利用する公共施設

さむかわ中央公園を利用している方が最も多く、次いで図書館を利用している方が多い。その2施設は寒川町の若年・子育て世代の中で知名度も高く、慕われている施設であると考えられる。

■よく利用する公共施設

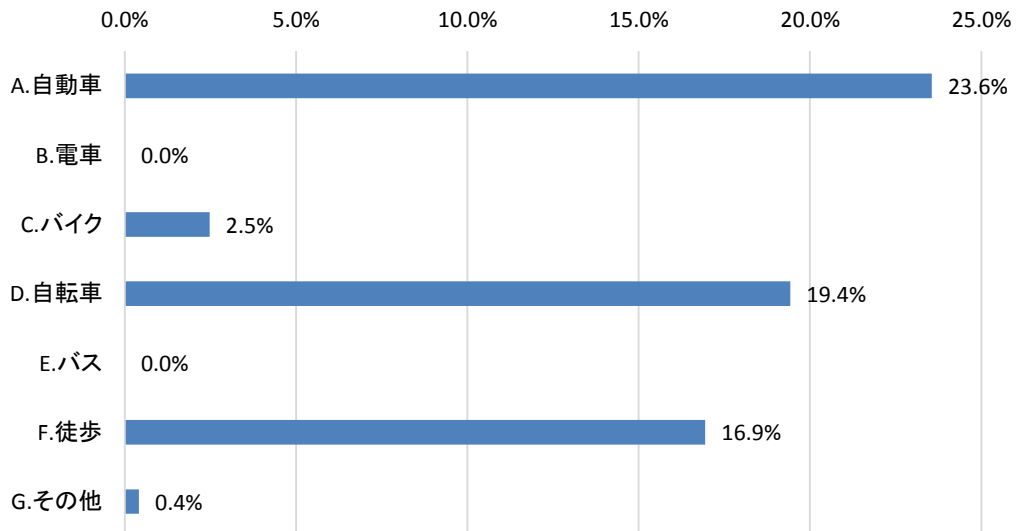


選択肢	回答数	割合
1. 総合図書館・文書館	66	27.3%
2. 総合体育館	28	11.6%
3. さむかわ中央公園	80	33.1%
4. 田端スポーツ公園	4	1.7%
5. 倉見スポーツ公園	1	0.4%
6. さむかわ庭球場	4	1.7%
7. 川とのふれあい公園	11	4.5%
8. 寒川町民センター	6	2.5%
9. 北部文化福祉会館	4	1.7%
10. 南部文化福祉会館	10	4.1%
11. 近所の公園	31	12.8%
12. その他	5	2.1%
13. 特にない	5	2.1%
回答者数	242	-
※複数回答可		

⑭よく利用する公共施設に行く際の交通手段

自動車が最も多く、次いで自転車、徒歩の順になっている。

■よく利用する公共施設に行く際の交通手段

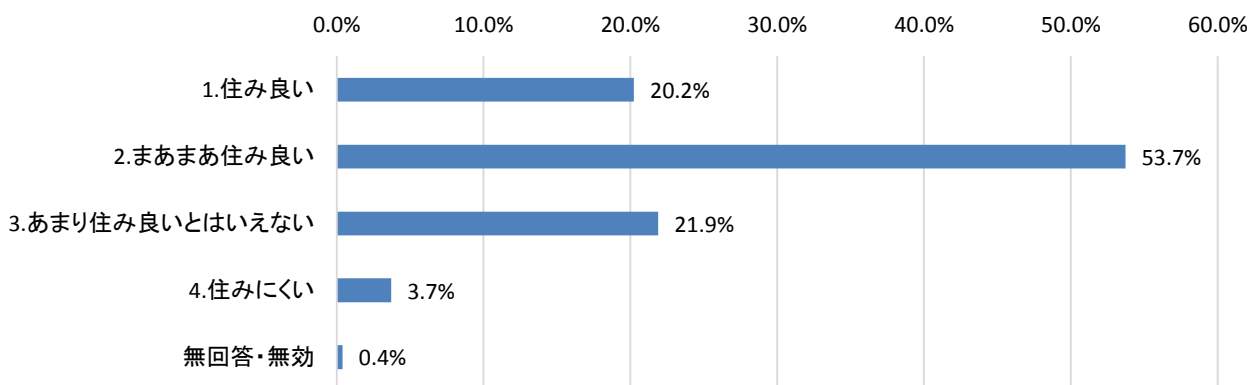


選択肢	回答数	割合
A.自動車	57	23.6%
B.電車	0	0.0%
C.バイク	6	2.5%
D.自転車	47	19.4%
E.バス	0	0.0%
F.徒歩	41	16.9%
G.その他	1	0.4%
回答者数	242	-
※複数回答可		

⑮寒川町の住み良さ

「住み良い」と「まあまあ住み良い」を合わせると73.9%が寒川町を「住み良い」と感じている。

■寒川町の住み良さ

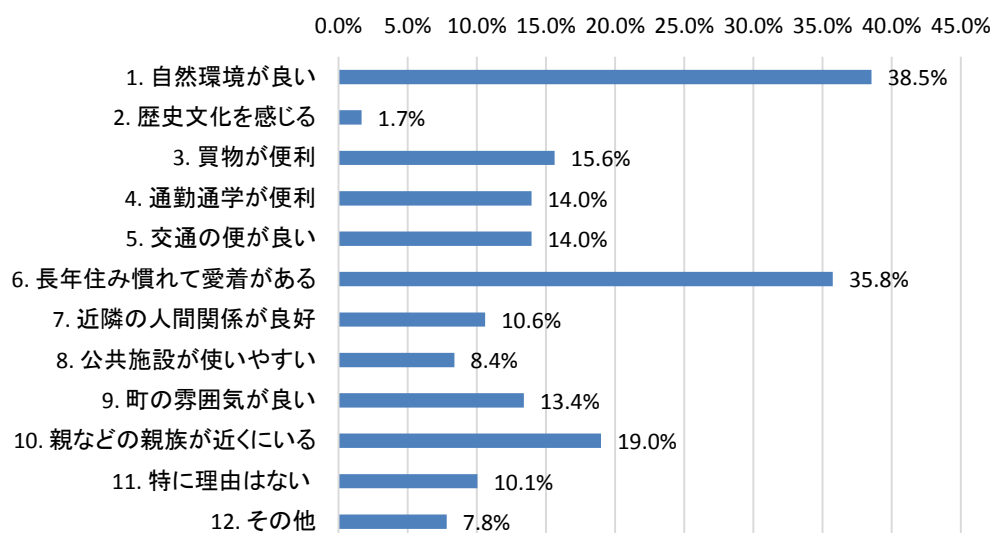


選択肢	回答数	割合
1.住み良い	49	20.2%
2.まあまあ住み良い	130	53.7%
3.あまり住み良いとはいえない	53	21.9%
4.住みにくい	9	3.7%
無回答・無効	1	0.4%
回答者数	242	100.0%

⑩寒川町が住み良い／まあまあ住み良いと思う理由

「自然環境が良い」が38.5%と最も多く、次いで「長年住み慣れて愛着がある」が35.8%となっている。

■寒川町の住み良い理由（複数回答）



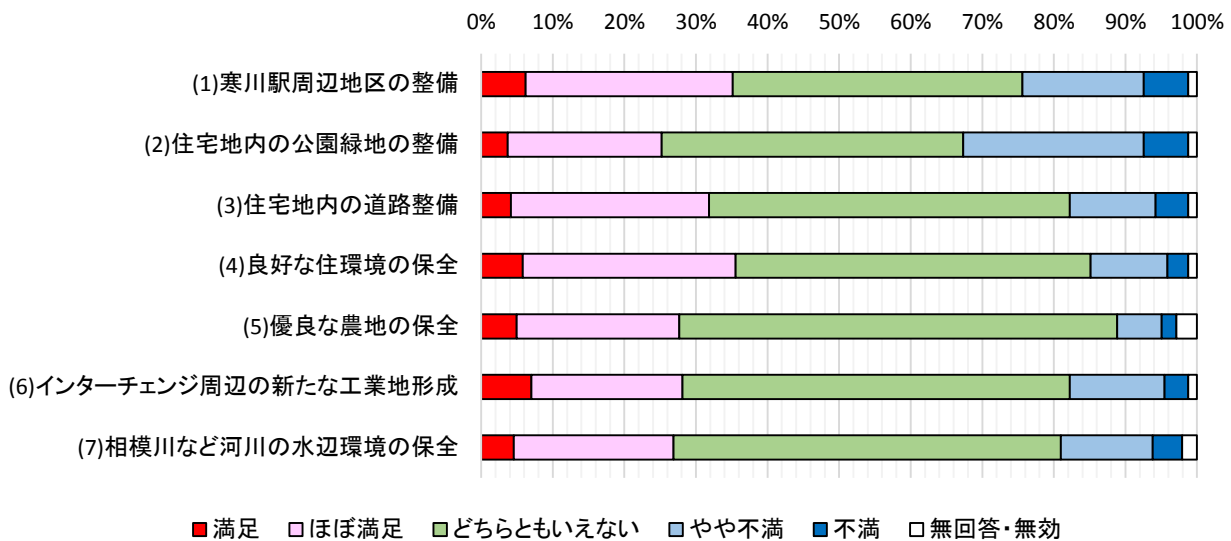
選択肢	回答数	割合
1. 自然環境が良い	69	38.5%
2. 歴史文化を感じる	3	1.7%
3. 買物が便利	28	15.6%
4. 通勤通学が便利	25	14.0%
5. 交通の便が良い	25	14.0%
6. 長年住み慣れて愛着がある	64	35.8%
7. 近隣の間人間関係が良好	19	10.6%
8. 公共施設が使いやすい	15	8.4%
9. 町の雰囲気が良い	24	13.4%
10. 親などの親族が近くにいる	34	19.0%
11. 特に理由はない	18	10.1%
12. その他	14	7.8%
回答者数	179	-

⑰ これまでの寒川町のまちづくりの取組について

【土地利用】

寒川町が取り組んできたまちづくりの施策で寒川駅周辺地区の整備や良好な住環境の保全、住宅地内の道路整備に関しては30%以上の方がある程度満足している。寒川駅周辺は土地区画整理事業により良好な都市基盤が整備されたほか、商業や医療など生活利便施設が集積していることは、若年・子育て世代へのアピールポイントであると言える。

■ 土地利用に関する取組について

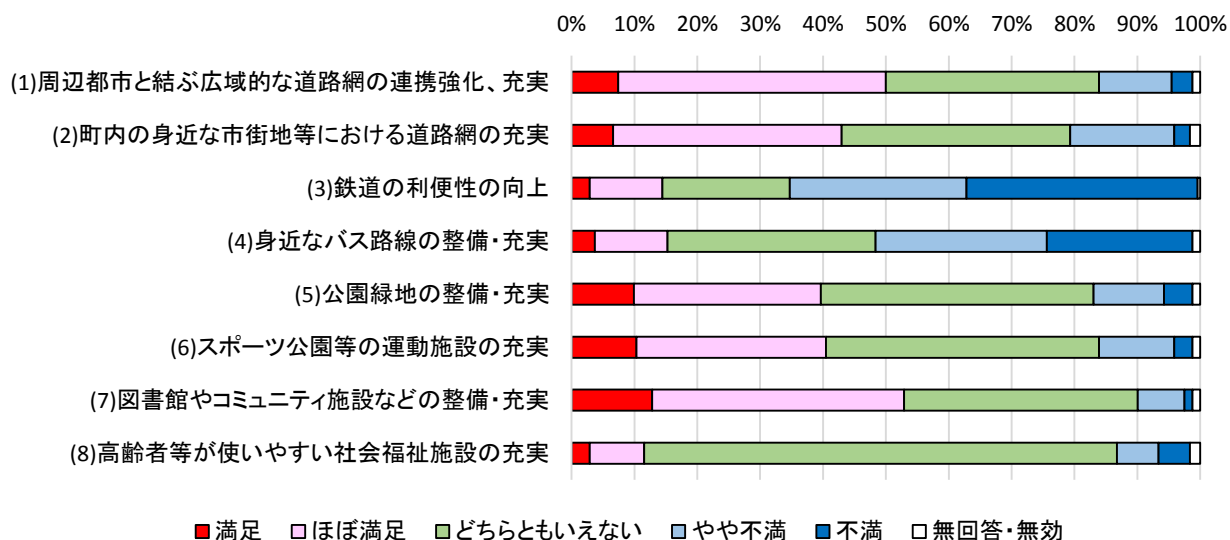


①土地利用に関する取組みについて	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答・無効
(1)寒川駅周辺地区の整備	6.2%	28.9%	40.5%	16.9%	6.2%	1.2%
(2)住宅地内の公園緑地の整備	3.7%	21.5%	42.1%	25.2%	6.2%	1.2%
(3)住宅地内の道路整備	4.1%	27.7%	50.4%	12.0%	4.5%	1.2%
(4)良好な住環境の保全	5.8%	29.8%	49.6%	10.7%	2.9%	1.2%
(5)優良な農地の保全	5.0%	22.7%	61.2%	6.2%	2.1%	2.9%
(6)インターチェンジ周辺の新たな工業地形成	7.0%	21.1%	54.1%	13.2%	3.3%	1.2%
(7)相模川など河川の水辺環境の保全	4.5%	22.3%	54.1%	12.8%	4.1%	2.1%

【都市施設や交通整備】

周辺都市や町内の身近な市街地等の道路網や図書館やコミュニティ施設などの整備・充実に関しては、50%以上が満足している。また、町内の身近な市街地等における道路網や公園緑地、運動施設に関しても満足が40%程度となっている。身近な生活基盤や公共施設の充実が若年・子育て世代へのアピールポイントであると言える。

■都市施設や交通整備に関する取組について

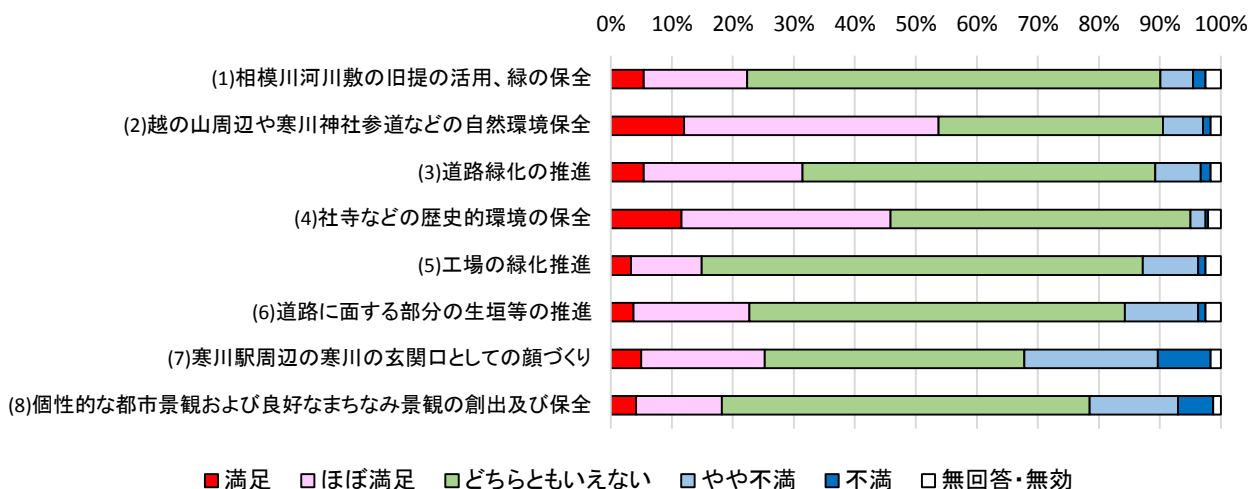


②都市施設や交通整備に関する取組について	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答・無効
(1)周辺都市と結ぶ広域的な道路網の連携強化、充実	7.4%	42.6%	33.9%	11.6%	3.3%	1.2%
(2)町内の身近な市街地等における道路網の充実	6.6%	36.4%	36.4%	16.5%	2.5%	1.7%
(3)鉄道の利便性の向上	2.9%	11.6%	20.2%	28.1%	36.8%	0.4%
(4)身近なバス路線の整備・充実	3.7%	11.6%	33.1%	27.3%	23.1%	1.2%
(5)公園緑地の整備・充実	9.9%	29.8%	43.4%	11.2%	4.5%	1.2%
(6)スポーツ公園等の運動施設の充実	10.3%	30.2%	43.4%	12.0%	2.9%	1.2%
(7)図書館やコミュニティ施設などの整備・充実	12.8%	40.1%	37.2%	7.4%	1.2%	1.2%
(8)高齢者等が使いやすい社会福祉施設の充実	2.9%	8.7%	75.2%	6.6%	5.0%	1.7%

【都市環境・景観】

都市環境・景観に関しては、寒川神社参道や社寺など自然環境や歴史的環境の保全への満足度が高い。寒川神社は、寒川町の誇りとなる資源としてアピールすることができる。

■都市環境・景観に関する取組について

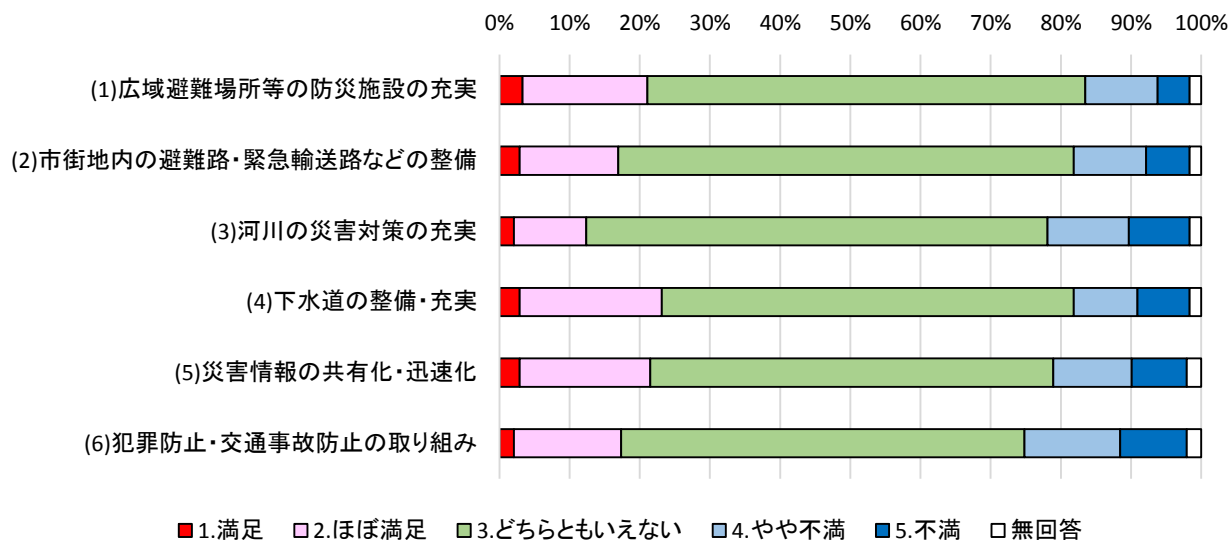


③都市環境・景観に関する取組について	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答・無効
(1)相模川河川敷の旧堤の活用、緑の保全	5.4%	16.9%	67.8%	5.4%	2.1%	2.5%
(2)越の山周辺や寒川神社参道などの自然環境保全	12.0%	41.7%	36.8%	6.6%	1.2%	1.7%
(3)道路緑化の推進	5.4%	26.0%	57.9%	7.4%	1.7%	1.7%
(4)社寺などの歴史的環境の保全	11.6%	34.3%	49.2%	2.5%	0.4%	2.1%
(5)工場の緑化推進	3.3%	11.6%	72.3%	9.1%	1.2%	2.5%
(6)道路に面する部分の生垣等の推進	3.7%	19.0%	61.6%	12.0%	1.2%	2.5%
(7)寒川駅周辺の寒川の玄関口としての顔づくり	5.0%	20.2%	42.6%	21.9%	8.7%	1.7%
(8)個性的な都市景観および良好なまちなみ景観の創出及び保全	4.1%	14.0%	60.3%	14.5%	5.8%	1.2%

【都市防災】

都市防災に関しては、「下水道の整備・充実」、「広域避難場所等の防災施設の充実」、「災害情報の共有化・迅速化」の満足度が20%以上となっている。

■都市防災に関する取組について

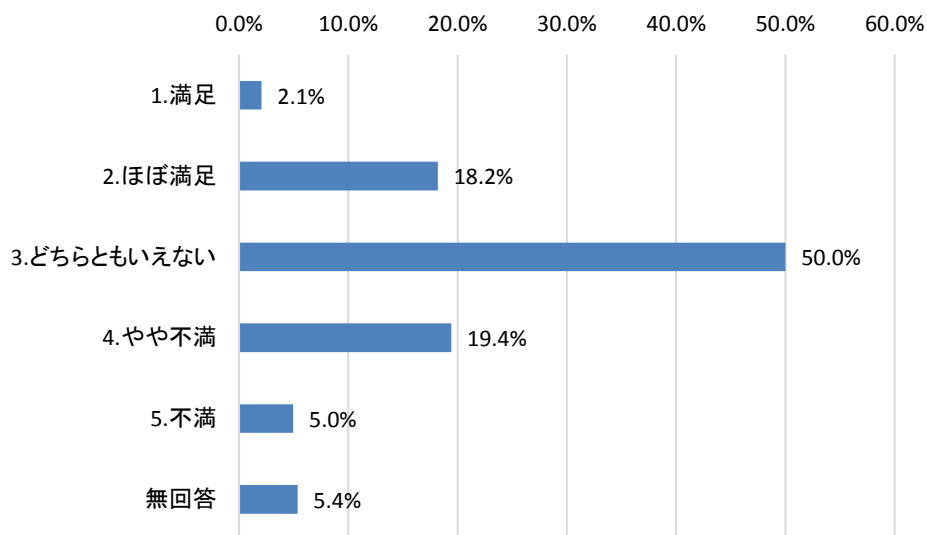


④都市防災に関する取組について	満足	ほぼ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答
(1)広域避難場所等の防災施設の充実	3.3%	17.8%	62.4%	10.3%	4.5%	1.7%
(2)市街地内の避難路・緊急輸送路などの整備	2.9%	14.0%	64.9%	10.3%	6.2%	1.7%
(3)河川の災害対策の充実	2.1%	10.3%	65.7%	11.6%	8.7%	1.7%
(4)下水道の整備・充実	2.9%	20.2%	58.7%	9.1%	7.4%	1.7%
(5)災害情報の共有化・迅速化	2.9%	18.6%	57.4%	11.2%	7.9%	2.1%
(6)犯罪防止・交通事故防止の取り組み	2.1%	15.3%	57.4%	13.6%	9.5%	2.1%

【総合的な満足度】

寒川町のまちづくりの取組についての総合的な満足度は、「どちらともいえない」が半数を占め、満足と不満はほぼ半々の割合となっている。「どちらともいえない」は明確な不満ではないことから、今後、寒川町の地域資源や魅力をPRすることで、満足度を高めることが可能になると考えられる。

■これまでの寒川町のまちづくりの取組の総合的な満足度

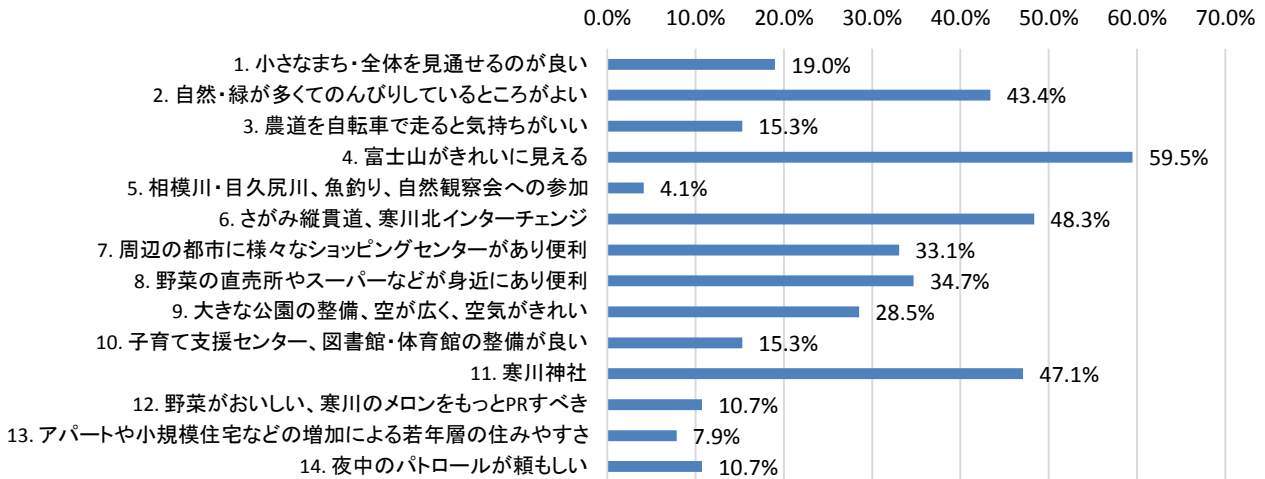


選択肢	回答数	割合
1.満足	5	2.1%
2.ほぼ満足	44	18.2%
3.どちらともいえない	121	50.0%
4.やや不満	47	19.4%
5.不満	12	5.0%
無回答	13	5.4%
回答者数	242	100.0%

⑱ 寒川町の魅力

寒川町の魅力として富士山がきれいに見えることが 59.5%と最も多く、次いでさがみ縦貫道・寒川北インターチェンジが 48.3%、寒川神社が 47.1%、自然・緑が 43.4%の順となっている。

■ 寒川町の魅力



選択肢	回答数	割合
1. 小さなまち・全体を見通せるのが良い	46	19.0%
2. 自然・緑が多くてのんびりしているところがよい	105	43.4%
3. 農道を自転車で走ると気持ちがいい	37	15.3%
4. 富士山がきれいに見える	144	59.5%
5. 相模川・目久尻川、魚釣り、自然観察会への参加	10	4.1%
6. さがみ縦貫道、寒川北インターチェンジ	117	48.3%
7. 周辺の都市に様々なショッピングセンターがあり便利	80	33.1%
8. 野菜の直売所やスーパーなどが身近にあり便利	84	34.7%
9. 大きな公園の整備、空が広く、空気がきれい	69	28.5%
10. 子育て支援センター、図書館・体育館の整備が良い	37	15.3%
11. 寒川神社	114	47.1%
12. 野菜がおいしい、寒川のみももをPRすべき	26	10.7%
13. アパートや小規模住宅などの増加による若年層の住みやすさ	19	7.9%
14. 夜中のパトロールが頼もしい	26	10.7%
回答者数	242	-

■ その他、寒川町のよいところ(自由記述)

【自然環境に関する点】

- 都会過ぎないところ (3名)
- 星がきれいに見えるところ (2名)
- 散歩するのにいいところ (2名)
- 景色がいい場所がある (2名)

【生活環境に関する点】

- 寒川駅周辺は生活に必要なものが揃っていて便利 (3名)
- 子育てに適している (3名)
- 地域交流が盛ん (3名)
- 地価が安い (2名)
- 図書館が利用しやすい (1名)
- 事件や災害が少ない (1名)

⑱都市マスアンケートのまとめ

若年・子育て世代（20～39歳）の生活行動実態や寒川町の住環境に対する意識等を以下に整理する。

通勤・通学先	・町内が最も多いが、茅ヶ崎市、藤沢市、海老名市へも10%程度が通勤・通学している。
通勤・通学の交通手段	・自動車による交通移動が多いことから、通勤・通学において鉄道の利便性が必ずしも影響しないと考えられる。
日常的な買い物の購入行動	・日常的な買物購入については、ほとんどが実際の店舗で購入しており、インターネット上の宅配サービスの利用も16.1%となっている。
日常的な買い物の交通手段	・日常的な買物には、73.0%が自動車を利用しており、日常的な買物には、公共交通の利便性が影響を与えないと考えられる。
日常的な買い物の場所	・寒川駅周辺の店舗の利用者は41.7%である。また、寒川町以外の様々な近隣都市も利用されている。
日常的な買い物の場所への交通手段	・日常的な買物をする際に公共交通を利用する割合は1割未満である。
休日の外出先	・休日などによく行く外出先は、寒川町内よりも近隣都市が多い。
休日の外出先での交通手段	・交通手段で最も多いのは自動車が6割、次いで電車が3割となっている。
医院・病院の場所	・76%が寒川町内の医院・病院等を利用している。
医院・病院への交通手段	・自動車の利用が5割と最も多い。
地域活動やイベントへの参加状況	・町内の活動・イベントへの参加経験は4割となっている。
地域活動やイベントへ参加する際の交通手段	・寒川町内で行われるものであるため、自動車よりも徒歩や自転車で参加する方が多い傾向にある。
よく利用する公共施設	・さむかわ中央公園と総合図書館・文書館を利用している方が多く、これらの施設の知名度が高く、慕われている結果であると考えられる。
よく利用する公共施設に行く際の交通手段	・自動車利用が最も多く、次いで自転車、徒歩の順になっている。
寒川町の住み良さ	・7割が住みよいと感じている。
住み良い理由	・「自然環境が良い」が最も多く、4割となっている。
まちづくりの取組にたいする評価	【土地利用】 ・寒川駅周辺地区の整備や良好な住環境の保全、住宅地内の道路整備に関しては満足度が高く、良好な都市基盤が整備され、商業や医療など生活利便施設が集積している寒川駅周辺はアピールポイントになる。

	<p>【都市施設や交通整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺都市や町内の身近な市街地等の道路網や図書館、コミュニティ施設や公園緑地、運動施設など身近な生活基盤や公共施設の整備に関しては満足度が高く、アピールポイントになる。 <p>【都市環境・景観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒川神社参道や社寺など自然環境や歴史的環境の保全への満足度が高く、特に寒川神社は寒川町の誇りとなる資源としてアピールできると考えられる。 <p>【都市防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下水道の整備や広域避難場所等の防災施設の充実、災害情報の共有化・迅速化の満足度が比較的高い。 <p>【総合的満足度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どちらともいえない」が半数を占め、満足と不満がほぼ半々の割合となっていることから、今後寒川町の地域資源や魅力を PR することで、満足度を高めることが可能であると考えられる。
寒川町の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・寒川町の魅力として自然環境の良さが挙げられる。 ・次いで、さがみ縦貫道ができたことや寒川北インターチェンジの使いやすさも挙げられ、周辺都市へのアクセスのしやすさも魅力の1つだと考えられる。 ・知名度の高い寒川神社も魅力である。

5) まとめ

若年・子育て世代（20～39歳）の寒川町の住環境に対する意識等を以下に整理する。

人口減少対策のためのアンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅の取得をきっかけとして転入している若年・子育て世代が1/3を占めており、このうち他の市区町村と比較して寒川町を選択している転入者が1/3であることから、寒川町の住環境に「選ばれる街」のポテンシャルがあることを示している。 ・住環境が評価されている要素としては、「治安が良い」と「自然環境が良い」があり、ゆとりある郊外居住のイメージがアピールポイントになると考えられる。 ・また、「勤務地や学校に近い」、「住宅規模や価格の良さ」、「交通の利便性」が上位に挙げられていることから、近隣に職場がある方から見て、寒川町は鉄道通勤圏の範囲で、手頃な価格で住宅を取得できる点も評価されていると考えられる。
寒川町総合計画後期基本計画第2次実施計画策定アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して見ると、生活に密着した基礎的な施策分野は総じて評価が高い傾向にあることから、それに加えて手頃な価格で住宅が取得可能であるなどのPRを行うことができる。
平成25年度すみよいまちづくりアンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・約85%が住み良いと感じており、その理由として自然環境の良さが挙げられており、定住意識を支える要因にもなっている。 ・寒川町の自然の豊かさや緑・自然の保全、図書館・公民館の整備に対する評価が高く、町外に情報発信する際のアピールポイントとして活用することができる。
都市マスアンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤・通学、買い物、通院などの生活行動では、自動車の利用が多く、公共交通への依存は相対的に少ない。 ・よく利用する公共施設は、さむかわ中央公園と総合図書館・文書館であり、町外に情報発信する際のアピールポイントとして活用することができる。 ・良好な都市基盤が整備され、商業や医療など生活利便施設が集積している寒川駅周辺のまちづくりへの評価は高く、町外に情報発信する際のアピールポイントとして活用することができる。 ・身近な生活基盤や公共施設の整備に関しては満足度が高く、町外に情報発信する際のアピールポイントとして活用することができる。 ・寒川神社参道や社寺など自然環境や歴史的環境の保全への満足度が高く、特に寒川神社は寒川町の誇りとなる資源としてアピールできる。 ・一方、総合的な満足度では、満足と不満がほぼ半々の割合となっていることから、今後寒川町の地域資源や魅力にストーリー性をもたせてPRすることが重要である。

(2) 比較対象自治体における「総合戦略策定に関する現状分析」及び「類似アンケート結果」

まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定等に伴い比較対象自治体で実施された、調査結果を
基に、各自治体の社会移動に関する現状や若年・子育て世代（20～39歳）の住環境に対する
意識等の特徴を以下に整理する。

1) 茅ヶ崎市

【総合戦略策定に関する現状分析】

- ・総人口は増加して推移している。生産年齢人口は平成12年にまで増加してきたが、以降は微減傾向。年少人口は減少傾向にある一方で老年人口は増加傾向。平成12年に老年人口が年少人口を上回る。
- ・世帯数は、年々増加しているが、世帯人員は年々減少している（世帯人員平均2.52人）。
- ・社会増減（転出・転入）の状況として、転出先は1都3県（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）が全体の80%近くを占めている。なかでも、横浜市・川崎市のほか、藤沢市・寒川町、平塚市への転出が多い。転入元も1都3県（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）が大部分を占め、特に、横浜市・藤沢市からの転入が多く、その他にも、川崎市や寒川町、平塚市など近隣市町からの転入がある（寒川町からの転入・寒川町への転出は、各年代層に分布しているが40歳以降の年代は鈍化傾向にある）。
- ・転入、転出いずれも男性、女性ともに、25歳～39歳の移動が多くなっている。年少人口の転入、転出も多く、子育て世代の移動が多い。
- ・昼夜間人口比は79.6%で県内でも低い水準となっており、住宅都市（ベッドタウン）としての性格が強い。市外の通勤・通学先は、東京、横浜、藤沢の3都市で約6割を占めている。（寒川町への通勤は3,600人程度）市外からの市内への通勤・通学は、藤沢、平塚、寒川、横浜の4市町で約8割を占めている（寒川町からの通勤流入は2,700人程度）。
- ・就学前児童の保育等の状況として、認可保育所（園）の在籍者数は特に1～3歳で年々増加している。待機児童の数はH24年度にかけて増加してきたが、その後減少に転じている（平成28年89人）
- ・住宅地の平均価格187.9千円/㎡（都道府県地価調査）、1カ月当たりの平均家賃は66,824円（住宅土地統計調

【平成26年度 茅ヶ崎市のまちづくり市民満足度調査】

- ・茅ヶ崎市の魅力としては、「買い物の利便性」、「快適な居住環境」、「自然の豊かさ」、「交通の便」、「食の豊かさ」、「まちの清潔さ」、「安全」などが挙げられている。
- ・住みよさに関しては、多くの市民が「住みよい」と感じているが、年齢層別では「ファミリー層」が、地域別では「西部」、「東部」、「北部」で「住みにくい」と感じている人が増える傾向がある。
- ・定住意向は、「将来はわからない」と「市外に移り住みたい」と考える人は約40%存在する。年齢層別では、若年層及びファミリー層においてそう感じる人が増える傾向がある。
- ・市外への移り住みたいファミリー層の理由では、「行政サービスへの不満」、「子育て環境への不安」が上位に挙げられている。
- ・市政やまちの満足度は、「保育サービス」、「生活道路」、「財政運営」の満足度が低くなっている。
- ・ファミリー層が思う将来像は、「子育て・介護など、助け合いのところが浸透し、あたたかなふれあいのある都市」が6割以上の支持を得ており、満足度や重要度などを加味すると「子育て」がキーワードとなっている。

【考察】

- ・転入、転出が近隣自治体への移動が多数を占めている特徴を鑑みると、茅ヶ崎市において発生する社会移動をターゲットとしながら、寒川町への転居を働きかける機会が存在すると考えられる。
- ・茅ヶ崎市内への通勤者や市外へ通勤者のうち、寒川町からの通勤が許容される人については、寒川町への転居を働きかけるターゲットに成り得る可能性がある。
- ・茅ヶ崎市と比較して住宅価格と家賃が安い現状は、寒川町の強みとなる。
- ・茅ヶ崎市の魅力の一つとして挙げられる「自然の豊かさ」に関しては、寒川町の調査結果においても「緑や自然の豊かさ」が魅力資源として捉えられているため、このテーマで茅ヶ崎市民に対し転入を訴求していく場合は、寒川町ならではの自然の豊かさや他の魅力をアピールするなど差別化が必要となってくる。
- ・茅ヶ崎市の定住意向から、エリアとしては、「西部」「東部」「北部」、年齢層では「若年層」「ファミリー層」において寒川町への転居を働きかけるポテンシャルがあると考えられる。
- ・茅ヶ崎市民の転出したい理由に挙げられる行政サービス（特に子育て）に関する項目は、転出を検討している茅ヶ崎市民に訴求する上では効果的な素材であると考えられ、寒川町の子育てに関する魅力の発信が重要である。

2) 藤沢市

【総合戦略策定に関する現状分析】（総合戦略における基礎調査が存在しないため寒川町調べ）

- ・総人口は増加傾向で推移している。生産年齢人口は、平成 17 年まで増加傾向で推移してきたが、以降減少に転じている。年少人口は減少傾向にある一方で老年人口は増加傾向。平成 17 年には老年人口が年少人口を上回った。
- ・社会増減（転出・転入）の状況として、転出先は、茅ヶ崎市、横浜市、鎌倉市、大和市、平塚市、綾瀬市、寒川町が多くなっている。寒川町への転出は 20 歳未満、40 歳代に分布している。
- ・藤沢市への転入は、横浜市、茅ヶ崎市、鎌倉市、東京都、大和市、平塚市が多くなっている。
- ・藤沢市の夜間人口が増加傾向に対し、昼間人口は 2010 年に減少に転じ、昼中夜間人口比率でみると 0.91 を推移している。藤沢市内で働く人が減少する一方、市外で働く人が増える傾向にある。市外への通勤先としては、横浜市、東京都、鎌倉市が多い。市外からの通勤流入は、横浜市、茅ヶ崎市が多く、次いで鎌倉市、大和市、綾瀬市、相模原市、寒川町となっている。
- ・待機児童数は、平成 24 年をピーク（379 人）に減少傾向となり、平成 28 年度には 55 人まで減少した。（認可保育所（園）の増により改善）
- ・住宅地の平均価格 203.8 千円/m²（都道府県地価調査）、1 カ月当たりの平均家賃は 65,124 円（住宅土地統計調査）。

【平成 25 年度 市民生活に関する意識調査（市の政策、施策に対する現状調査）】

- ・藤沢市の取り組みに対する重要度としては、「地域での災害への備え」「医療の充実」「犯罪のないまち」「福祉の充実」「消防救急活動の充実」「子育て環境」が重要と挙げられている。
- ・藤沢市の取り組みに対する満足度としては、「橋や下水の老朽化対策」「保育園の待機児童の解消」「新しい産業の立地」に対する評価が低く推移している。
- ・子育て世代（20 歳～40 歳）の「安心して子育てができる環境づくり」に対する満足度は約 3 割が満足しており、約 3 割が不満と評価している。「待機児童の解消」については、約 1 割が満足しており、約 5 割が不満と評価している。

【考察】

- ・藤沢市内への通勤者や市外への通勤者のうち、寒川町からの通勤が許容される人については、寒川町への転居を働きかけるターゲットに成り得る可能性がある。
- ・藤沢市と比較して住宅価格と家賃が安い現状は、寒川町の強みとなる。
- ・藤沢市民の評価としては、施策としての「子育て環境」に対する満足度は一定程度評価されているものの、同じ割合で不満と評価している人が存在している。「待機児童の解消」に関しては、不満の割合が子育て環境全般よりも高くなっていることから、待機児童問題に特に関心が高いことが伺われる。

3) 海老名市

【総合戦略策定に関する現状分析】

- ・総人口は近年微増傾向で、世帯数も同様に微増傾向（世帯人員は減少）。生産年齢人口は平成 17 年まで増加してきたが、以降減少傾向に転じている。年少人口は減少傾向にある一方で老年人口は増加傾向。平成 22 年には老年人口が年少人口を上回った。
- ・海老名市への転入者の従前の住所地は、神奈川県内の移動が大半を占め、近隣の厚木市、座間市、綾瀬市、大和市が多くなっている。転出先も転入と同様の傾向がある。
- ・海老名市の夜間人口は昼間人口を上回っている。
- ・海老名市の就業者は、約 6 割が市外から流入する就業者となっており、横浜市、厚木市、座間市、綾瀬市と近隣の市町村からの流入が多くなっている（寒川町からの通勤流入は 1,100 人程度）。
- ・市外への通勤先は、県外では東京都、県内では横浜市、厚木市、綾瀬市、大和市、座間市、藤沢市と近隣の市町村への通勤が多くなっている（寒川町への通勤者は 1,000 人程度）。
- ・待機児童数は、約 20 人から 40 人程度を推移しており、平成 28 年は 27 人。
- ・住宅地の平均価格 138.9 千円/㎡（都道府県地価調査）、1 カ月当たりの平均家賃は 63,453 円（住宅土地統計調査）。

【平成 27 年度 海老名市における転出入に関するアンケート調査】

- ・調査期間中の転出入者の年代は 20 歳代～40 歳代に集中し、転出入者ともに世帯構成は単身者が多数を占めている。
- ・海老名市への転入者の居住地選択の理由は、「職場や学校が近くにある」、「交通の便がよい」、「親・子どもが近くにいる」、「買い物や外食が便利」、「以前から親しみがある」が多くなっている。なお、「子育てがしやすい」、「教育環境がよい」、「住宅の購入・賃貸にかかる費用が安い」はごく少数となっている。
- ・転入前後における転入者の住宅所有関係では持家（マンション等）は若干増加しているものの、全体的には持ち家の割合に変化が生じていないため、住宅取得以外の目的による転入であることが推察される。
- ・転出のきっかけは「仕事の都合」、「結婚・離婚」、「より良い住宅を求めて」が多く、転出先を選択した理由は「職場学校が近くにある」、「交通の便が良い」、「親・子どもが近くにいる」、「住宅購入・賃貸にかかる費用が安い」が多くなっている。
- ・転出前後における住宅所有関係では、転入前後の傾向とは異なり持家率が減少し、借家率が増加する傾向となっている。

【考察】

- ・寒川町に通勤する人、海老名市内に通勤する人、海老名市外へ通勤する人のうち寒川町からの通勤が許容される人については、寒川町への転居を働きかけるターゲットに成り得る可能性がある。
- ・寒川町では、転入のきっかけとして「住宅の取得のため」が多数を占めている状況があるが、海老名市への転入は住宅購入よりも、勤務地への距離、通勤の利便性、買い物などの生活環境を評価していると推察される。また、居住地選択の理由が異なることについては、世帯構成が大きく影響していることも推察される。
- ・転出のきっかけとして挙げられる「結婚」のタイミングは、寒川町の魅力を PR する機会であるため、情報発信のチャンネルを確保する必要がある。
- ・転出理由として挙げられる「よりよい住宅を求めて」、「住宅購入コスト」の視点で、寒川町の居住環境を PR することが重要であり、海老名市と比較して住宅価格と家賃が安い現状は、寒川町の強みとなる。

4) 厚木市

【総合戦略策定に関する現状分析】

- ・総人口は、平成 20 年をピークに減少に転じたが、平成 24 年以降は微増となっている。世帯数の増減傾向は人口のトレンドとほぼ一致するが人口ピーク時平成 20 年を超えて増加している。
- ・厚木市への転入は、県内から転入と県外からの転入が同数程度である。転入元は、横浜市、伊勢原市、相模原市、海老名市、愛川町、川崎市、秦野市、平塚市、座間市からの転入が多く、県外では東京都、愛知県、北海道、大阪府、静岡県、千葉県などが挙げられ、近隣の自治体と異なった人口移動が生じている。
- ・厚木市からの転出は、県内・県外への転出が同数程度ある。県内の転出先は横浜市、相模原市、伊勢原市、海老名市、川崎市、愛川町、平塚市への転出が多く、県外へは、東京都、埼玉県、愛知県、大阪府、千葉県、静岡県などが挙げられる。
- ・夜間人口に対し、昼間人口が多く昼夜間人口比率は近隣自治体と比較して大変高い。さらに、厚木市に住んでいる就業者のうち約 6 割が厚木市内の事業所で働いており、区域内就業率も高い状況にある。
- ・市外への通勤先は、横浜市、伊勢原市、海老名市、愛川町、平塚市、相模原市が多く、市外からの通勤流入は、伊勢原市、相模原市、横浜市、秦野市、愛川町、平塚市が多くなっている。
- ・住宅地の平均価格 111.8 千円/㎡（都道府県地価調査）、1 カ月当たりの平均家賃は 55,422 円（住宅土地統計調査）。

【平成 27 年度 市民意識調査】

- ・厚木市の 20 歳代の定住意向は「すぐにでも市外に転出したい」、「できれば市外に転出したい」、「どちらとも言えない」の割合は約 5 割となっており、転出したい理由としては「交通の利便性」、「買物」、「通勤通学の利便性」が挙げられている。
- ・厚木市のまちのイメージは「自然環境豊かなまち」が 5 割を占めている。
- ・若年層が求めるまちの将来像は、「保健福祉・子育て環境が充実したまち」のポイントが高くなっている。
- ・求められる子育て環境は、「延長保育、休日保育などの保育サービスの充実」、「子ども医療費助成制度の充実」が挙げられている。

【考察】

- ・厚木市の定住意向や若者が求める将来像から、転出を検討している若い人に対しては、子育て環境を PR することが効果的と考えられるので、厚木市とは異なる寒川町の子育てに関する魅力を発信することは重要である。
- ・厚木市のイメージとして挙げられる「自然環境豊かなまち」については、寒川町のイメージとしても「緑・自然環境」が挙げられているので、このイメージで訴求していく場合は、寒川町ならではの居住環境・厚木市との差別化が必要となってくる。

6) 平塚市

【総合戦略策定に関する現状分析】

- ・総人口は、平成 22 年まで増加傾向で推移しているが、伸び率は鈍化している。平成 12 年に老年人口が年少人口を上回っている。
- ・社会増減の状況として、平塚市からの転出先は、茅ヶ崎市、伊勢原市、藤沢市、秦野市、大磯町、小田原市、厚木市、寒川町となっている。転入元は、茅ヶ崎市、藤沢市、秦野市、伊勢原市、厚木市、大磯町、小田原市、寒川町となっている。
- ・昼間人口の約 2 割が市外からの通勤・通学者が占め、隣接する厚木市、茅ヶ崎市、伊勢原市、秦野市、大磯町が約 4 割を占めている。一日あたりの流出人口をみると、市民の約 2 割が昼間市外に流出しており、その内 2 割は東京都、16%が横浜市となっている。それ以外は近隣の自治体が流出先となっている。
- ・昼夜間人口率は約 99%で職住近接のバランスが取れた構成となっている。
- ・住宅地の平均価格 129.3 千円/m²（都道府県地価調査）、1 カ月当たりの平均家賃は 57,183 円（住宅土地統計調査）。

【平成 26 年度 平塚市市民意識調査・平成 27 年度 転入者アンケート調査】

- ・平塚市民の定住意向は 8 割以上あり、平塚市に住み続けようと思う理由では、「自然環境がよい」が多数を占めている。市外に転居しようと思う理由では、「通勤・通学の都合」、「移動の利便性」、「安心安全な生活」が挙げられる。
- ・転入者の約 4 割が転入の際「他の市町村も検討した」と回答しており、検討した自治体は茅ヶ崎市、藤沢市、横浜市、伊勢原市、大磯町、厚木市が挙げられ、寒川町は少数であるが検討の対象とされている。
- ・転入の際には、「通勤通学の利便性」、「地価・家賃相場」が重視されており、平塚市を決定した理由もこれらが上位に挙げられる。重視する条件として「子育て・教育環境」を挙げる人が多かったが、決定理由では低い割合となっていることも平塚市を居住地として選択した人の特徴の一つである。
- ・居住地を探す上での情報源は、「住宅情報・不動産情報ホームページ」が約 7 割（転出者においても約 6 割）を占めている。
- ・居住地を決定するにあたり、行政サービスを調べたかとの設問では、調べなかった人が約 7 割を占めるが、子どもがいる世帯は調べる人が増える傾向にある。
- ・転入前後の住居の種類は、転入前に対し転入後の持家率が大幅に増加する傾向がある。また、子どもがいる世帯は、持家の割合、特に戸建の割合が高まる特徴がある。
- ・転入者・転出者ともに平塚市に住んで良かったところは、「公園・自然環境」、「買物の利便性」が挙げられ、住んで悪かったところでは、「治安」が最も多く、平塚市の特徴であると捉えられる。
- ・転出先の検討にあたり重視した条件では、「通勤・通学の利便性」が多数を占めているが、子どもがいない世帯では、「通勤・通学の利便性」が大幅に増え、子どもがいる世帯では「地価・家賃相場」、「子育て・教育環境」が重要視される傾向がある。転出先の決定理由でも、「通勤・通学の利

【考察】

- ・寒川町に通勤する人、平塚市内に通勤する人、平塚市外へ通勤する人のうち寒川町からの通勤が許容される人については、寒川町への転居を働きかけるターゲットに成り得る可能性がある。
- ・平塚市から転居する理由として挙げられる「安心安全な生活」、平塚市のネガティブなイメージとして挙げられる「治安」の現状を鑑み、寒川町の安全・安心なまちづくりの取り組み、閑静な住環境などのイメージを発信していくことは重要である。
- ・居住地選択の情報源となっている「住宅情報・不動産情報ホームページ」を情報発信のチャンネルとして利活用することは効果的であると考えられるため、不動産事業者との連携策を検討する必要がある。
- ・居住地の選択にあたっては、「地価・家賃相場」が重要視されている。寒川町は平塚市と比較して住宅地価格と家賃が同水準であり、治安や郊外居住の良さの面で付加価値を高めることが重要である。
- ・子どもがいる世帯は、行政施策（特に子育て関連施策）に対する関心が高くなる現状を鑑み、選択の機会に寒川町の子育て環境の魅力を発信することが重要である。

8) 綾瀬市

【総合戦略策定に関する現状分析】

- ・総人口は平成2年まで増加傾向を推移していたが、以降伸びが鈍化、近年は微増で推移している。平成17年に老年人口が年少人口を上回っている。
- ・世帯数については平成2年以降も増加傾向であるが、1世帯あたりの人員は減少が続いている。
- ・社会増減の状況として、綾瀬市からの転出先、転入元は、横浜市、藤沢市、海老名市と近隣の自治体間の移動が中心で、転入、転出がほぼ同数となっている。
- ・綾瀬市の昼夜間人口比率は約96%で、通勤・通学で4,000人程度の流出超過である。主な市外通勤先（県内）は、横浜市、藤沢市、海老名市、大和市で、市外からの主な通勤流入（県内）は、横浜市、大和市、藤沢市、相模原市、厚木市となっている。
- ・綾瀬市の持ち家率は近隣市（海老名市・座間市・藤沢市・大和市）と比較して高い水準にあり、地価と家賃についても近隣市と比較して価格が安く近隣と比べ住宅を購入しやすい状況にある。
- ・住宅地の平均価格115.9千円/㎡（都道府県地価調査）、1カ月当たりの平均家賃は55,548円（住宅土地統計調査）。

【平成27年度 結婚・出産・仕事・定住に関する意識調査・平成27年度 転入・転出者アンケート調査】

- ・定住意向は、「住み続けたい」が約3割にとどまり、「転出したい」は約4割を占めている。
- ・綾瀬市に住み続けたい理由は、「身内や親戚が居住」、「地元の交友関係」といった血縁・地縁的な理由や「自然や公園が豊富」などが理由となっている。一方転出したい理由としては、「交通機関が不便」、「買物が不便」などの生活利便性に関する理由と「騒音や悪臭がひどい」（厚木飛行場由来）などの住環境に関する理由も多い状況があり、基地周辺自治体特有の傾向が表れている。
- ・結婚後に綾瀬市で生活や子育てをしたいと思うかとの設問に対しては、「住みたくない」が55%、「子育てをしたくない」が44%となっており、その理由は、「交通機関が不便」、「騒音や悪臭がひどい」、「子育て支援が不十分」となっている。
- ・転入・転出者アンケートにおける転入出の理由（きっかけ）としては、「就職・転職・転勤」の仕事に関する理由が約4割、「結婚」が約2割を占めている。
- ・転入の決め手としては、「地価や賃料が安い」、「身内や親戚が居住」、「自然や公園が豊富」となっている。
- ・住んで良かったことは「自然や公園が豊富」が多数を占めており、不満に思ったことは、「鉄道駅が遠い」、「航空機の騒音」、「バス交通網が貧弱」が挙げられている。

【考察】

- ・寒川町に通勤する人、平塚市内に通勤する人、平塚市外へ通勤する人のうち寒川町からの通勤が許容される人については、寒川町への転居を働きかけるターゲットに成り得る可能性がある。
- ・綾瀬市民は転出したい意向が強く、転出したい理由として「生活利便性」、「騒音」、「鉄道駅」が挙げられている。
- ・寒川町は近隣自治体と鉄道で直結していること、広域的に生活利便性が高いこと、閑静な住環境などのキーワードを寒川町の強みと魅力としてPRすることが重要である。

■比較対象自治体における類似アンケート結果の比較

	茅ヶ崎市	藤沢市	海老名市	厚木市	平塚市	綾瀬市
市の魅力・転入時の決め手等	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や緑、水 ・心地よく暮らせる居住環境 ・買物の利便性 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療が充実 ・安心して子育てができる環境 ・駅をはじめとする都市拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ・買物の利便性 ・交通の利便性 ・職場・学校の近接性 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境 ・商業・レジャー ・保健福祉・子育て環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境 ・買物の利便性 ・交通の利便性 ・総合公園等施設の充実した規模の大きな公園 ・七夕まつりなど、まちぐるみの行事 ・災害や犯罪が少なく、安心して生活できる環境 ・保育や子どもの健やかな成長のための子育て環境 ・地価・家賃の相場 ・通勤・通学の利便性 	—
市外に転出した理由	<ul style="list-style-type: none"> ・交通機関 ・子育て環境 ・行政サービス 		<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の都合 ・結婚・離婚 ・より良い住宅を求めて 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通機関 ・買物 ・通勤・通学 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通機関 ・買物 ・通勤・通学 ・住宅の都合 ・家族・親族・知人が（近くに）住んでいる ・家賃・住宅価格 ・住宅の条件（広さ、日当たり、静けさ） ・災害や犯罪に対し、安心して生活できない ・子育てや教育の環境 ・地域に愛着がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通機関 ・買物 ・通勤・通学 ・医療施設 ・騒音や悪臭

4 人口関連政策の比較分析

総合戦略を基に寒川町と近隣自治体の人口関連政策を比較分析する。

(1) 産業・雇用系政策

寒川町は、産業政策と地域力政策の連携・融合により地域企業を支援するエコノミックガーデニングに重点を置いていることが特徴である。近隣自治体は、基本的に産業政策の枠内での取組が基本的となっている。創業や起業に意欲のある人材、企業間連携や新領域の開拓に意欲のあるベンチャー企業等を誘致する上では、寒川町の取組はアピールできる材料として活用できる。

■ 産業・雇用系政策の比較

	概要
寒川町	①きめ細やかな支援による経済規模の拡大と産業集積の促進 ・立地する企業の操業環境や経営課題などを把握し、的確な支援ができる体制を構築 ・新たなビジネスの創出や創業者を支援する環境を整備 ・具体的取組例：地域で企業を支援するエコノミックガーデニング
茅ヶ崎市	①既存企業支援と働き方の多様化による雇用の創出 ・商工業振興など既存企業に対して支援 ・事業所内保育、ワーク・ライフ・バランスの啓発など労働環境整備、高齢期における社会参加の仕組みづくりなど働き方の多様化を支援 ②チャンスをつ捉えた新たなビジネスの創出 ・さがみロボット産業特区推進や産業系市街地整備による企業誘致 ・高齢者の知識経験を活かした学習・体験活動など高齢者の生き甲斐就労の推進
藤沢市	①困難を有する子ども・若者の自立支援 ・就労に困難を有する若年者の自立、就職、定着に至るまでの支援を推進 ②中小企業の経営安定のための支援 ・中小企業の新製品・新技術等の販路拡大を促すため、国内・海外の展示会への出展を支援
海老名市	①地域産業の競争力強化 ・農地の利用調整活動、農作業の共同化など魅力ある農業の振興 ・魅力ある商店街の形成や中心商業地の活性化調査などにぎわいのある商業の振興 ②活力ある工業の振興 ・市内中小企業の経営基盤の安定化に向けた支援 ・「さがみロボット産業特区」の取組について、県や民間との連携の検討 ③広域交通網の充実を活かした、企業立地の促進 ・固定資産税・都市計画税・法人市民税の軽減など企業立地へのインセンティブの付与 ・工業系の新市街地形成に向けた土地区画整理事業の促進や工業の集団化等
厚木市	①地域経済の活性化や雇用の創出に大きな役割を果たす企業の誘致を推進 ・土地区画整理事業などによる新たな産業拠点の創出 ・中心市街地の空き店舗の活用支援や企業立地に対する奨励金など企業誘致の推進 ②中小企業の正規雇用拡大、労働生産性の向上、円滑な事業承継を支援 ・経営や研究等に対する融資や補助金などによる資金的な支援
平塚市	①基幹産業の競争力を強化 ・企業の施設整備や新規雇用に対する支援/企業の共同研究や海外展開に向けた支援/販路拡大や産学公の連携強化の支援/魅力的な個店や商店街づくりのための支援/ツインシティ整備の推進 ②多様な担い手が活躍する機会 ・起業家や担い手（農業者・商業者）の育成や中小企業者の販路開拓の支援 ③地域資源を活用した新たな事業を創出 ・産業間の連携や観光を活用した地場産品の普及・啓発の推進
綾瀬市	①基幹産業の競争力強化 ・新商品開発や中小企業の販路拡大、事業拡大など稼ぐ力の向上に対する支援 ・工業系新市街地など企業誘致のための新市街地整備 ②農業者の育成・支援及び農畜産物のブランド化 ・収益性の高い畜産経営が展開できる施設整備への支援など畜産農家の連携による高収益型施設の整備 ③地域産業を支える人材の確保 ・ものづくり技術の魅力の情報発信などを通じた市内企業への就職意欲の向上

(2) 人口流動系政策（定住、交流人口）

寒川町は、生産年齢人口の確保を最大の目的としたタウンプロモーションに重点を置いていることが特徴である。近隣自治体でも平塚市を除いてシティセールス、シティプロモーションの取組が位置づけられているが、寒川町のように子育て世代に明確なターゲットを絞っているというよりは、観光・交流振興など地域経済効果も含んだ多方面の効果を狙っていると考えられる。

■ 人口流動系政策の比較

	概要
寒川町	① アピールポイントの発見・創出と発信力の強化 ・ 地域資源を有効に活用した「まち」のイメージアップにつながる取組の実施 ・ 効果的なタウンセールスの展開等の情報発信力の強化
茅ヶ崎市	① 人々のきずな、支え合いの強化 ・ 地域コミュニティ事業などひとのきずなとネットワークづくり ・ 空き家の利活用や多世代共生住宅整備、地域福祉活動支援など支え合い活動、ふれあい・交流によるきずなの強化 ② 地域の特性を活かした観光プロデュース ・ 道の駅整備や茅ヶ崎海岸グランドプラン、スポーツ公園整備など国道 134 号線沿線の魅力づくり ・ 観光資源の回遊性の充実など歴史・文化を活かした魅力のプロデュース ③ 茅ヶ崎の魅力を発信するシティプロモーション ・ 観光や特産品など特徴的な地域資源の魅力の発信によるプロモーション活動の展開
藤沢市	① 多彩なシティプロモーションの推進 ・ ふじさわ宿交流館の整備や市民との協働による藤沢の魅力発信組織・事業の運営
海老名市	① まちの魅力向上 ・ 美化や景観形成、生活環境の保持、防災活動など住みたい住み続けたいまちづくりの推進 ② シティプロモーション（PR 活動）の充実 ・ 魅力的な事柄やイメージの発信や地域資源の発掘、磨くことによる回遊促進などにぎわいづくり ・ さまざまな広報媒体による適時・的確な行政情報の提供や「海老名市の魅力情報」の発信など市政情報の積極的な発信によるブランド力の向上 ・ 市のイメージキャラクター「えび〜にゃ」の効果的な活用による PR 活動 ③ 企業活動、市民活動の活性化による、意識・プライドの醸成 ・ スポーツ・レクリエーション大会の開催や市民と行政との協働による市政運営の推進 ・ 市民の社会貢献活動及び市民活動への支援や市民参加条例の普及、啓発及び円滑な推進 ・ 文化芸術の振興や市民の郷土意識の醸成など豊かな心を育む取組を実施 ・ 市民の意見を広く聴取した市政の効率的な運営
厚木市	① 「選ばれる都市」を目指し、あつぎの魅力を都市ブランドとして確立し、戦略的に全国に発信する ・ 市民協働によるシティセールスの推進やあつぎの魅力の発信力強化 ② 20 歳代を中心とした若い世代に対する市内企業への就職支援の充実と定住促進に取り組む ・ 青年新規就農者への給付金の交付、就農後の営農定着を促進のための支度金を交付や市内企業等に対するロボット製品の研究・開発費用の一部を補助などの就労支援の充実と市内企業情報の発信力強化 ・ 農地の保全と農業経営の安定化や魅力あるまちづくりのため、若い世代で構成する組織を新たに設置
平塚市	～該当なし～
綾瀬市	① 地域振興施設等の整備・誘導 ・ 地域振興施設等の整備または誘導の取組 ② 着地型観光の創出と商業の活性化 ・ 綾瀬市活性化応援寄附金の創設やあやせ知名度アップチャレンジへの支援などシティセールスの充実強化 ・ 新たな着地型観光の創出やロケツーリズムによる誘客の促進など着地型観光の創出 ・ グルメ・特産品の開発と普及支援や空き店舗の活用支援

(3) 子育て系政策

寒川町、近隣自治体いずれにおいても、結婚支援、子育ての不安解消、学校教育の充実、地域ぐるみで子育てする環境づくりは共通している。近隣自治体では茅ヶ崎市、藤沢市が待機児童の解消を掲げており、待機児童の多さが背景にあると考えられる。

タウンプロモーション上の考え方としては、「子育てにやさしい」というわかりやすいメッセージを伝えることが重要で、多くの人がある価値を認識する取組のPRが重要である。

	概要
寒川町	<p>①結婚から子育てまでの切れ目のない支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出会いのきっかけづくりなどによる結婚支援や出産や子育ての経済的負担や悩みの軽減、子育てと仕事が両立できる環境づくり <p>②学力の向上と家庭教育支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育環境や教育内容の充実/家庭での学習習慣の醸成 <p>③子育てを応援する地域社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会が連携し、一丸となって子育てを応援する環境づくり
茅ヶ崎市	<p>①希望する結婚・出産・子育てを応援する切れ目のない支援体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定不妊治療助成事業や母子保健指導事業など出産前のきめ細やかな応援 ・母子保健訪問指導等事業など育児の不安を和らげる切れ目のない支援体制の構築 ・「婚活イベント」等の後援及び情報発信 <p>②ニーズに応じた保育サービス・放課後等の子どもの居場所の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園等の整備拡充や民間保育園等運営事業（延長保育などの実施）など保育サービスの多様化 ・放課後児童健全育成事業や長期休暇対策事業など放課後等の子どもの居場所づくり <p>③地域ぐるみの子育てサポート体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーサポートセンター事業や地域児童福祉推進事業などふれあいと支え合いによる子育てサポート
藤沢市	<p>①地域のニーズに則した子ども・子育て支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブの拡充 <p>②待機児童解消をはじめとする保育環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所施設整備等の推進
海老名市	<p>①結婚・出産・子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育ニーズ及び病後児保育需要への対応など子育て支援の充実 ・認可保育所及び施設型給付に移行した幼稚園に対する運営補助や民間認可保育所に対する助成 ・手当支給（所定の要件を満たす支給対象者）や医療費負担軽減などひとり親家庭等の支援 ・婚活支援セミナーや婚活イベントの検討 <p>②教育環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育の研究・実施や全小中学校の海老名型コミュニティスクール化などひびきあう教育の推進 ・地域の子どもは地域で守る体制の構築や放課後時の保育団体への支援など子どもの居場所づくり ・児童生徒が安心して学校生活を送れる環境整備や地域住民が集う学校のあり方検討など学校施設の充実 ・経済的理由による就学困難な児童・生徒の保護者に対する経済的援助など教育支援体制の充実 <p>③移住支援、防犯・防災対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児交通安全教室の実施や市内認可保育園及び私立幼稚園の安全確保などの取組を実施 ・地域自主防犯組織の強化や交番の新設及び既存交番の適正配置の要望など防犯対策の推進 ・新住宅制度（住宅改修、空き家の利活用及び3世帯同居のための改修に対する助成）の実施 ・家賃補助、奨学金貸付など学生の定住促進

	概要
厚木市	<p>①結婚への希望をかなえるため、男女の出会いと交流の場を創出する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出会いの場や交流の場の創出 <p>②市民ニーズに対応した妊娠から出産、子育て期にわたる支援を充実する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定不妊治療の治療費の一部助成や母子保健法に基づく健康検査や保健指導など妊娠・出産への支援の充実 ・ 長時間保育や私設保育施設への入所に対する補助金の支給など子育て世帯への経済的支援の充実 ・ 放課後児童クラブの運営や育児相談など子育て支援拠点の充実 ・ 幼稚園送迎ステーションの運営など保育所待機児童の解消の取組を実施 ・ 家庭教育学級を開設の支援や休日保育事業、病後児保育事業等の実施など子育て支援体制の充実 <p>③子育て世代が仕事と子育てを両立しながら、安心して子育てできる環境づくりを促進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所内保育施設の設置に対する事業主への費用の一部補助などワーク・ライフ・バランスの促進 <p>④未来を担う子どもたちが夢と希望を持ち続け、夢へのチャレンジ精神を高めることができる魅力あるプログラムを推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市立全小・中学校への外国語指導助手配置など魅力ある教育プログラムの推進
平塚市	<p>①若い世代の結婚・出産を支援する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妊婦・乳幼児の健診や相談事業などの実施/就職に向けた活動の支援やワーク・ライフ・バランスに取り組む企業への支援/周産期医療の充実と分娩取扱医療施設の整備 <p>②安心して子育てができる環境をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ファミリーサポートセンターの運営や保育所等の運営・施設整備への助成 <p>③子どもの健やかな成長を支援する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域子育て支援拠点事業の推進や学校施設の各種点検や老朽化した建物・設備の改修
綾瀬市	<p>①結婚、妊娠、出産、子育てへの切れ目ない支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妊産婦・乳幼児支援情報管理システムの整備や子育て世代包括支援センターの整備 ・ 5歳児発達相談 ・ 結婚・出産に関する普及啓発や結婚に向けた出会いの場づくり <p>②子育てしやすい環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援センターの増設 ・ 子育て練習講座事業の拡充 ・ 三世代ファミリー定住・近居支援補助金 ・ 第2子以降への紙おむつの給付や子育て用品のレンタル料または購入費助成 ・ 生活困窮世帯等の中学生への高等学校進学に向けた学習支援やひとり親家庭の親の高等学校卒業認定試験合格のための講座受講費用の助成 <p>③子育てと仕事の両立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認可保育所・小規模保育事業所の誘導や幼保連携認定こども園への移行誘導 ・ 公設放課後児童クラブ施設の整備/民設放課後児童クラブの利用者支援 ・ 病児・病後児保育の実施誘導や保育コンシェルジュの設置 <p>④確かな成長を支える学習環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あやせっ子ふれあい未来塾や小学校への音楽アウトリーチ事業の拡充、神崎遺跡での歴史学習

5 地域資源の整理

基礎調査分析結果の再整理、各種アンケートの再整理、人口関連政策の比較分析を踏まえて、寒川町の地域資源及びプロモーション活動での活用の方向性を整理する。ここでの地域資源は、本業務の目的が「新たな人の流れを生み出す」（転入促進）であることを踏まえ、交流（定住のきっかけとなる）や雇用、住環境、生活利便性に関する領域を中心とする。また、参考として、比較対象自治体の地域資源の概要を整理する（各市の既存資料等を活用）。

(1) 寒川町

区分	地域資源	概要	活用の方向性
交流	寒川神社	<ul style="list-style-type: none"> ・全国唯一の八方除けの守護神 ・緑豊かな関東屈指のパワースポット ・町内で最も集客力がある観光資源 	<ul style="list-style-type: none"> ・寒川町を知るきっかけとしての活用 ・寒川神社に訪れた機会を捉えて、町の魅力を PR
交通利便性	鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 相模線の駅が町内に 3 駅あり、厚木、海老名、茅ヶ崎に乗り換えなしで行くことができる ・東京駅や新宿駅へは鉄道で約 1 時間 10～20 分程度でアクセスできる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自家用車が利用できない場合（例えば車が 1 台しかなく、お父さんが通勤で利用している世帯等）でも交通手段が確保されていることを PR ・東京方面も通勤圏であることや、休日に東京にお出かけできる環境にあることを PR
	高速道路	<ul style="list-style-type: none"> ・さがみ縦貫道路の寒川 IC・寒川北 IC があり、中央道や東名高速道路等へのアクセスが便利 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京方面への自動車のアクセス利便性に優れているほか、休日に遠方のレジャー地にお出かけする際にも便利であることを PR
雇用	製造業の集積	<ul style="list-style-type: none"> ・産業（製造業）の町として町内に雇用の場が確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・寒川町で就業している町外の子育て層に寒川町での暮らしの魅力を PR
	エコノミックガーデン	<ul style="list-style-type: none"> ・産業政策と地域力政策の連携・融合により地域企業を支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・創業、起業などチャレンジを志している若者・子育て世代に対し、寒川町の支援策を PR（チャレンジングな人材の転入を促進）
	近隣自治体も含めた雇用機会	<ul style="list-style-type: none"> ・若年・子育て世代の自市町内従業員率は 0.34 であり、近隣自治体に通勤するライフスタイルが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣自治体も含めて多様な雇用機会があり、寒川町はその通勤圏であることを PR ・自動車があれば、必ずしも鉄道の運行頻度が不便要素にならないことを PR
住環境	閑静な郊外型の住環境	<ul style="list-style-type: none"> ・農地や河川・緑地等の自然を身近に感じることができる ・開放感がある街なみが形成されている（都市計画で高い建物を規制） ・富士山、大山の美しい景観のある暮らしがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・「閑静」＝「治安が良い」イメージを構築して安全・安心に関心が高い子育て世代に PR ・スローライフ志向の子育て世代に、家族と落ち着いた暮らしを送ることができる環境を PR
	寒川駅周辺のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・保育、医療、最寄品商業など生活サービスが集積している 	<ul style="list-style-type: none"> ・閑静さと利便性を兼ね備えた中心駅の駅近生活を PR
	さむかわ中央公園	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがのびのびと安心して遊べる公園であり、ファミリーのお出かけスポット 	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトドア、インドアの両面で子どもたちが安心して過ごせる居場所（公共施設）があることを PR
	総合図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・最新の図書館で、視聴覚ブースや IT 対応が充実 	
住環境	わいわい市など	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の安全・安心・新鮮な農産物の 	<ul style="list-style-type: none"> ・スローライフ志向を持つ子育て世代を対象

区分	地域資源	概要	活用の方向性
	農的な魅力	直売所 ・農産物の低減に取り組む農家の割合が高い	に食の安全・安心、食育などのPR材料として活用
	近隣自治体の都市機能集積	・藤沢市、茅ヶ崎市、海老名市、平塚市、厚木市に接しており、ショッピングなどの都市的な楽しみを享受できる	・日常生活は閑静な暮らしを享受しながらも、時には都市的なレジャーやショッピングを楽しむことをPR ・自動車があれば、多様な楽しみを享受できることをPR
	住宅地地価、家賃	・寒川町の住宅地価格や家賃は他市と比較しても低い水準	・手頃な価格で、閑静で利便性が確保された暮らしを場を確保できることをPR
子育て支援	待機児童数	・茅ヶ崎市、綾瀬市と比較して待機児童数が少ない	・多様な保育サービスやファミリーサポートなど多様な子育て支援を享受できる環境をPR ・保育園・幼稚園、小児科を利用しやすい施設配置になっていることをPR
	多様な保育サービス	・延長保育、一時保育、地域子育て支援活動がすべての保育所で実施（一時保育は平成28年度中に実施予定）	
	ファミリーサポート	・近隣自治体の中では寒川町だけがファミリーサポートセンターの利用料に補助（最も安価）	
	施設立地	・市街化区域の9割は、保育所・幼稚園の1000m圏域でカバー ・市街化区域の6割は、小児科の1000m圏域でカバー ・年少人口千人当たりの小児科の立地数：寒川町は綾瀬市より高く、茅ヶ崎市と概ね同水準	

(2) 茅ヶ崎市

区分	地域資源	概要
交流	海、サザンビーチ	・茅ヶ崎を代表する観光スポットであり、年間を通じて海や砂浜を舞台にしたイベントが開催されている
交通利便性	鉄道	・東海道線（湘南新宿ライン、上野東京ライン）があり、東京や渋谷に1時間程度でアクセスできる
	高速道路	・さがみ縦貫道路を利用することで、中央道や東名高速道路等へのアクセスが便利
雇用	医療・福祉分野	・医療・福祉分野の事業所の従業員数が多く、労働生産性（従業員一人当たりの付加価値額）は高い
住環境	生活利便性	・良好な自然環境と居住環境、利便性などから、住みやすいと感じている市民が多い
	魅力あるストーリー	・鉄砲道や桜道、ラチエン通り、雄三通り、サザン通りなどは、市民や来訪者に茅ヶ崎らしさを伝え親しまれており、サーフショップや雑貨店など若者たちをひきつける店舗が立地
	茅ヶ崎ライフスタイル	・海や里山の自然に恵まれ、ウォーキングやジョギング、サイクリング、サーフィン、マリンスポーツなどを楽しんだ後、仕事に出かけるなど、健康を育みながら湘南の魅力を味わえるライフスタイルを発信

(3) 藤沢市

区分	地域資源	概要
交流	江の島	・「江の島」と片瀬から鵠沼へと続く「湘南海岸」一体のエリアは、首都圏有数の海水浴場として、またマリンスポーツのメッカとして、親しまれている ・2020 オリンピック会場と
交通利便性	鉄道	・東海道線（湘南新宿ライン、上野東京ライン）があり、東京や渋谷に1時間程度でアクセスできる ・JRをはじめ6つの鉄道が乗り入れ
	高速道路	・新湘南バイパスからさがみ縦貫道路を利用することで、中央道や東名高速道路等へのアクセスが便利
雇用	研究開発機能	・工場跡地が研究開発施設に変わるなど、これまでの生産拠点の集積が、転換により研究開発機能の集積につながっている ・湘南工科大学、慶應義塾大学、日本大学、多摩大学の4大学が立地 ・「新産業の森」地区など新規産業用地の創出
住環境	生活利便性	・学研パブリッシングから発表された「主婦が幸せに暮らせる街ランキング」（平成26年）で「主婦が幸せに暮らせる街ランキング」で1位（自然が身近、歴史がある、学校などが多い、交通アクセスがよい、ショッピングが充実している等が評価要素） ・ショッピングモールが辻堂周辺に集積
子育て支援	医療費控除	・小学6年生までの小児は通院・入院の医療費が所得に関係なく控除 ・「子育てネットふじさわ」「子育てメールふじさわ」を運営するなど、積極的にインターネットを活用 ・「にっぽん子育て応援団」による子育てに関する調査・評価で全国104の自治体の中からトップ5（3位）に選定

(4) 海老名市

区分	地域資源	概要
交流	海老名駅周辺	・海老名駅周辺では、大規模商業施設が集積：従来のショッピングモール（ピナウオーク）に加え、平成 27 年 10 月に大型商業施設「三井ショッピングパークららぽーと海老名」がオープン
交通利便性	鉄道	・鉄道が 3 線（小田急線、相鉄線、JR 相模線）走っており、駅は 9 箇所 ・平成 28 年 3 月の小田急線のダイヤ改正で特急ロマンスカーが停車 ・平成 30 年には相模鉄道が JR 横須賀線と直通運転、平成 31 年には東急東横線と直通運転を開始する予定
	高速道路	・さがみ縦貫道路の海老名 IC があり、中央道や東名高速道路等へのアクセスが便利
住環境	生活利便性	・海老名駅周辺では、大規模商業施設が集積：従来のショッピングモール（ピナウオーク）に加え、平成 27 年 10 月に大型商業施設「三井ショッピングパークららぽーと海老名」がオープン【再掲】 ・「みんなが選んだ住みたい街ランキング 2015 関東版」（リクルート住まいカンパニー調べ）の「穴場だと思える街ランキング」8 位、「今後、地価が値上がりしそと思う街ランキング」5 位にランクイン
	都市と自然の調和とれた環境	・海老名駅周辺の中心市街地の整備に代表される「都市的な顔」と海老名耕地の田園風景や大山・丹沢の眺望などの「自然的な顔」を持つ
子育て支援	医療費助成	・入院・通院ともに中学卒業まではすべて無料

(5) 厚木市

区分	地域資源	概要
交流	飯山温泉郷及び東丹沢七沢温泉郷、自然の魅力	・飯山温泉郷は、東丹沢山麓の東端にあり東京の奥座敷 ・東丹沢七沢温泉郷は、七沢・別所・広沢寺・かぶと湯の 4 つの温泉の総称で、丹沢七沢国定公園 大山の東稜に位置する自然に囲まれた温泉郷 ・自然の魅力としては、丹沢・大山、白山、相模川や森林公園
交通利便性	鉄道	・本厚木駅は小田急電鉄の急行駅であることから、本数が多く利用しやすい
	高速道路	・東名高速道路及び圏央道のインターチェンジが 2 箇所設置 ・東名高速道路、圏央道、小田原厚木道路へのアクセスが便利 ・現在、新東名高速道路及び厚木秦野道路の整備が進行中
雇用	企業集積	・我が国を代表する世界的な企業やその研究施設が多く存在 ・昭和 55 年以降、一貫して昼間人口が常住人口を上回っており、平成 22（2010）年の昼夜間人口比率（114.9%）は、全国 813 市区中 16 位、（県内 1 位）
住環境	生活利便性	・東京や横浜から 1 時間程度の近郊にある住みやすさ・通勤の利便性
	都市と自然の調和とれた環境	・東京・横浜近郊の自然と都市生活が調和したまち ・丹沢・大山等を控えた豊富な自然や、身近な里山や河川などの存在
子育て支援	医療費助成	・中学卒業まで医療費助成
	子育て支援センター	・平成 26 年 5 月にリニューアルオープンした子育て支援センター「もみじの手」は、リニューアル前の約 2 倍となる年間 10 万人の利用 ・県内最大級の面積（約 536 m ² ）を誇り、土日も開所していることから、家族での利用も多い
	幼稚園での預かり保育	・幼稚園は働く保護者も安心して子どもを預けられるよう、預かり保育を実施 ・保育所と同じように朝 7 時 30 分から、夜 6 時 30 分まで預かり保育を実施 ・幼稚園を利用する保護者の経済的負担を軽減するため、保護者の所得に応じて保育料を補助する「就園奨励費補助金」を交付

(6) 平塚市

区分	地域資源	概要
交流	七夕まつり	・日本一豪華な七夕まつりとして有名で、百万人を超える来場者でにぎわう
	サッカー	・サッカー J 1 「湘南ベルマーレ」のホームタウン
交通利便性	鉄道	・東京から J R 東海道線約 1 時間
	高速道路	・小田原厚木道路平塚 IC を利用することで東名高速道路、圏央道へのアクセスが便利
雇用	企業集積	・製造業と卸売業・小売業の従業者数を合わせると、全産業の約 4 割を占めている
住環境	生活利便性	・ J R 東海道本線平塚駅を中心に商業・業務機能が集積
	文化・スポーツ	・市の中心部にある広大な平塚市総合公園には、「わんぱく広場」や「ふれあい動物園」をはじめとした憩いの空間が広がっている ・総合公園の中には、サッカー J 1 「湘南ベルマーレ」のホームグラウンドとなっている Shonan BMW スタジアム平塚（平塚競技場）や、プロ野球の公式戦も開催する野球場、プロバスケットボールの試合を開催する総合体育館などがあり、スポーツ文化の中心地
子育て支援	医療費助成	・中学卒業まで医療費助成

(7) 綾瀬市

区分	地域資源	概要
交流	着地型観光	サイクルツアーやまち歩きツアーなど地域で開発した旅行商品の取組
交通利便性	公共交通	・海老名駅、長後駅など市外の鉄道駅と連絡する路線バスが運行
	高速道路	・平成 29 年度に（仮称）綾瀬スマートインターチェンジが設置予定
雇用	企業集積	・県内 4 位の工業事業所数 ・産業別では「金属製品」及び「一般機械」で全体の半数近くを占めるが「輸送用機械」の割合も高い
住環境	生活利便性	・平成 17 年に市役所周辺にオープンした綾瀬タウンヒルズショッピングセンターが中核的な商業施設
	静かな街並み	・市役所周辺以外は閑静な住宅街が広がる ・市民一人当たりの住区基幹公園面積は近隣自治体の中で最も多く、身近な公園が充実しているほか、ホテルなど自然とのふれあい機会も充実
子育て支援	放課後児童対策	・平日に全児童が利用できる放課後子ども教室を実施

6 アンケート調査

寒川町の地域資源等（強みや魅力）を町外住民の視点で評価・検証するとともに、プロモーション活動のターゲット像を明らかにするためのアンケート調査を実施する。

アンケートは、①東京都・横浜市住民、②比較対象自治体住民、③町民、④寒川町職員の4種類を実施する（平成28年7月実施）。

■ 調査項目

設問項目		アンケート種類				分析への反映
		①	②	③	④	
属性	性別	○	○	○	○	回答者タイプのプロファイルに活用
	年齢	○	○	○	○	
	同居家族	○	○	○	○	
	子の年齢	○	○	○	○	
	職業	○	○	○	○	
	居住地	○	○	○	○	
	居住年数	○	○	○	○	
	通勤通学先	○	○	○	○	
	通勤通学手段	○	○	○	○	
	自家用車の保有台数	○	○	○	○	
	自家用車の駐車場所	○	○	○	○	
	住宅の形態	○	○	○	○	
	世帯年収	○	○	○	○	
利用メディア	SNS・端末の利用状況	○	○	○	○	
	よく読む雑誌	○	○	○	-	
	観光・レジャーの情報源	○	○	○	○	
価値観	生活スタイルや住環境に対する価値観（19項目）	○	○	○	○	回答者のタイプ分類
寒川町の認知	認知	○	○	-	-	素の状態でうかがう寒川のイメージを把握
	寒川町の魅力や印象（自由想起）	○	○	○	○	
寒川町及び近隣自治体のイメージ	機能的イメージ（12項目）	○	○	○	○	町のイメージの内外的ギャップ、寒川町のポジショニング
	情緒的イメージ（14項目）	○	○	○	○	
地域資源の認知・評価	地域資源（14項目）の認知度	○	○	○	○	町内外での地域資源評価のギャップ
	地域資源（14項目）の関心度	○	○	-	-	
	地域資源（14項目）の誇り度	-	-	○	○	
寒川町への転居ニーズ	転居経験の有無	○	○	○	○	寒川町への転居意向と居住地としての魅力評価
	寒川町に転入する前の居住地	-	-	○	○	
	他の市区町村と寒川町の比較検討の有無	○	○	○	○	
	現在の居住地を選択した決めて	○	○	○	○	
	現在の居住地を選んだ際に参考とした情報源	○	○	○	○	
	転居後に許容できる通勤・通学時間、交通手段	○	○	-	○	
	転居後に許容できる商業地へのアクセス時間、交通手段	○	○	-	○	
	寒川町への転居意向	○	○	-	○	
	寒川町への転居を考える余地がある理由	○	○	-	○	
	寒川町が転居の候補地とならない理由	○	○	-	○	
	寒川町での居住の満足度	-	-	○	○	
町からの情報として関心のあるテーマ	-	-	○	○		

■ 調査概要

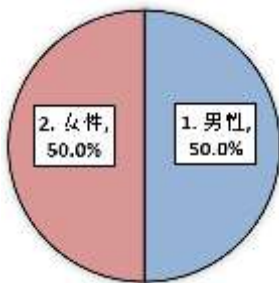
対象	方法	サンプル数
東京都・横浜市住民（20～39歳）	WEBアンケート調査	1000人
比較対象自治体住民（20～39歳）	WEBアンケート調査	862人
町民（20～49歳）	郵送アンケート	80人（配布500人）
職員アンケート	庁内電子システムによる回収	188人

(1) 基本属性

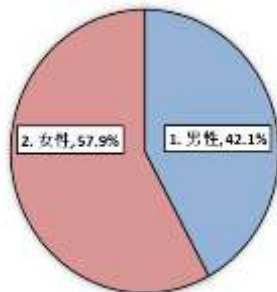
回答者の基本属性を以下に整理する。

■ 性別 (SA)

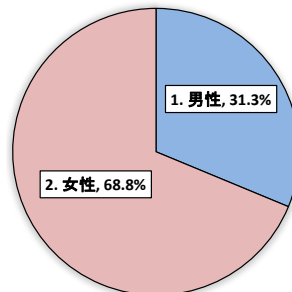
<東京都・横浜市>



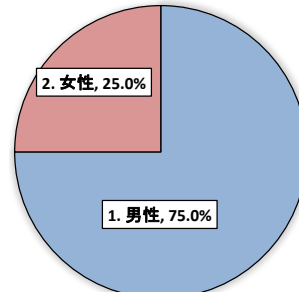
<比較対象自治体>



<町民>

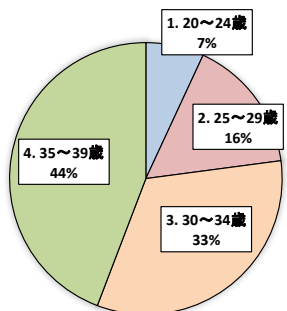


<職員>

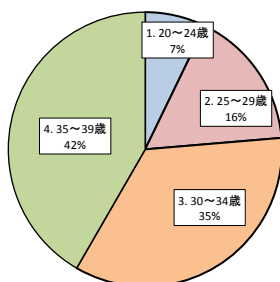


■ 年齢 (SA)

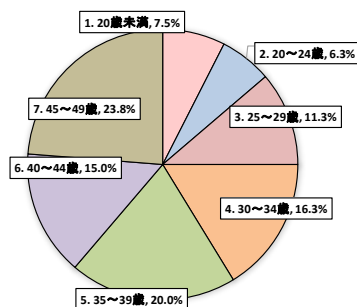
<東京都・横浜市>



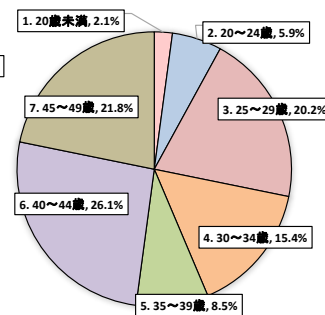
<比較対象自治体>



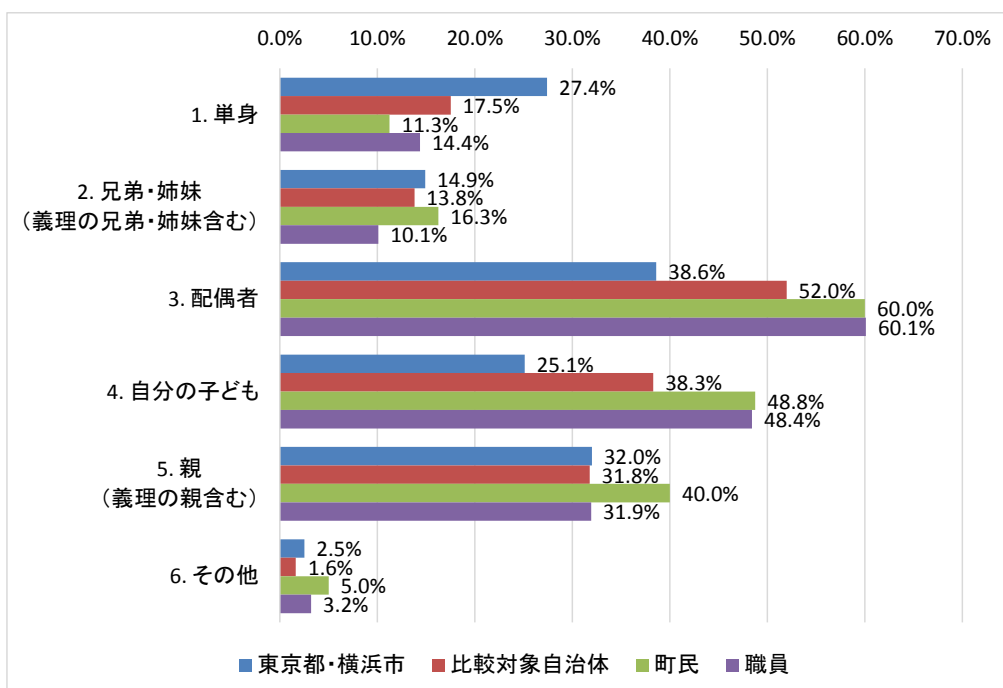
<町民>



<職員>



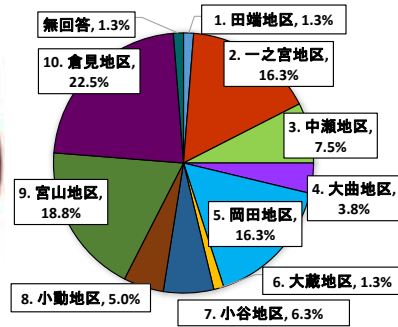
■ 同居家族 (SA)



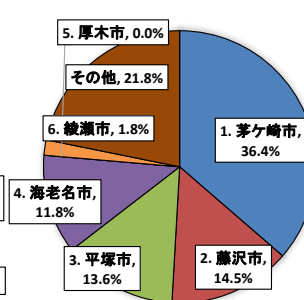
<比較対象自治体>



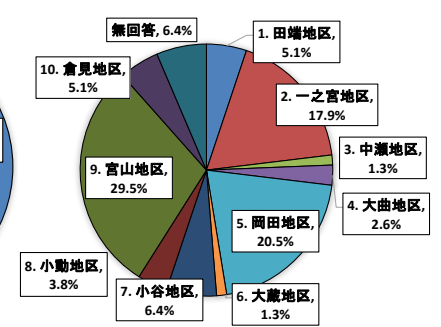
<町民>



<職員 (町外)>

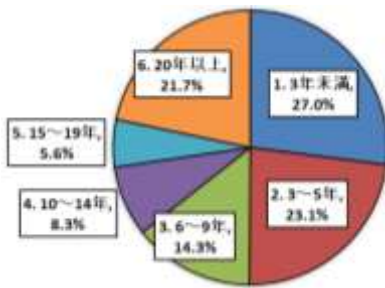


<職員 (町内)>

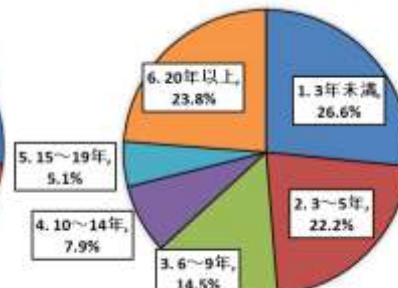


■現在の居住年数

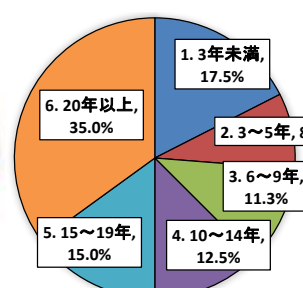
<東京都・横浜市>



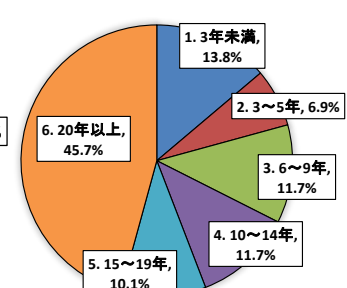
<比較対象自治体>



<町民>

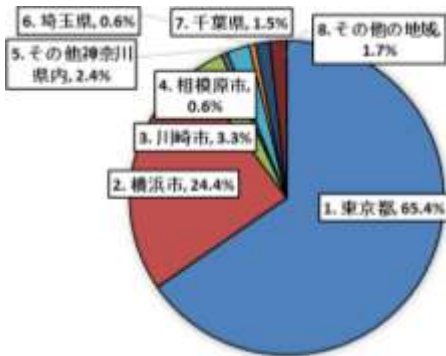


<職員>

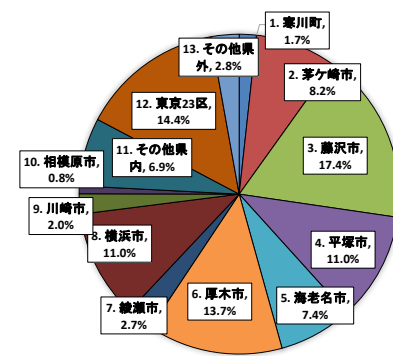


■通勤・通学先

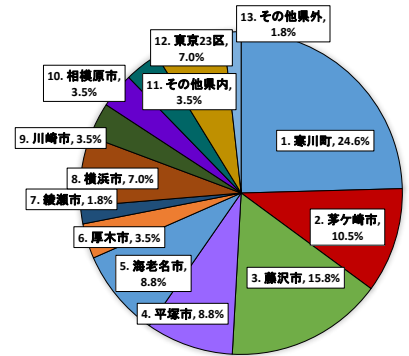
<東京都・横浜市>



<比較対象自治体>

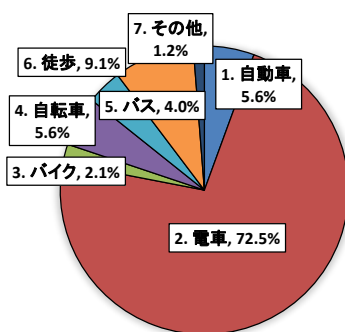


<町民>

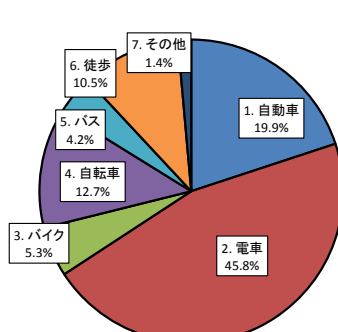


■通勤・通学交通手段

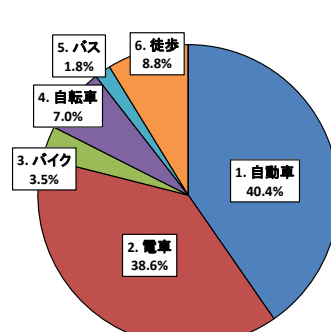
<東京都・横浜市>



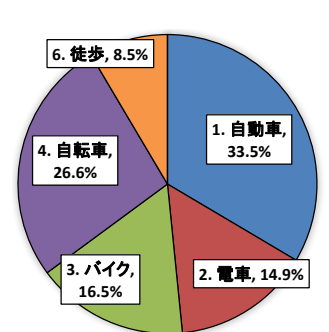
<比較対象自治体>



<町民>

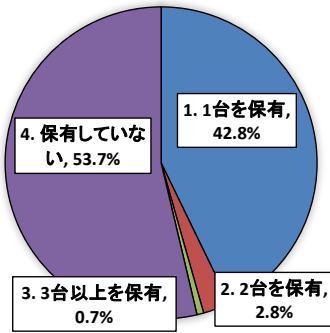


<職員>

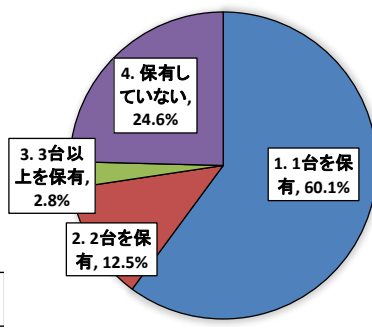


■ 自動車保有台数

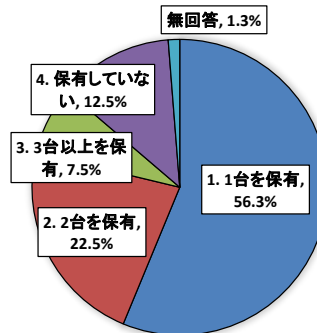
<東京都・横浜市>



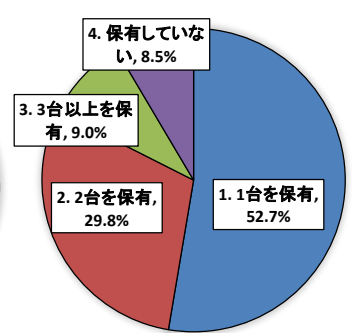
<比較対象自治体>



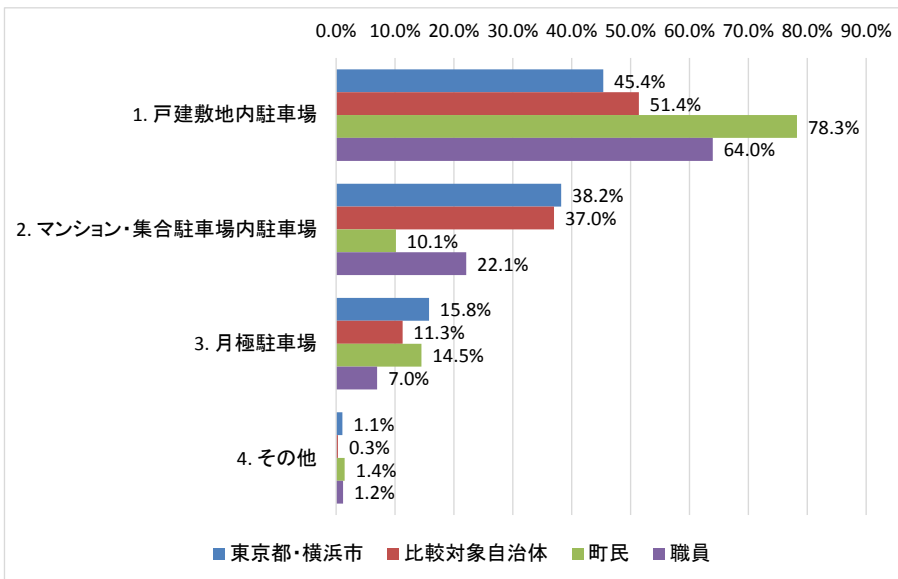
<町民>



<職員>

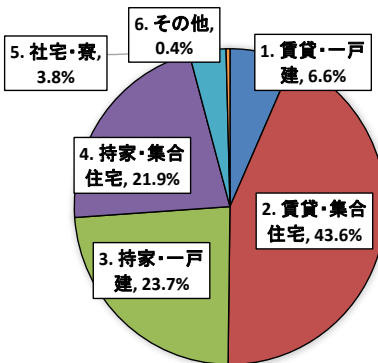


■ 自家用車の駐車場所

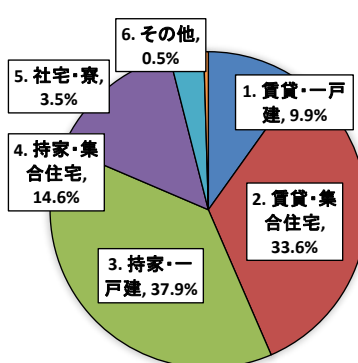


■ 住宅形態

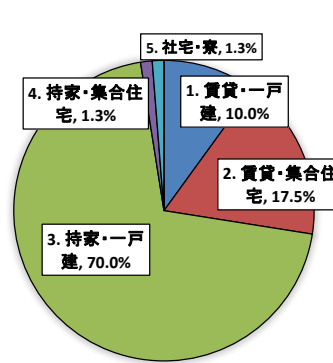
<東京都・横浜市>



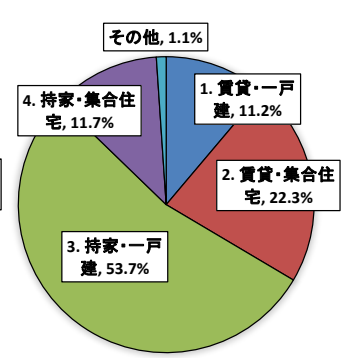
<比較対象自治体>



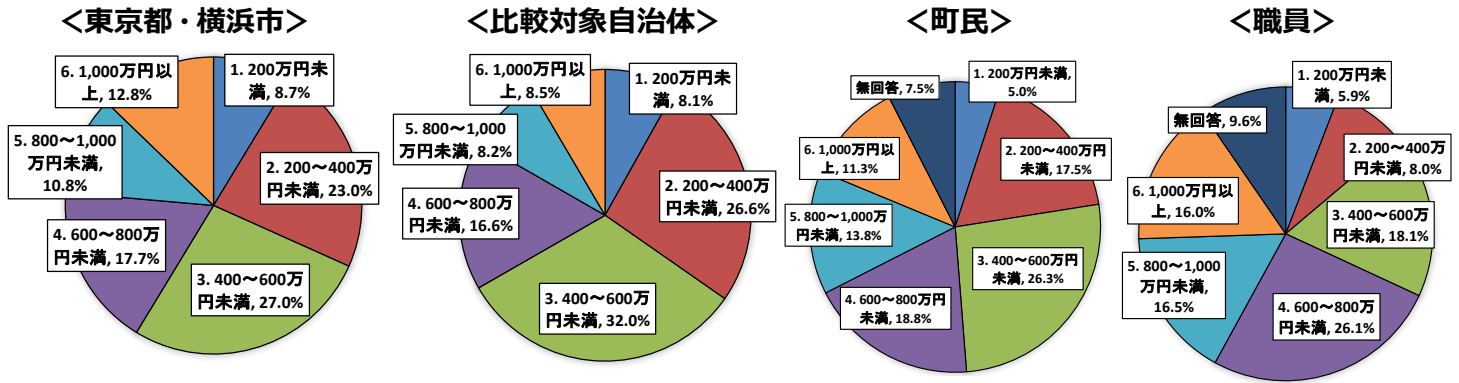
<町民>



<職員>



■ 世帯年収

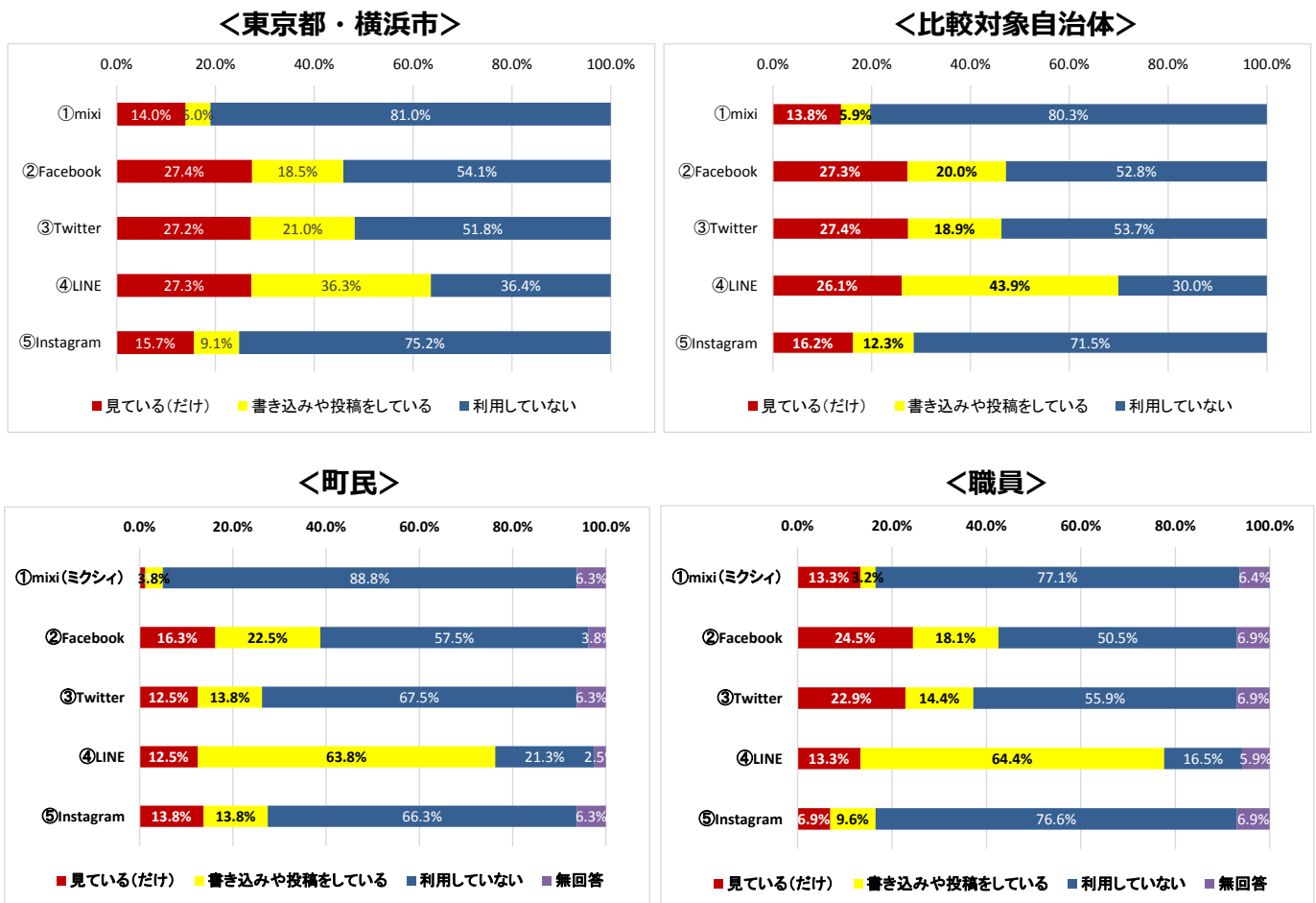


(2) 利用メディア

1) SNSの利用状況

LINE が最も多く、「見ている（だけ）」と「書き込みや投稿をしている」を合わせて約7割が利用している。次いで Facebook と Twitter が約4～5割の利用となっている。Instagram（無料の写真等画像共有アプリケーションソフトウェア）は約2～3割となっている。

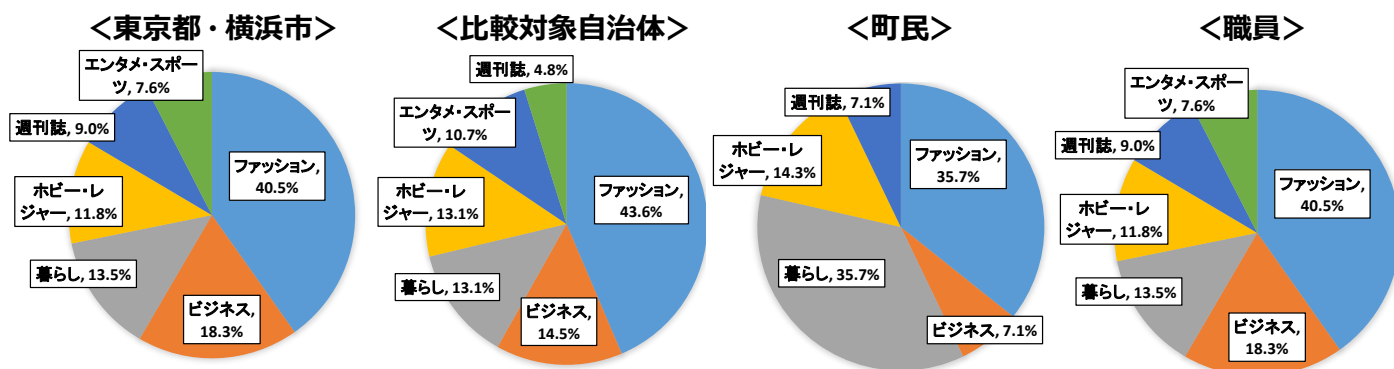
■ SNSの利用状況



2) 定期的に読んでいる雑誌

「ファッション誌」が約4割と最も多く、次いで「ビジネス誌」が1～2割となっている。町民アンケートの結果は、他のアンケート結果と比べて、「ビジネス誌」の割合が少ない一方、「暮らし」の割合が多くなっている。

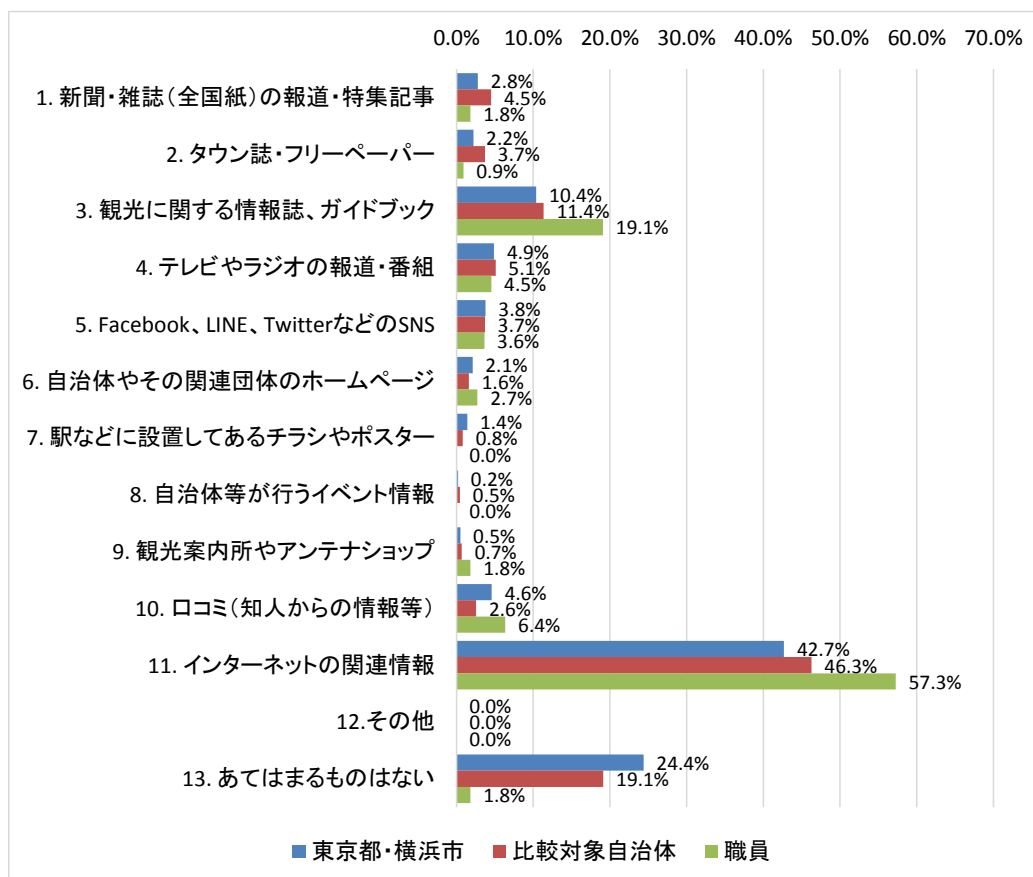
■定期的に読んでいる雑誌



3) 日帰りの観光・レジャーの際に利用する情報源（町外居住者のみの設問）

「インターネット」を情報源とする回答が最も多く4割～6割を占めており、次いで「観光に関する情報誌、ガイドブック」が1～2割の順となっている。

■日帰りの観光・レジャーの際に利用する情報源



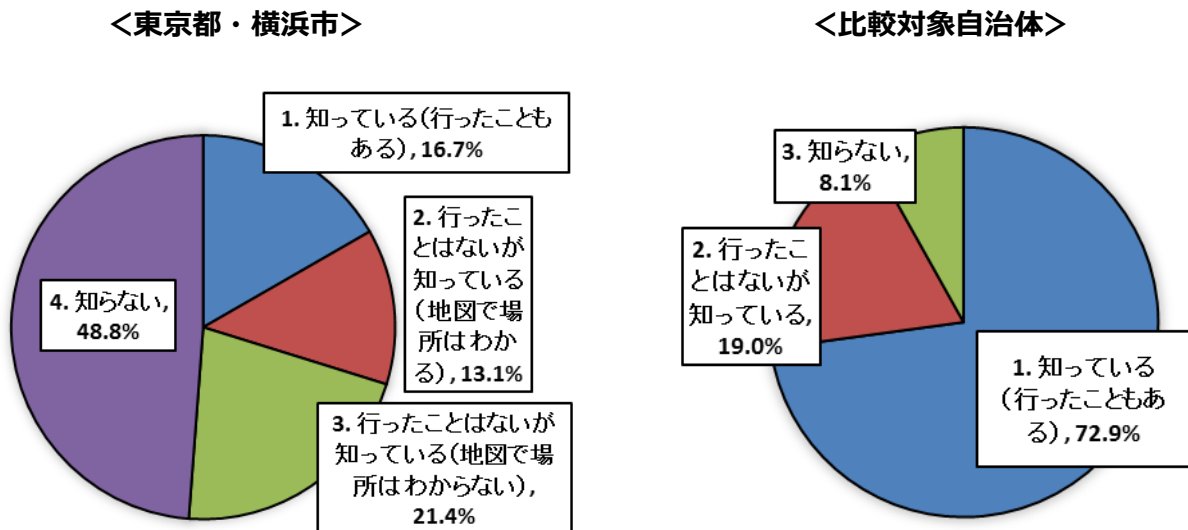
(3) 寒川町の認知度・イメージ

1) 認知度

東京都・横浜市住民の寒川町の認知度は約5割であり、このうち「行ったこともある」は1割以上となっている。

比較対象自治体住民では、認知度が9割以上であり、このうち「行ったこともある」は7割以上となっている。

■寒川町の認知度



2) 寒川町の魅力や印象 (自由想起)

①東京都・横浜市住民

東京都・横浜市住民が「寒川町」と聞いて思い浮かべるものは、「寒川神社」が最も多く227件(62.2%)であった。次いで相模線や圏央道といった交通関係が40件(11.0%)、田舎、相模川、自然・緑等のイメージが38件(10.4%)の順となっている。

■東京都・横浜市住民が「寒川町」と聞いて思い浮かべるもの

分類	回答数	割合	備考
寒川神社	227	62.2%	単に「神社」含む
交通	40	11.0%	相模線30、新幹線誘致等:4、圏央道等:3、駅:3
イメージ	38	10.4%	田舎等:17、相模川等:8、自然・緑:7、不便等:6
地理的位置	25	6.8%	神奈川県、湘南等
産業	10	2.7%	工場、キリン、エプソン等
食べ物・特産	6	1.6%	高座豚、棒コロ、フルーツ等
施設	7	1.9%	寒川体育館、文教大学、寒川高校等
その他	12	3.3%	コロ坊、つりてんくん、いっこく堂等
全回答数	365	100.0%	

②比較対象自治体住民

比較対象自治体住民が「寒川町」と聞いて思い浮かべるものは、「寒川神社」が最も多く556件（63.5%）%であった。次いで田舎、相模川、自然等のイメージが79件（9.0%）、相模線や圏央道といった交通関係が75件（8.6%）、さむかわ中央公園や体育館などの施設が71件（8.1%）の順となっている。比較対象自治体の住民は施設系のイメージも想起している。

■比較対象自治体住民が「寒川町」と聞いて思い浮かべるもの

分類	回答数	割合	備考
寒川神社等	556	63.5%	単に「神社」含む
イメージ	79	9.0%	田舎等:33、相模川等:9、自然等:8、不便等:14 等
交通	75	8.6%	相模線等53、新幹線誘致等:13、圏央道等:9
施設	71	8.1%	体育館・公園等:26、浄水関連施設等:16寒川高校:10、寒川病院:7、わいわい市:5 等
食べ物・特産	35	4.0%	高座豚、棒コロ、ケーキ等
地理的位置	18	2.1%	神奈川県、茅ヶ崎の隣等
産業	16	1.8%	工場、キリン、日産等
その他	25	2.9%	コロ坊、びっちょり祭り、フリーマーケット等
全回答数	875	-	

③町民

町民が思う寒川町の魅力は、自然や閑静・のどか、暮らしやすさ、田舎・農地、コミュニティ・絆、生活コスト（安さ）、安全・安心などの暮らし方のイメージが83件（64.3%）であった。次いで「寒川神社」が28件（21.7%）の順となっている。町民は寒川神社や公共施設、交通インフラ等ではなく、ライフスタイルを魅力と感じているところが特徴である。

■町民が思う寒川町の魅力

分類	回答数	割合	備考
イメージ	83	64.3%	自然等:22、閑静・のどか:17、暮らしやすさ:16、田舎・農地:9、コミュニティ・絆:7、生活コスト:7 安全・安心:3
寒川神社	28	21.7%	単に「神社」含む
施設	8	6.2%	公園、図書館、わいわい市等
交通	4	3.1%	新幹線新駅、圏央道、相模線、相鉄いずみ野線延伸
地理的特性	3	2.3%	湘南:2、茅ヶ崎の隣
産業	0	0.0%	
食べ物・特産	1	0.8%	産直野菜・果物・花などが豊富
その他	2	1.6%	浜降祭
全回答数	129	100.0%	

④職員

職員が思う寒川町の魅力や印象は、「寒川神社」が 108 件 (35.8%) であり、次いで自然・景観や、田舎・農地、コミュニティ・絆、生活コスト (安さ)、安全・安心などの暮らし方のイメージが 104 件 (34.3%) であった。町民と比較すると、寒川神社の回答が多くなっているほか、交通、食べ物・特産、施設などの回答も町民よりも多く挙げられている。

■職員が思う寒川町の魅力や印象

分類	回答数	割合	備考
寒川神社	108	35.8%	単に「神社」含む
イメージ	104	34.4%	自然・景観等:38、田舎等:13、暮らしやすさ:12、不便等:9、閑静・のどか:9、生活コスト:6、コンパクト性・地形:6、コミュニティ・絆:6、安全・安心:5
交通	27	8.9%	相模線13、新幹線誘致等:3、圏央道等:11
食べ物・特産	16	5.3%	梨、棒コロ、ラメール等
施設	20	6.6%	さむかわ中央公園、わいわい市等
産業	9	3.0%	工場、農業等
地理的位置	7	2.3%	県央、茅ヶ崎の隣等
その他	11	3.6%	びっちょり祭、浜降祭等
全回答数	302	100.0%	

3) 寒川町の機能的イメージ

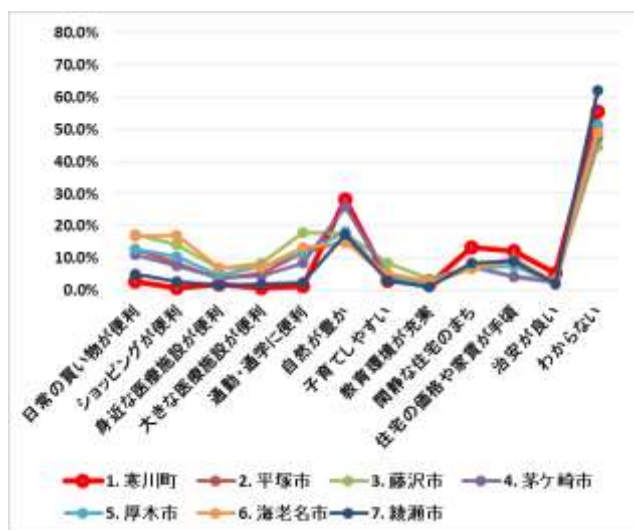
①機能的イメージの単純集計

東京都・横浜市及び比較対象自治体の住民ともに寒川町の機能的イメージは「自然が豊か」、「閑静な住宅のまち」、「住宅の価格や家賃が手頃」となっている。また、「わからない」との回答は、東京都・横浜市及び比較対象自治体の住民ともに綾瀬市が最も多くなっている。

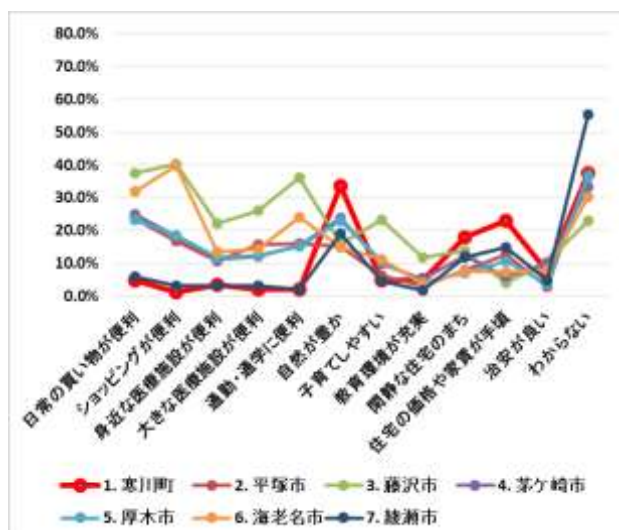
一方、町民は「日常の買い物」や「身近な医療施設」の利便性に対する評価が高く、比較対象自治体と劣らないと感じている。日常生活の利便性に関しては、町内外でギャップがあることがわかる。また、職員アンケートでは、日常生活利便性について町民よりも厳しい評価をしている。町民は絶対評価で寒川町の利便性を捉えている一方、職員は相対評価で捉えていると考えられる。

■寒川町及び比較対象自治体の機能的イメージ

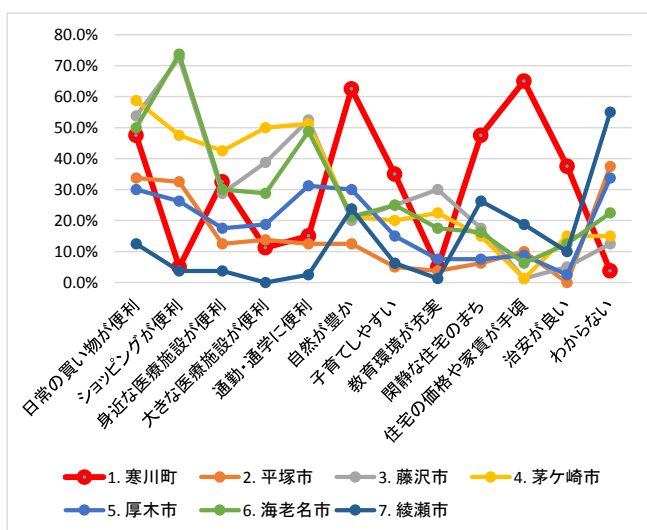
＜東京都・横浜市＞



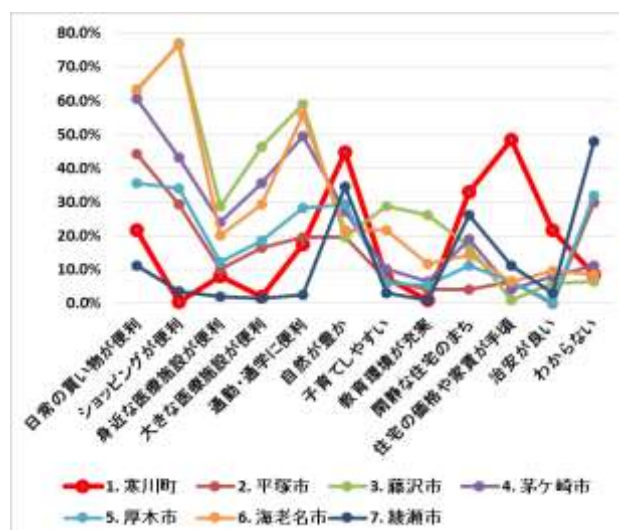
＜比較対象自治体＞



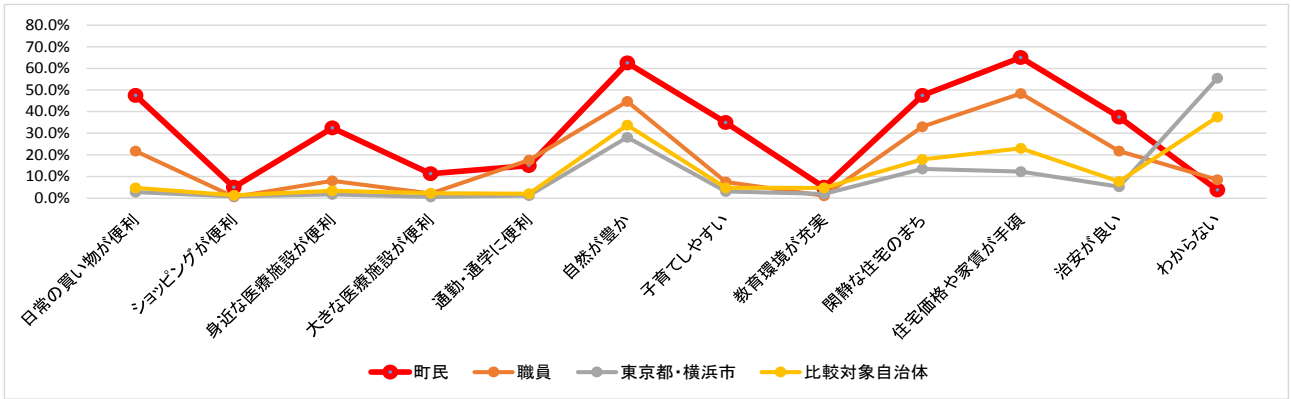
＜町民＞



＜職員＞



■寒川町の機能的イメージのギャップ

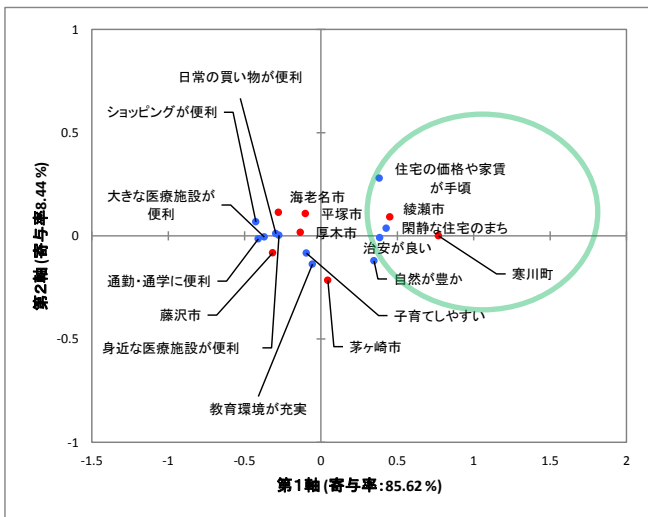


②機能的イメージのコレスポネンス分析

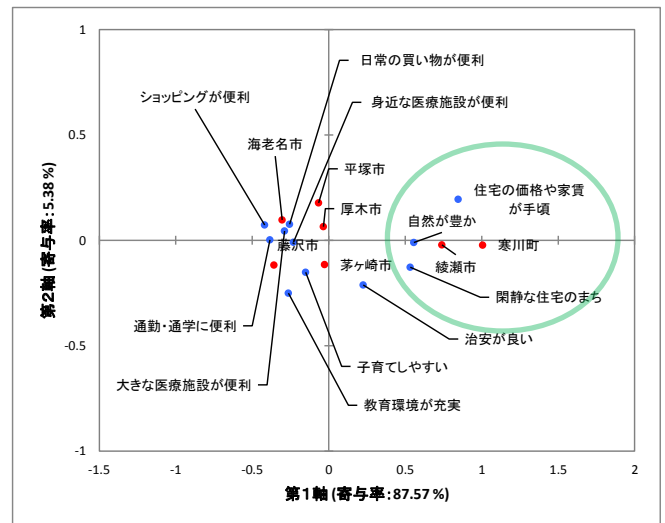
東京都・横浜市及び比較対象自治体の住民ともに寒川町は、綾瀬市とともに郊外的なイメージをもたれている。ただし、相違点もあり、東京都・横浜市住民は、比較対象自治体の住民よりも寒川町に対し「治安が良い」とのイメージが強くなっている。

■寒川町及び比較対象自治体の機能的イメージ

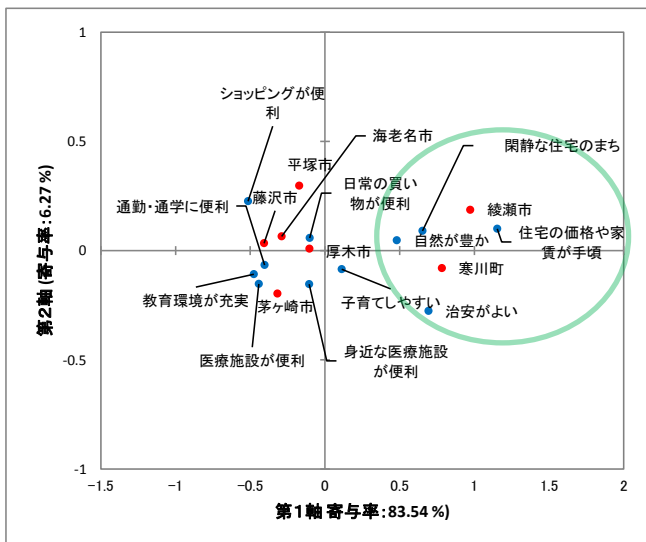
<東京都・横浜市>



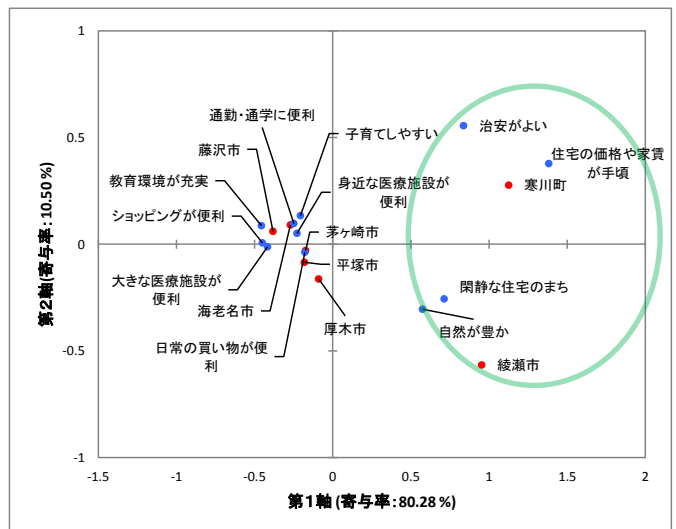
<比較対象自治体>



<町民>



<職員>



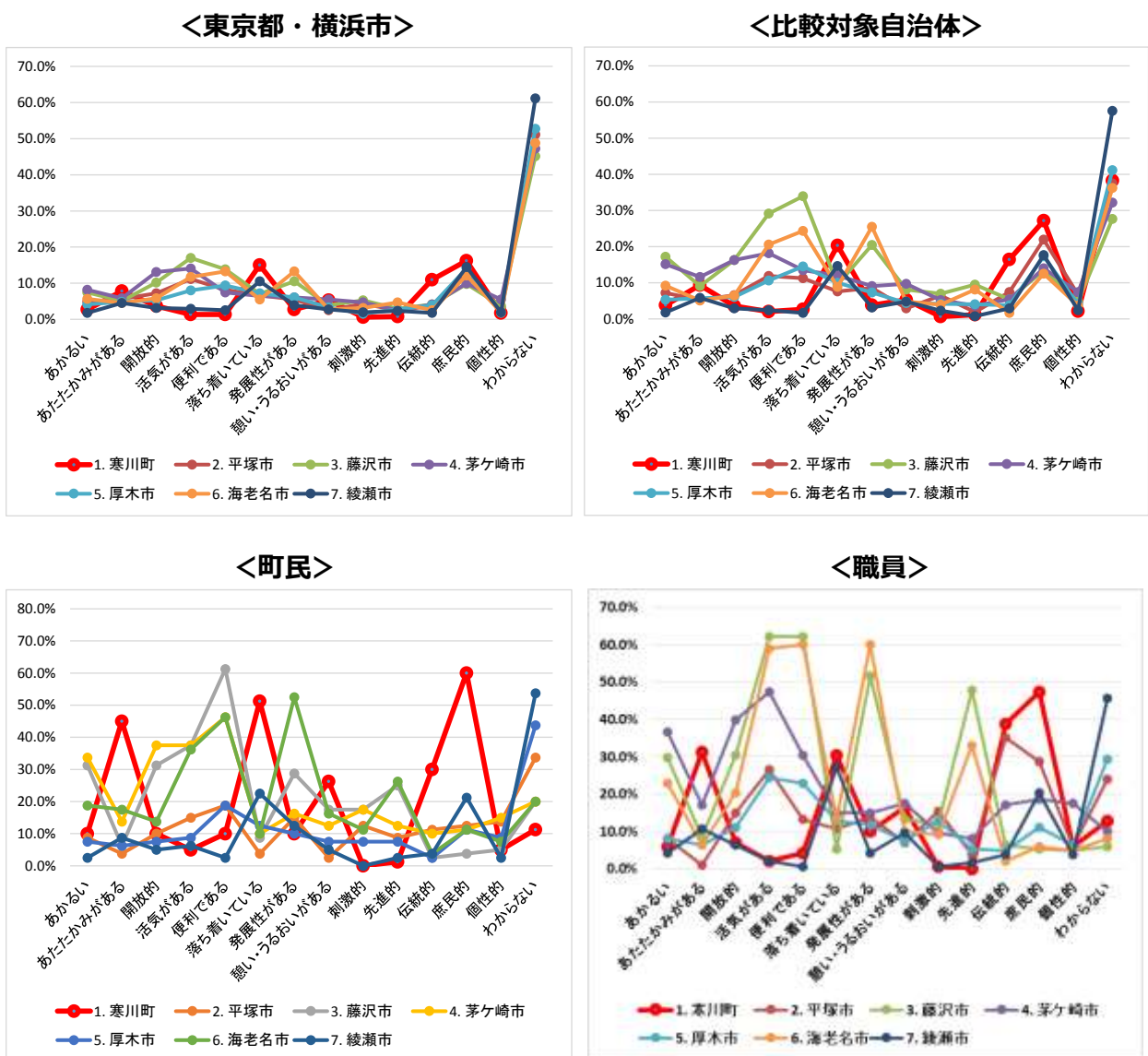
4) 寒川町の情緒的イメージ

①情緒的イメージの単純集計

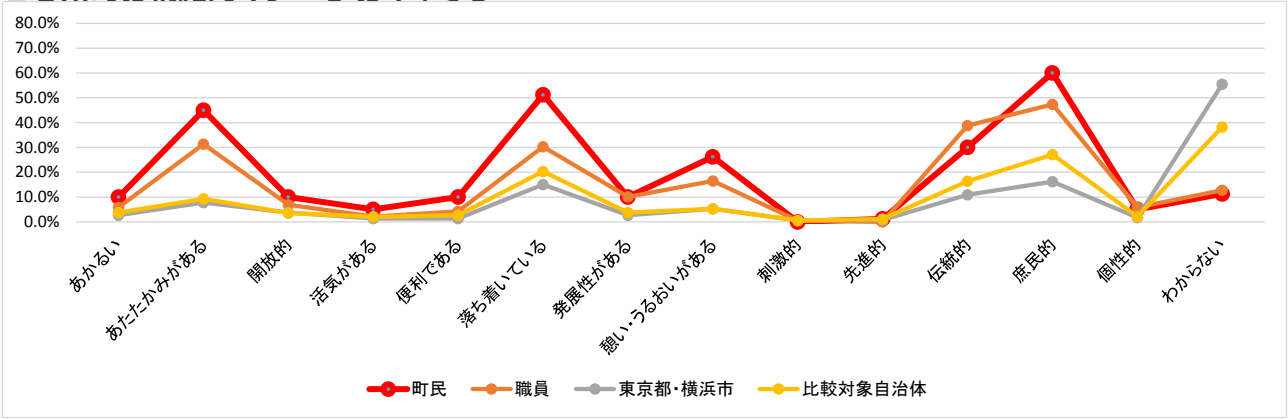
東京都・横浜市及び比較対象自治体の住民ともに寒川町の機能的イメージは「落ち着いている」、「伝統的」、「庶民的」となっている。また、「わからない」との回答は、東京都・横浜市及び比較対象自治体の住民ともに綾瀬市が最も多くなっている。

一方、町民及び職員は「あたたかみがある」や「憩い・うるおいがある」の点で寒川町は比較対象自治体よりもイメージが高いと評価しており、これは東京都・横浜市及び比較対象自治体の住民と異なる傾向である。「あたたかみ」や「憩い・うるおい」は町外への発信を強化すべきイメージであると言える。

■寒川町及び比較対象自治体の情緒的イメージ



■ 寒川町の情緒的イメージのギャップ

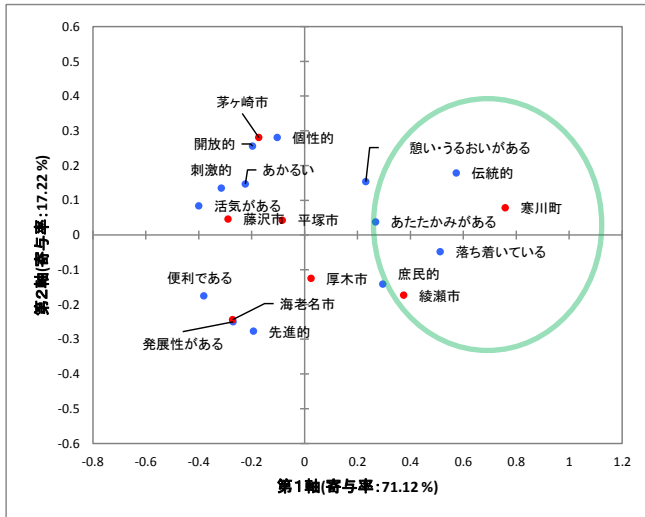


② 情緒的イメージのコレスポネンス分析

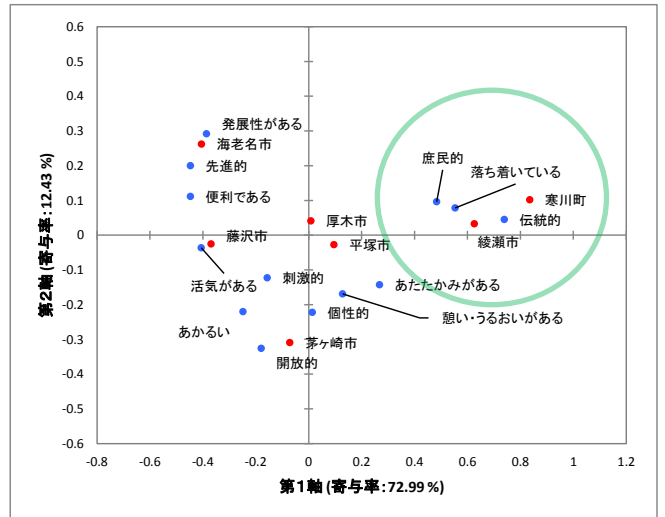
東京都・横浜市及び比較対象自治体の住民とともに寒川町は、綾瀬市とともにもたれている。

■ 寒川町及び比較対象自治体の情緒的イメージ

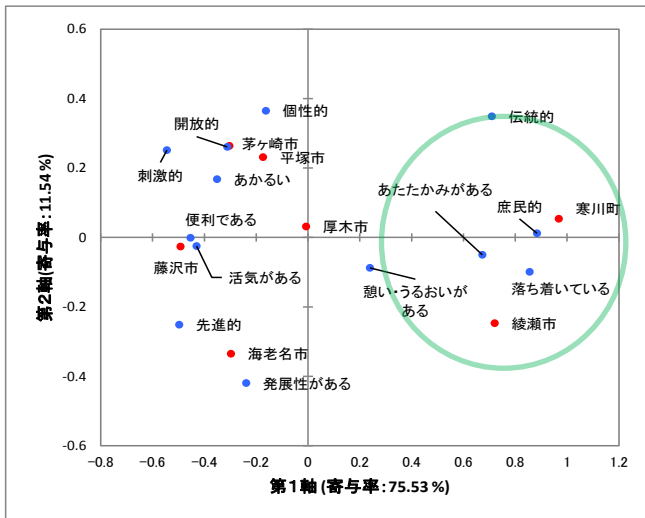
<東京都・横浜市>



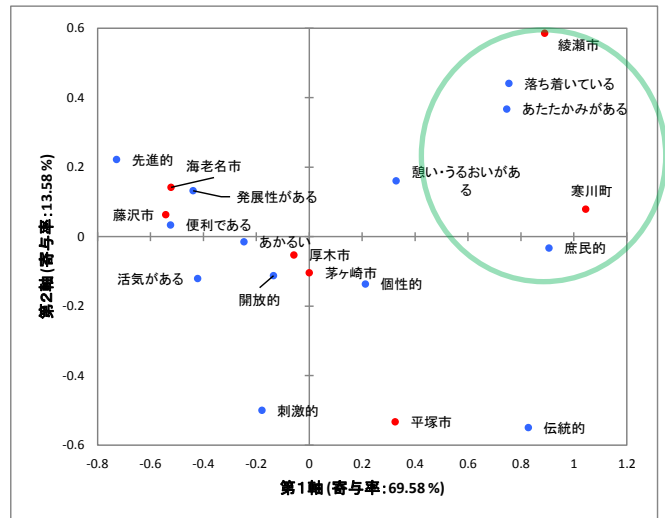
<比較対象自治体>



<町民>



<職員>



5) 地域資源に対する認知度・評価

① 地域資源の認知度

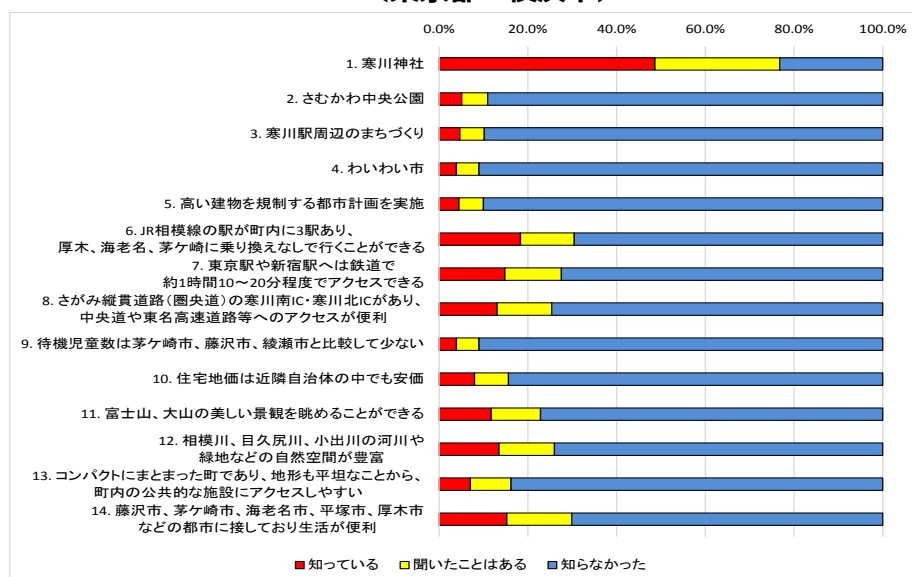
東京都・横浜市に住む住民は、寒川神社に対する認知度が約8割となっているほか、鉄道や高速道路といった交通環境、寒川町の近隣自治体へのアクセス利便性に対する認知度も2～3割となっている。

比較対象自治体の住民は、寒川神社に対する認知度が9割以上となっているほか、鉄道や高速道路といった交通環境、寒川町の近隣自治体へのアクセス利便性に対する認知度も4～6割となっている。また、さむかわ中央公園をはじめとした施設等に対する認知度が2～3割となっている。待機児童が少ないことの認知度は約1割程度となっている。

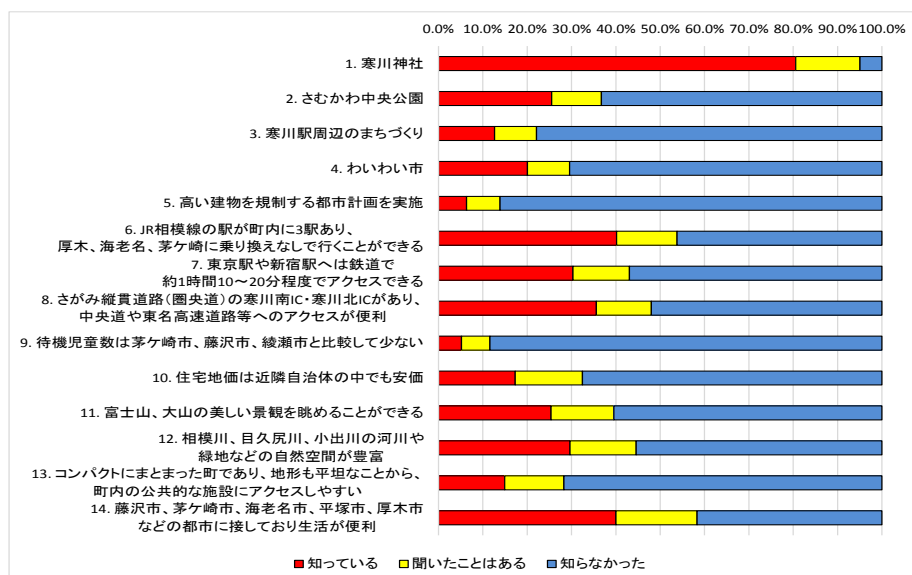
町民アンケート、職員アンケートでは、認知度が高いことは当然であるが、待機児童が少ないことや建物の高さを規制していることは、相対的に認知度が低くなっている。

■ 寒川町の地域資源に対する認知度

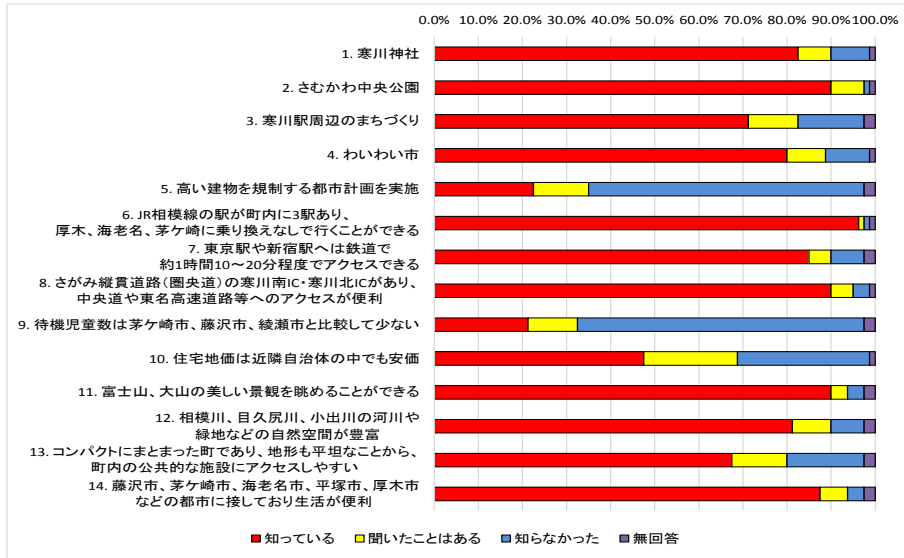
<東京都・横浜市>



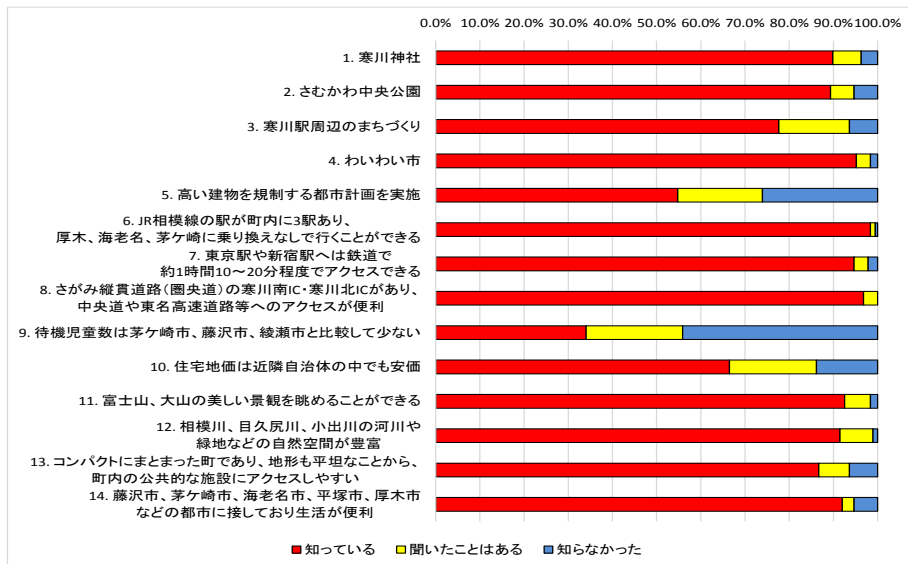
<比較対象自治体>



<町民>



<職員>



②地域資源の関心度・誇り度

寒川町の地域資源について東京都・横浜市及び比較対象自治体の住民に対しては「うらやましい・ほしいと思うか」という点で関心度を尋ねた（「そう思う」と「まあそう思う」の合計を関心度とした）。町民及び職員に対しては「アピールポイントになるか」という点で誇り度を尋ねた（「アピールポイントである」と「どちらかと言えばアピールポイントである」の合計を誇り度とした）。

東京都・横浜市住民の関心度を見ると、「富士山、大山の美しい景観を眺めることができる」が 58.6%と最も高く、次いで「寒川神社」が 57.6%、「住宅地価は近隣自治体の中でも安価」が 54.9%、「相模川、目久尻川、小出川の河川や緑地などの自然空間が豊富」が 54.3%、「待機児童数は茅ヶ崎市、藤沢市、綾瀬市と比較して少ない」が 53.1%、「わいわい市」が 50.2%の順となっている。

比較対象自治体の関心度を見ると、「寒川神社」が 62.6%と最も高く、次いで「住宅地価は近隣自治体の中でも安価」が 58.6%、「待機児童数は茅ヶ崎市、藤沢市、綾瀬市と比較して少ない」が 57.7%、「富士山、大山の美しい景観を眺めることができる」が 56.4%、「寒川中央公園」が 53.0%、「相模川、目久尻川、小出川の河川や緑地などの自然空間が豊富」が 52.1%の順となっている。

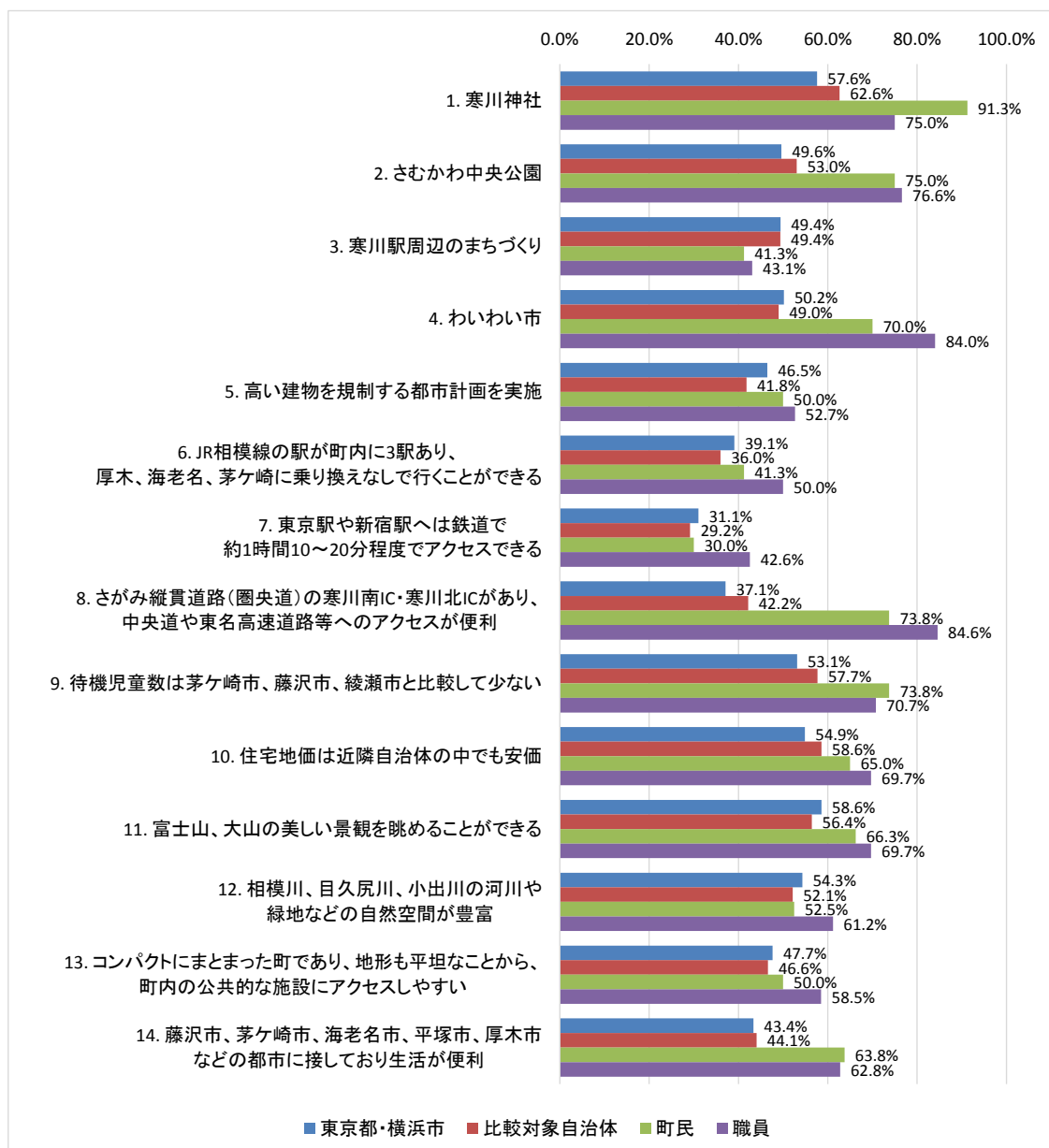
東京都・横浜市住民と比較対象自治体の関心度（50%以上）は、寒川神社や寒川町の自然・景観資源といった固有の地域資源、手頃な住宅地価、待機児童の少なさとなっている。

町民の誇り度を見ると、「寒川神社」が 91.3%と最も高く、次いで「さむかわ中央公園」が 75.0%、「さがみ縦貫道路（圏央道）の寒川南 IC・寒川北 IC があり、中央道や東名高速道路等へのアクセスが便利」と「待機児童数は茅ヶ崎市、藤沢市、綾瀬市と比較して少ない」がそれぞれ 73.8%、「わいわい市」が 70.0%の順となっている。

職員の誇り度を見ると、「さがみ縦貫道路（圏央道）の寒川南 IC・寒川北 IC があり、中央道や東名高速道路等へのアクセスが便利」が 84.6%と最も高く、次いで「わいわい市」が 84.0%、「寒川中央公園」が 76.6%、「寒川神社」が 75.0%、「待機児童数は茅ヶ崎市、藤沢市、綾瀬市と比較して少ない」が 70.7%の順となっている。

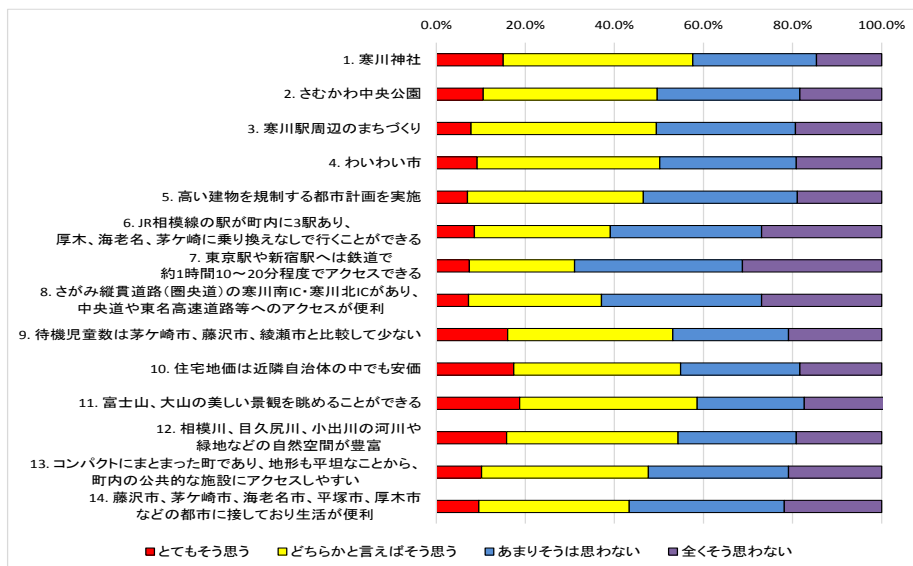
町民と職員の誇り度（70%以上）は、順位は異なるものの共通した地域資源が挙げられていることが特徴である。また、「さがみ縦貫道路（圏央道）の寒川南 IC・寒川北 IC があり、中央道や東名高速道路等へのアクセスが便利」及び「茅ヶ崎、藤沢、平塚、海老名が近く、買い物などの商業施設の利用に便利」に対する東京都・横浜市住民と比較対象自治体の関心度は 3～4 割程度であり、町民・職員と比べて評価にギャップがある。

■寒川町の地域資源に対する関心度・誇り度の比較

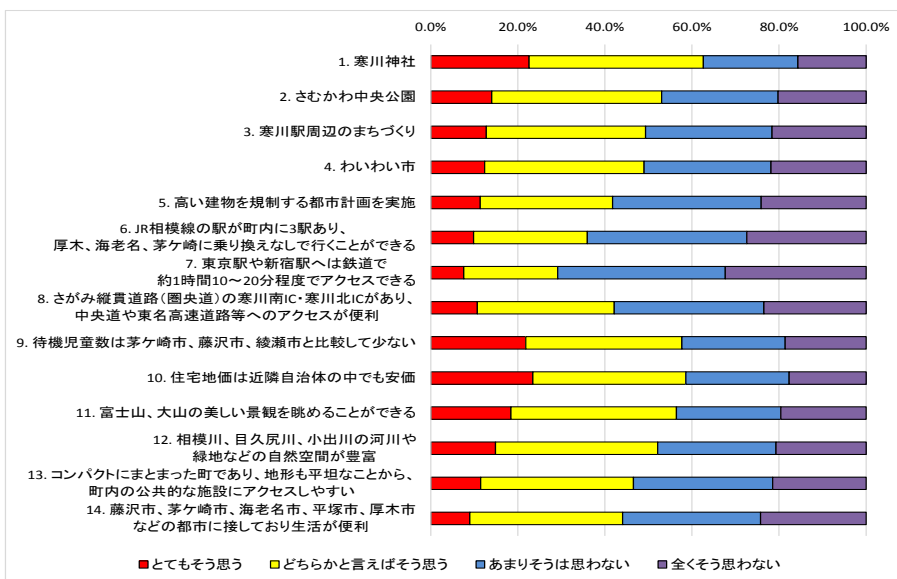


■ 寒川町の地域資源に対する関心度

<東京都・横浜市>

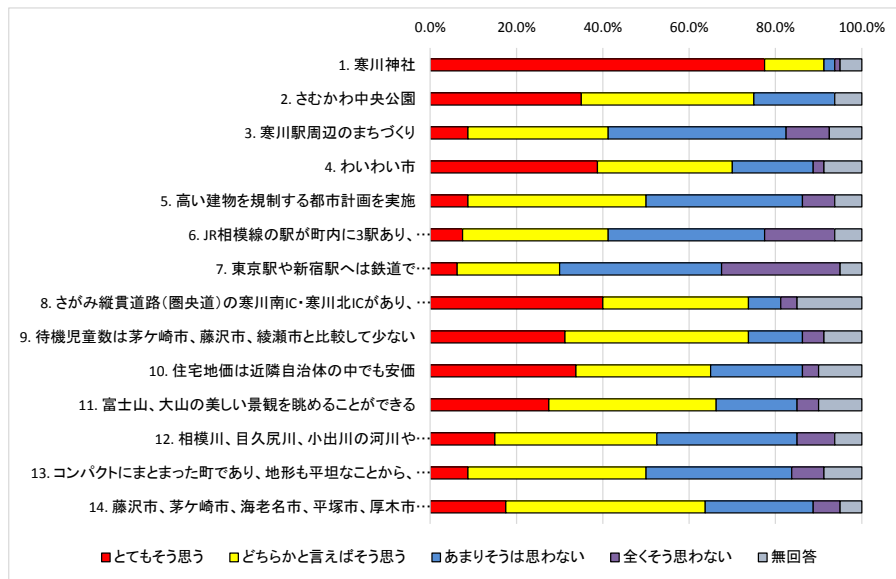


<比較対象自治体>

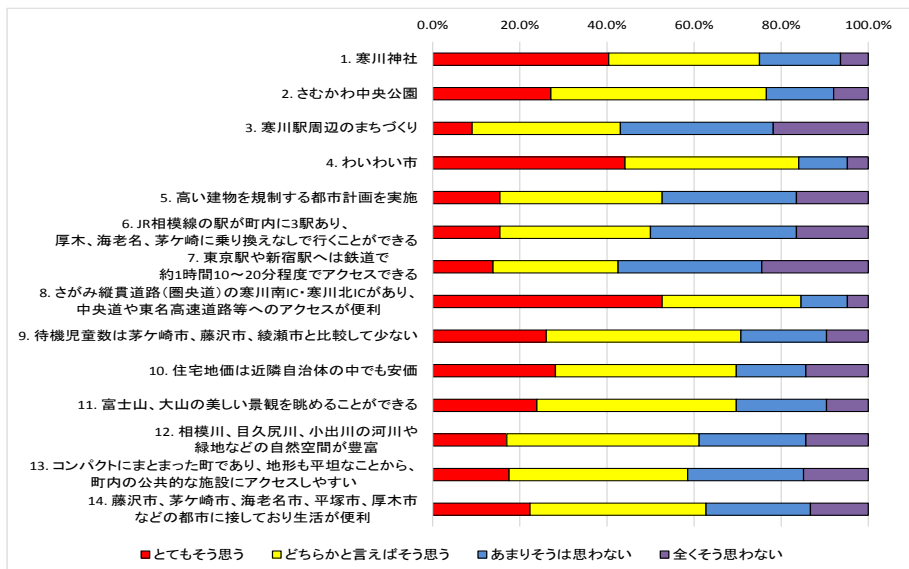


■ 寒川町の地域資源に対する誇り度

<町民>



<職員>

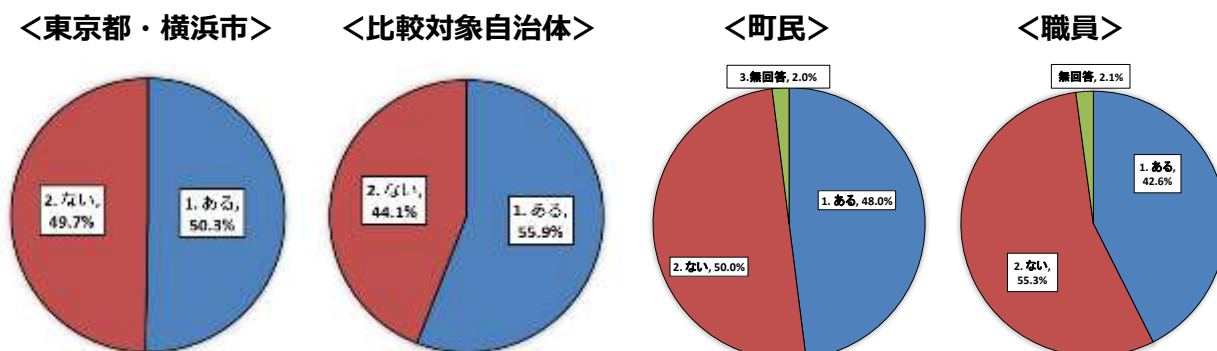


6) 転居経験

①複数の市区町村を比較した転居経験の有無

複数の市区町村を比較した転居経験は4～5割台となっている。

■①複数の市区町村を比較した転居経験



②現在の居住地を選んだ決め手

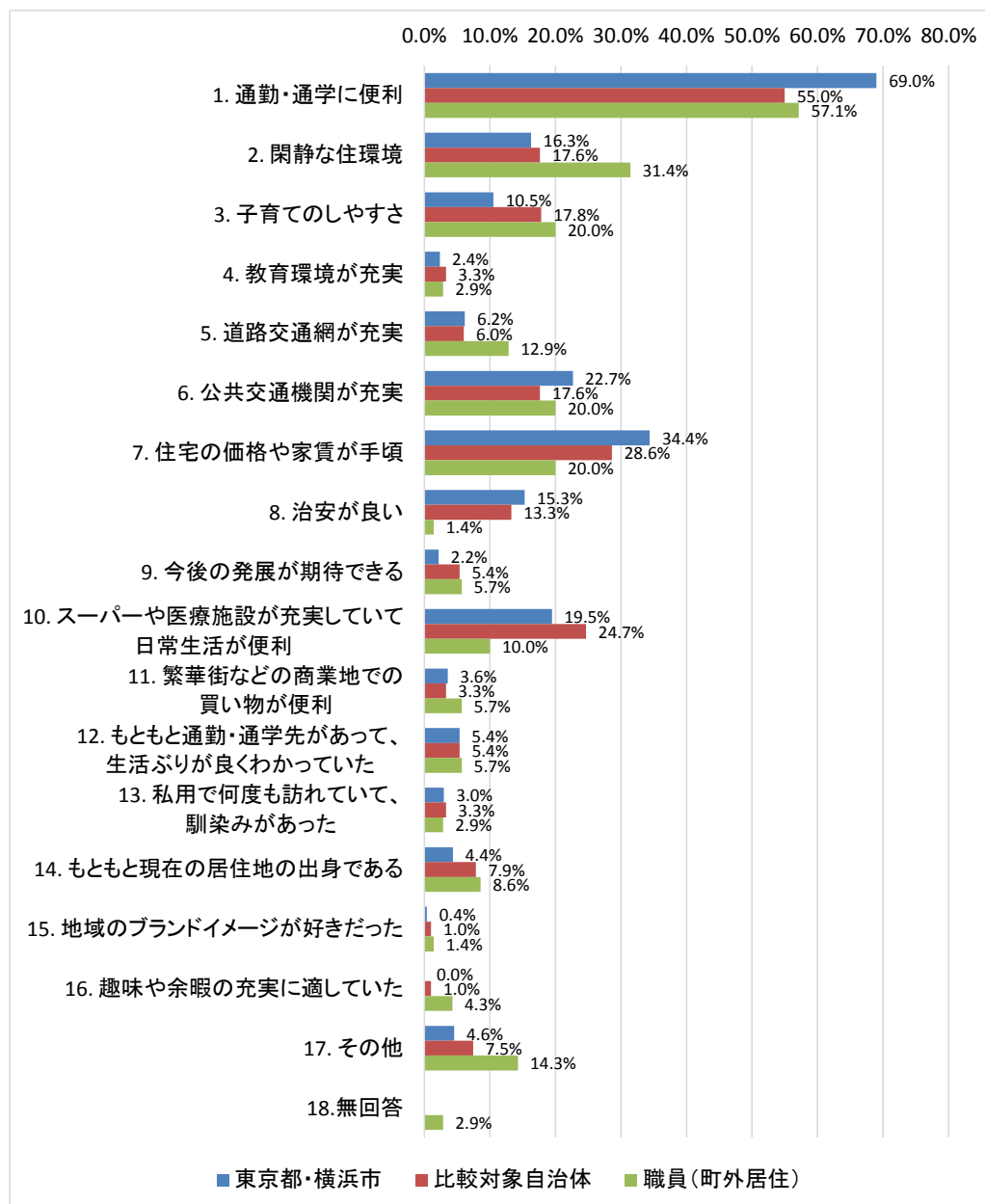
東京都・横浜市及び比較対象自治体、職員（町外居住）と、町民及び職員（町内居住）とでは、選択肢に違いがあるため、別々に集計する。

東京都・横浜市及び比較対象自治体の住民、職員（町外居住）は、居住地を選んだ決め手として「通勤・通学に便利」を挙げている回答が最も多いことが共通している。

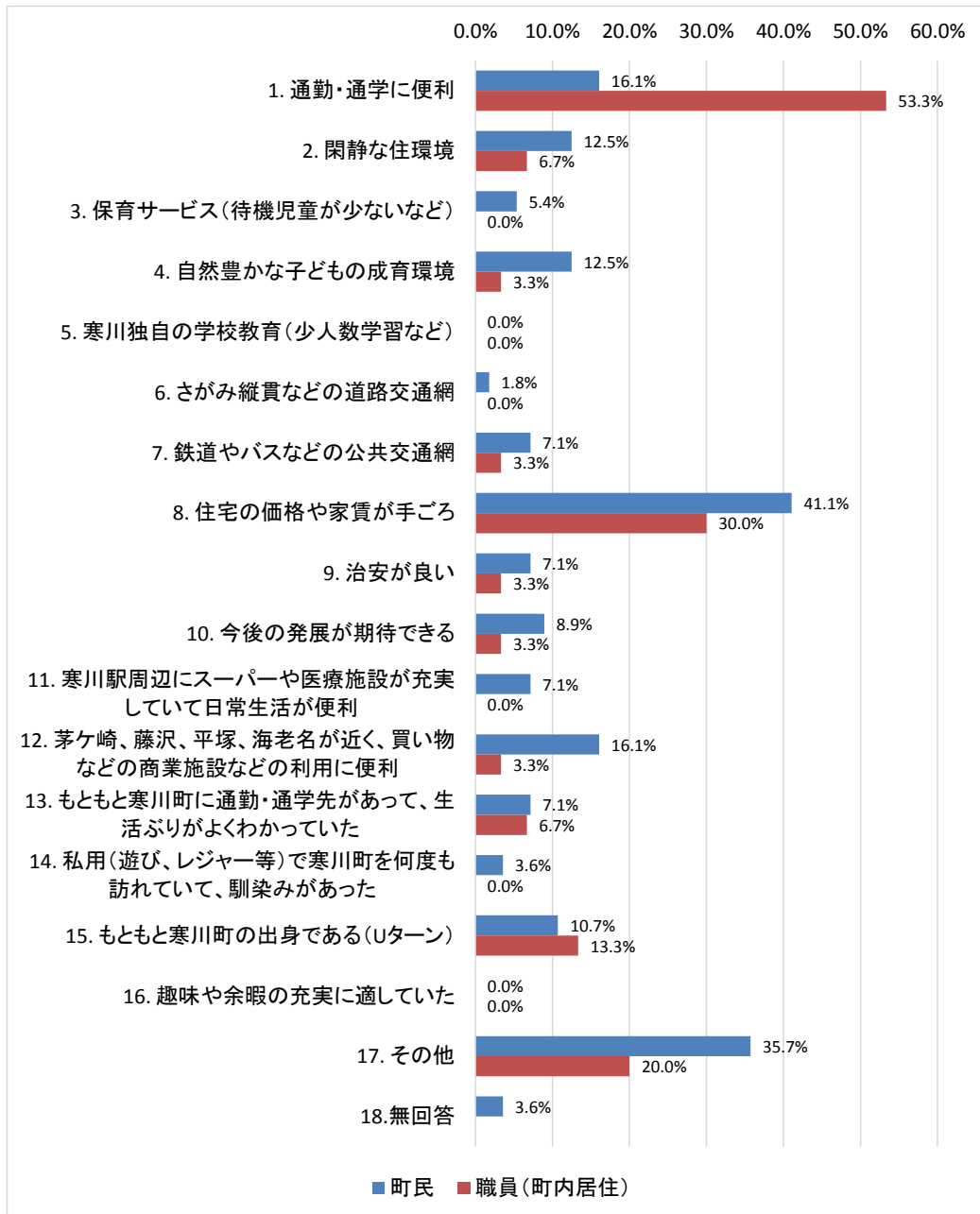
また、東京都・横浜市及び比較対象自治体の住民は、「住宅の価格や家賃が手頃」や「スーパーや医療施設が充実していて日常生活が便利」も一定程度重視している。

町民及び職員（町内居住）は、「住宅の価格や家賃が手頃」の回答が多いことが共通している。また、町民は、「スーパーや医療施設が充実していて日常生活が便利」よりも「茅ヶ崎、藤沢、平塚、海老名が近く、買い物などの商業施設の利用に便利」の割合が高いことが特徴である。生活利便性については、広域的な視点で評価している。

■居住地を選んだ決め手（東京都・横浜市、比較対象自治体、職員(町外居住)）



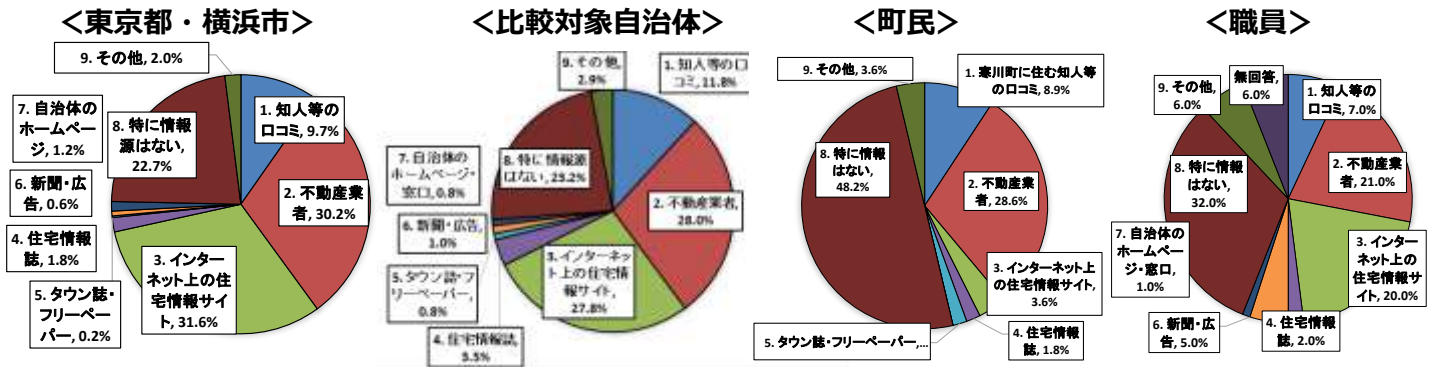
■居住地を選んだ決め手（町民、職員(町内居住)）



③居住地を選んだ際に参考にした情報源

東京都・横浜市、比較対象自治体、町民、職員で共通している情報源は「不動産事業者」であり、2～3割の回答となっている。また、東京都・横浜市、比較対象自治体、職員は、インターネット上の住宅情報サイトが2～3割であるが、町民は3.6%程度に留まっている。

■居住地を選んだ際に参考にした情報源

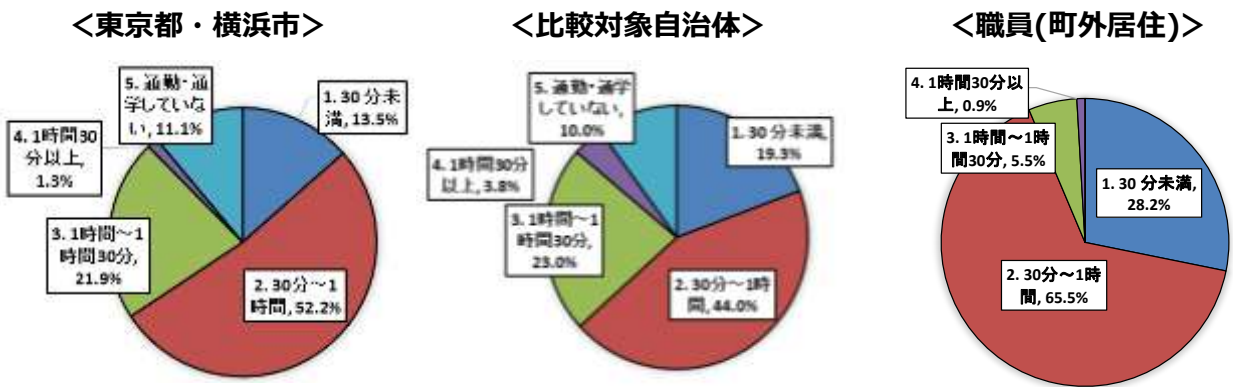


④転居する場合に許容できる通勤・通学時間

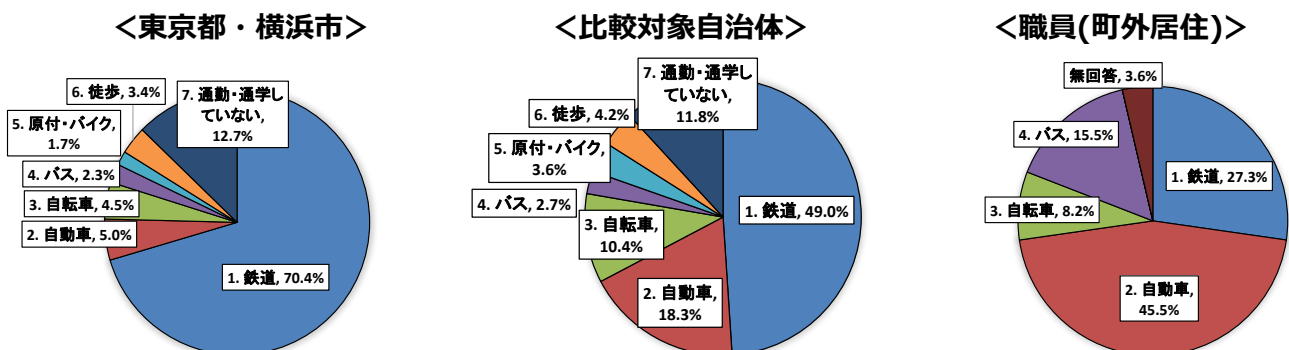
転居する場合に許容できる通勤・通学時間は、東京都・横浜市及び比較対象自治体の住民、職員（町外居住）のいずれにおいても、「30分～1時間」が最も多くなっていることが共通している。また、東京都・横浜市及び比較対象自治体の住民では、「1時間～1時間30分」も約2割が許容できると回答している。

通勤・通学手段は、東京都・横浜市住民は「鉄道」が7割であるが、比較対象自治体の住民は「鉄道」が5割、「自動車」が2割となっている。

■許容できる通勤・通学時間



■通勤・通学手段

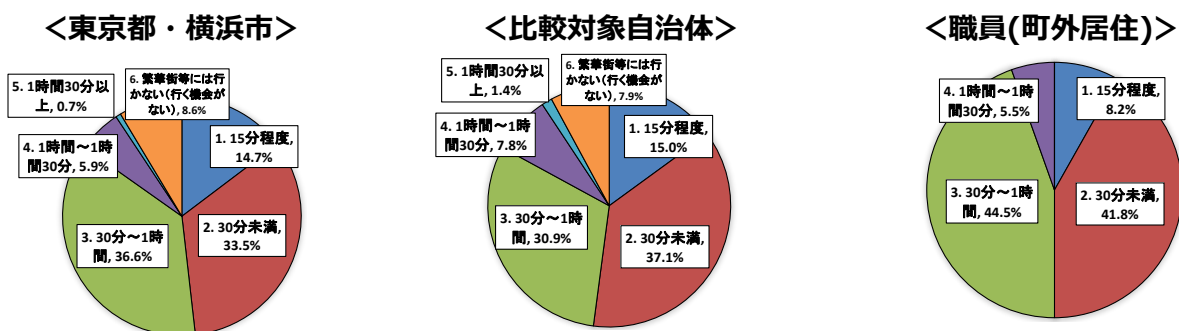


⑤ 転居する場合に許容できる繁華街等商業地へのアクセス時間

転居する場合に許容できる繁華街等商業地へのアクセス時間を見ると、東京都・横浜市住民は「30分から1時間」が36.6%と最も多い。これに対し比較対象自治体住民は「30分未満」が37.1%と最も多い。職員（町外居住）は「30分から1時間」が44.5%と最も多い。

アクセス手段を見ると、東京都・横浜市住民は「鉄道」が80.6%と最も多い。これに対し比較対象自治体住民は「鉄道」が55.5%と最も多く、次いで「自動車」が20.8%となっている。職員（町外居住）は「自動車」が55.5%と最も多い。

■ 許容できる繁華街等商業地へのアクセス時間



■ 繁華街等商業地への主なアクセス手段



⑥ 現在の居住地に不満を感じている点

東京都・横浜市住民は、「地価や家賃が高い」が28.7%と最も多く、次いで「ショッピングを楽しめる場所が遠い」が20.1%、「通勤・通学が不便」が14.9%の順となっている。

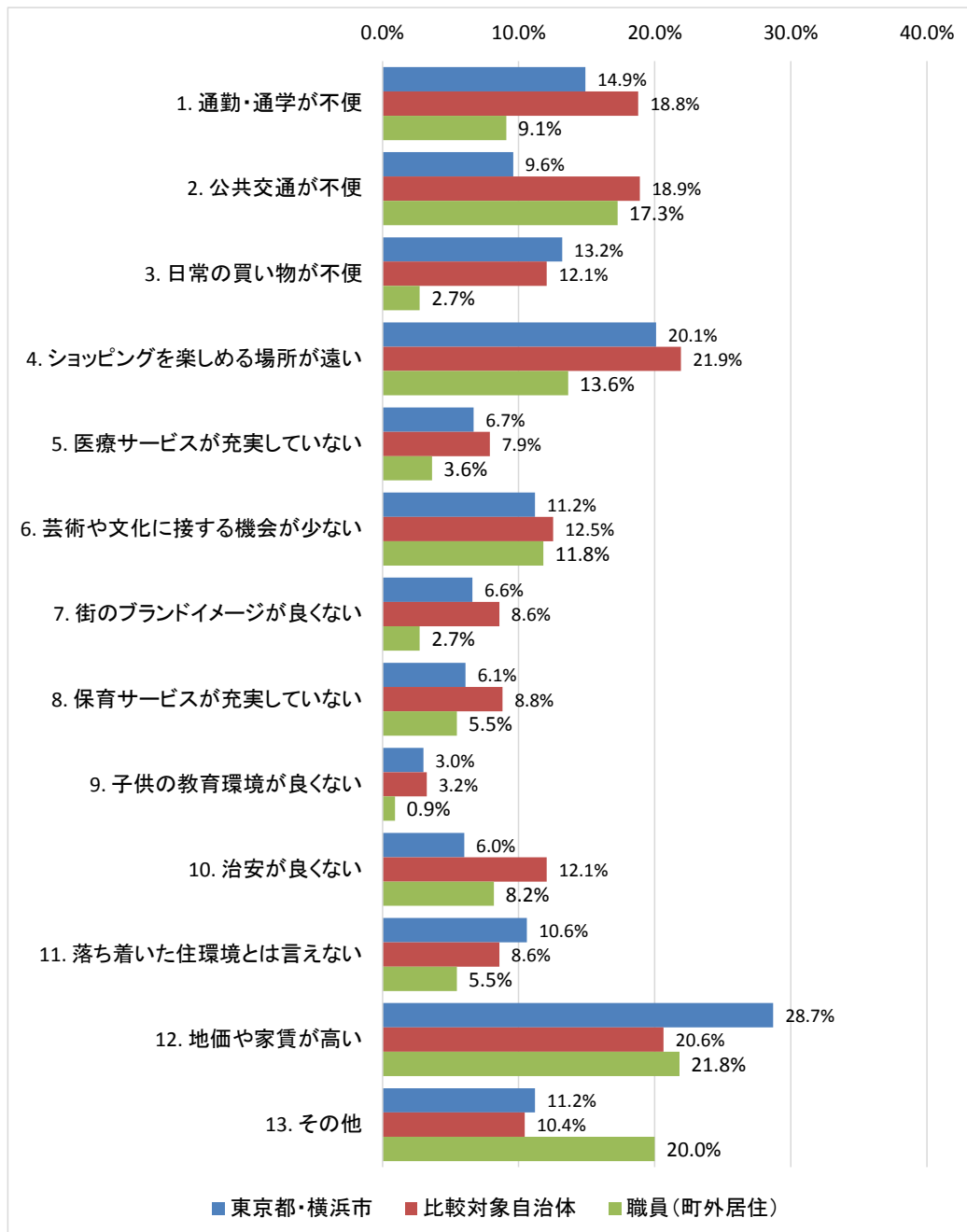
比較対象自治体住民は、「ショッピングを楽しめる場所が遠い」が21.9%と最も多く、次いで「地価や家賃が高い」が20.6%、「公共交通が不便」が18.9%、「通勤・通学が不便」が18.8%の順となっている。

職員（町外居住）は、「地価や家賃が高い」が21.8%と最も多く、次いで「公共交通が不便」が17.3%、「ショッピングを楽しめる場所が遠い」が13.6%の順となっている。

「地価や家賃が高い」は、いずれのアンケートでも20%以上となっていることが共通し

ている。

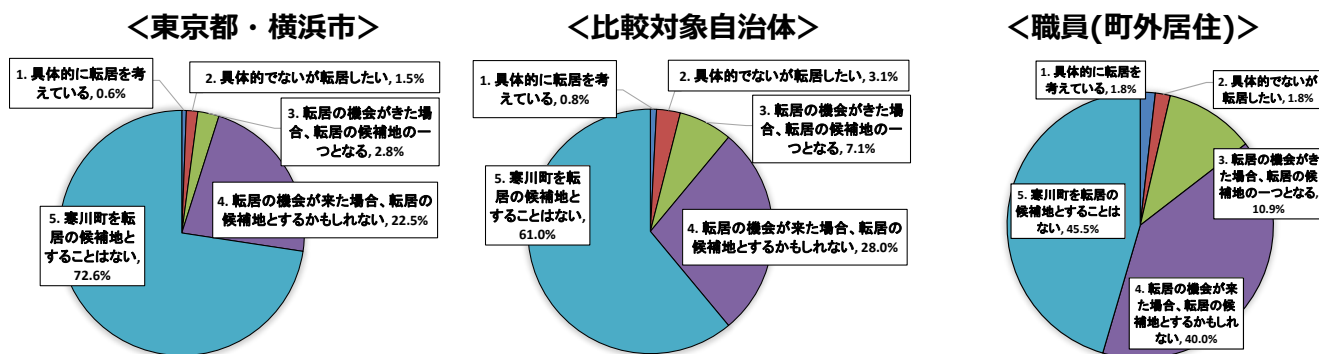
■現在の居住地に不満を感じている点



⑦寒川町への転居意向

「具体的に転居を考えている」、「具体的でないが転居したい」、「転居の機会がきた場合、転居の候補地の一つとなる」、「転居の機会が来た場合、転居の候補地とするかもしれない」を合わせて転居意向とすると、職員（町外居住）が 54.5%と最も多く、次いで比較対象自治体住民が 39.0%、東京都・横浜市住民が 27.4%の順となっている。

■寒川町への転居意向



⑧寒川町への転居を考える余地がある理由

東京都・横浜市住民は、「住宅の価格や家賃が手ごろ」が 34.7%と最も多く、次いで「閑静な住環境」が 32.1%、「自然豊かな子供の成長環境」が 20.1%の順となっている。

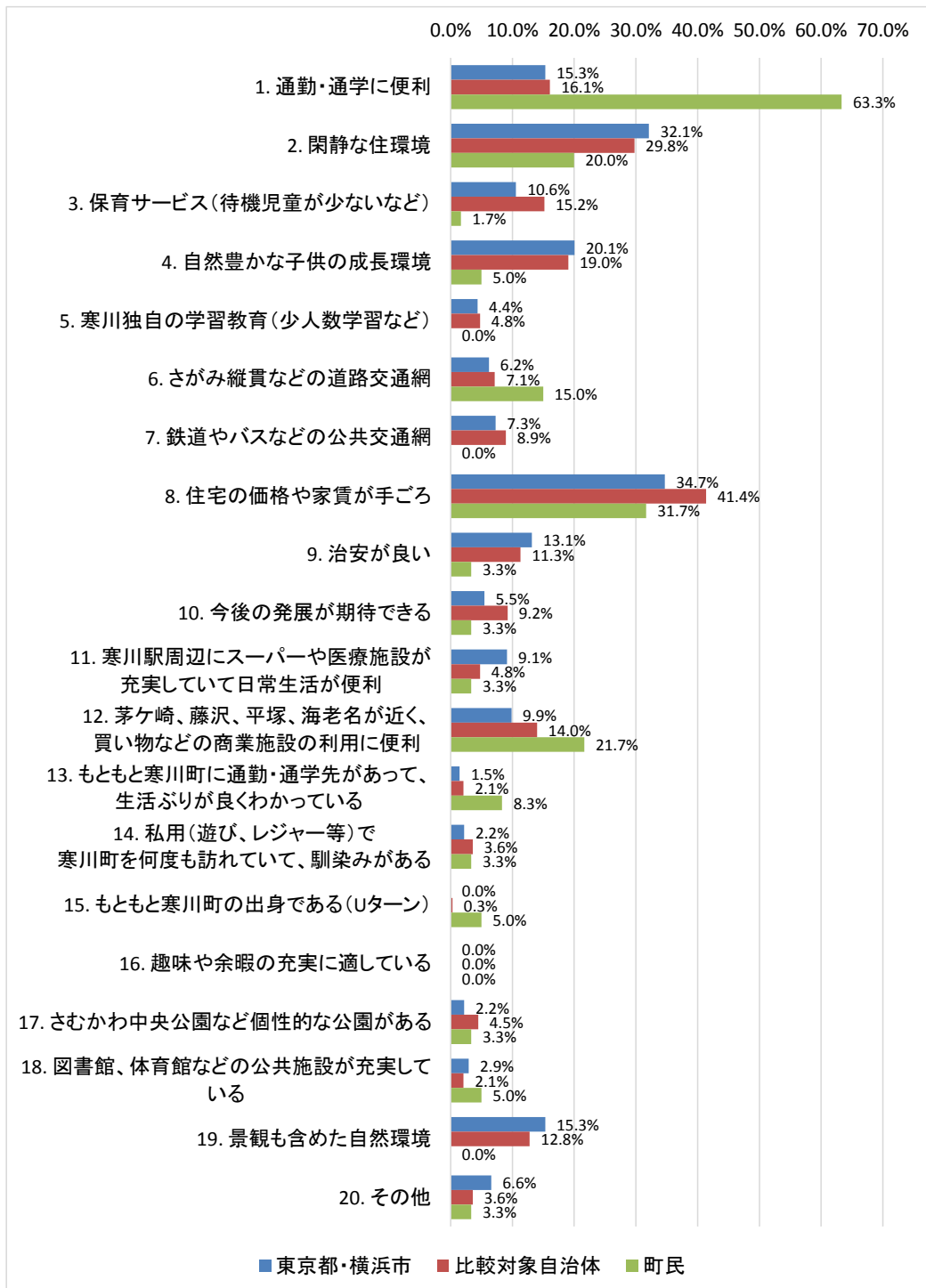
比較対象自治体住民は、「住宅の価格や家賃が手ごろ」が 41.4%と最も多く、次いで「閑静な住環境」が 29.8%、「自然豊かな子供の成長環境」が 19.0%の順となっている。

東京都・横浜市住民及び比較対象自治体住民が、転居先としての寒川町を評価する事項には共通点が見られる。

また、寒川町の魅力として捉えられる「待機児童が少ない」ことが 10~15%となっており、「自然豊かな子供の成長環境」よりも評価が低い。これは、待機児童がもたら共働き世帯の関心事である一方、「子供の成長環境」は全ての子育て世代の関心事であるためと考えられる。

職員（町外居住）は、「通勤・通学に便利」が 63.3%と最も多く、次いで「住宅の価格や家賃が手ごろ」が 31.7%、「茅ヶ崎、藤沢、平塚、海老名が近く、買い物などの商業施設の利用に便利」が 21.7%の順となっている。

■寒川町への転居を考える余地がある理由



⑨寒川町が転居の候補地とならない理由

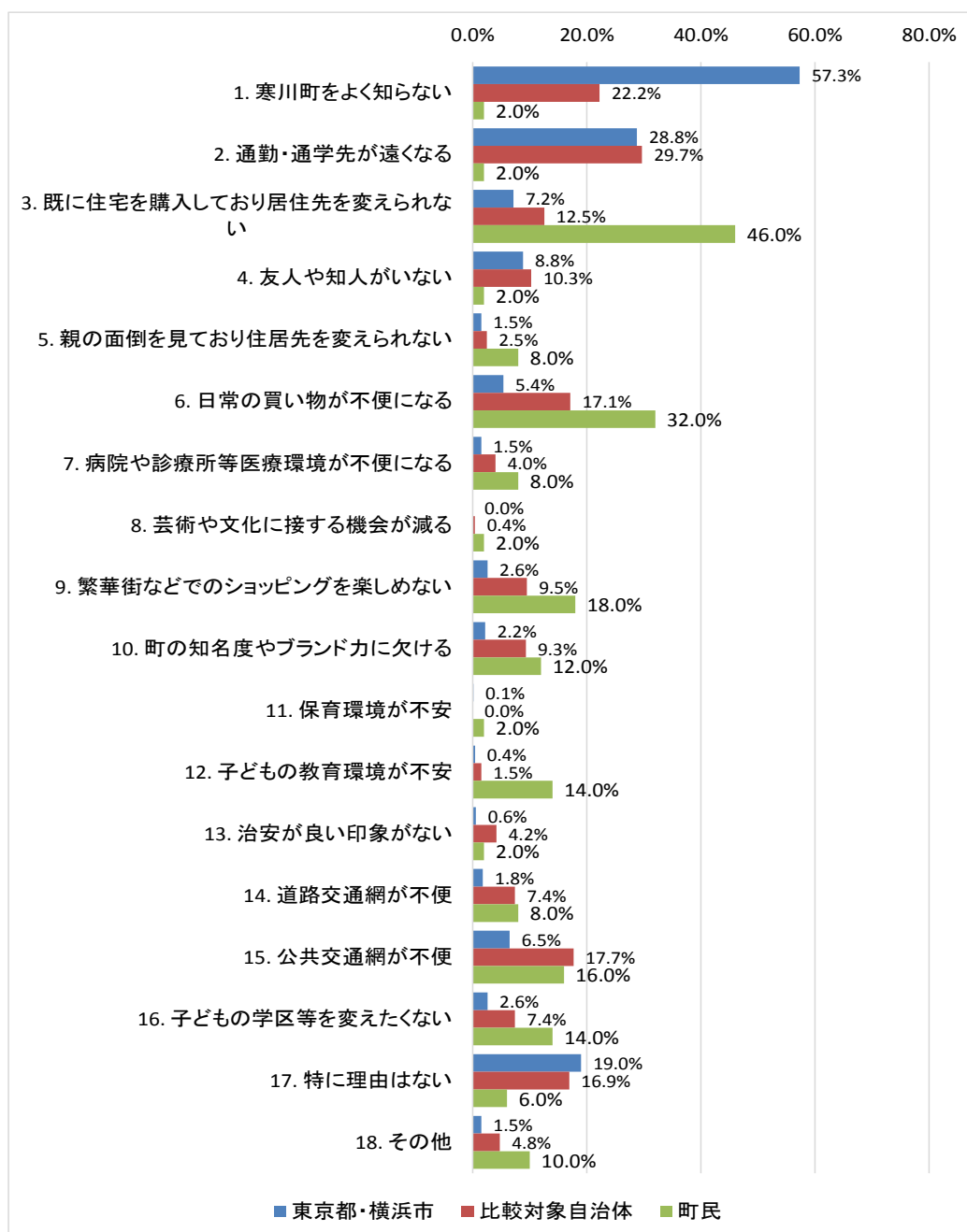
東京都・横浜市住民は、「寒川町をよく知らない」が57.3%と最も多く、次いで「通勤・通学先が遠くなる」が28.8%、「特に理由はない」が19.0%の順となっている。

比較対象自治体住民は、「通勤・通学先が遠くなる」が29.7%と最も多く、次いで「寒川町をよく知らない」が22.2%、「公共交通網が不便」が17.7%の順となっている。

東京都・横浜市及び比較対象自治体住民においては、寒川町の認知度次第では転居の候補地となる可能性がある。

職員（町外居住）は、「既に住宅を購入しており居住先を変えられない」が46.0%と最も多く、次いで「日常の買い物が不便になる」が32.0%、「繁華街などでのショッピングを楽しめない」が18.0%の順となっている。

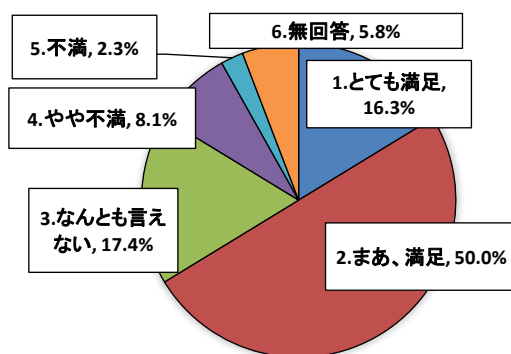
■寒川町が転居の候補地とならない理由



⑩寒川町への転居経験者の満足度

転居経験者の満足度は「とても満足」と「まあ、満足」を合わせて66.3%となっている。

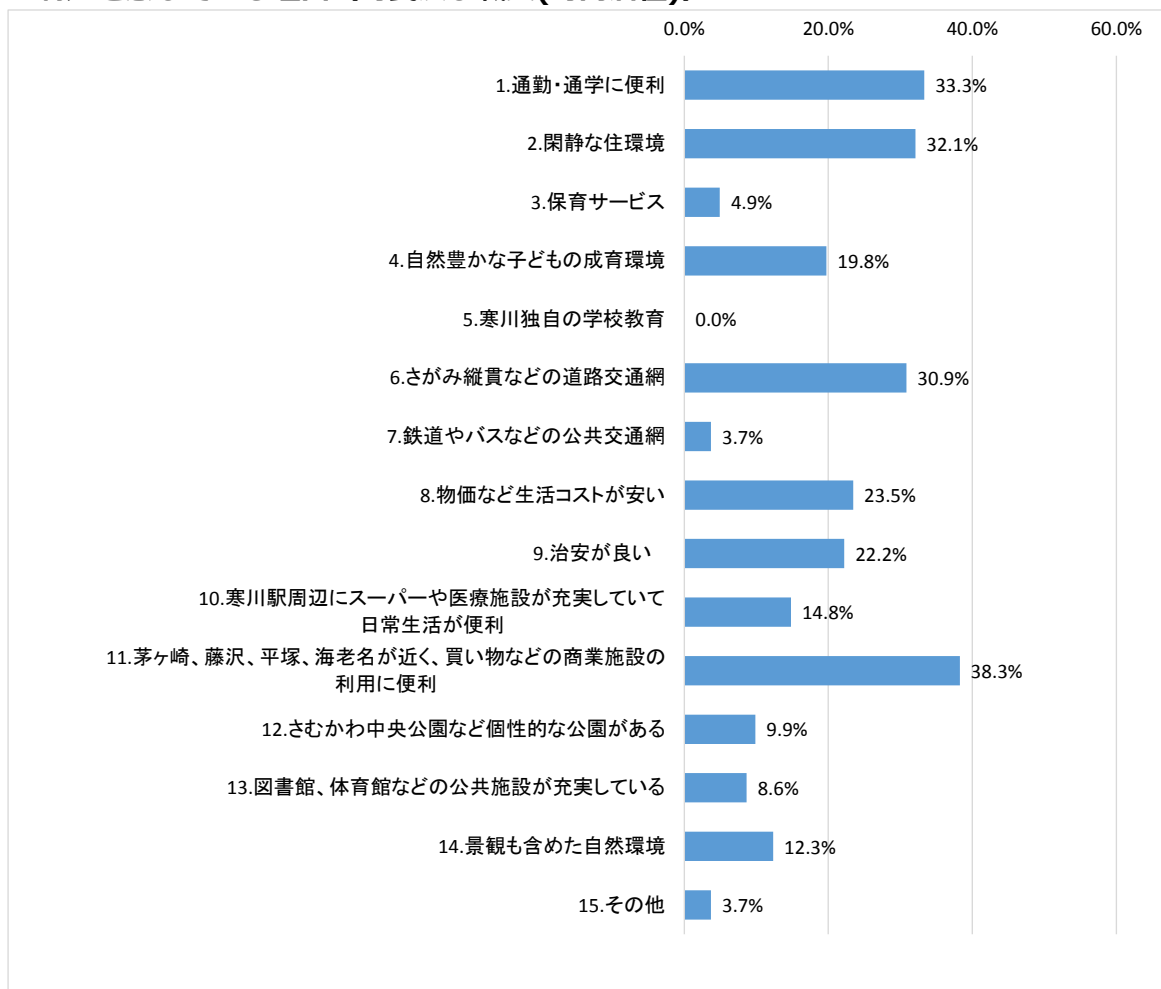
■ 転居経験者の満足度（町民及び職員(町内居住)）



⑪満足を感じている理由

満足を感じる理由は「茅ヶ崎、藤沢、平塚、海老名が近く、買い物などの商業施設の利用に便利」が38.3%と最も多く、次いで「通勤・通学に便利」が33.3%、「閑静な住環境」が32.1%、「さがみ縦貫などの道路交通網」が30.9%の順となっている。

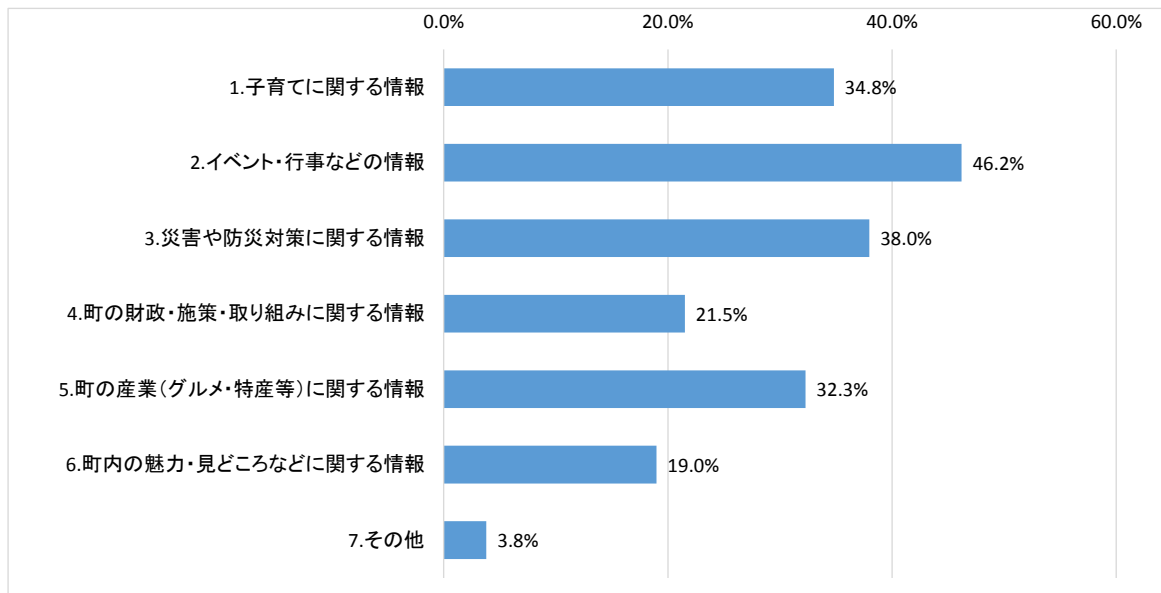
■ 満足を感じている理由（町民及び職員(町内居住)）



⑫町からの情報として関心のあるテーマ

町からの情報として関心のあるテーマは「イベント・行事などの情報」が 46.2%と最も多く、次いで「災害や防災対策に関する情報」が 38.0%、「子育てに関する情報」が 34.8%、「町の産業（グルメ・特産等）に関する情報」が 32.3%の順となっている。

■町からの情報として関心のあるテーマ（町民及び職員(町内居住)）



(4) 回答者の生活スタイルや考え方に基づくタイプ分類

1) 因子分析

転入促進の対象となる東京都・横浜市及び比較対象自治体住民のアンケート結果（生活スタイルや考え方に対する設問への回答結果）を基に因子分析を行い、5つの因子を抽出した。

■抽出した因子

	1 利便性因子	2 閑静・ 郊外因子	3 コミュニティ 因子	4 家族因子	5 スローライフ 因子
閑静な住環境の中で暮らしたい	0.153	0.465	-0.108	0.153	0.383
多少不便でも自然を感じられる環境の中で暮らしたい	0.078	0.716	0.248	0.073	0.154
住宅価格や家賃が安いのであれば、多少の不便は気にしない	-0.083	0.664	0.142	0.032	0.123
住宅価格や家賃が高くて、通勤や外出に便利な家に住みたい	0.529	-0.317	0.033	-0.002	0.304
集合住宅よりも一戸建に住みたい	0.163	0.335	0.051	0.240	0.232
住宅雑誌、広告等がよく見る方である	0.482	0.210	0.343	0.243	-0.070
住んでみたい家や住環境にこだわりがある	0.591	0.246	0.061	0.214	0.164
ブランドイメージがある街に住みたい	0.657	0.065	0.249	0.032	-0.083
住みよさのためなら、ある程度お金がかかっても良い	0.654	-0.023	0.023	0.107	0.289
住宅を購入するのであれば、資産価値を重視する	0.542	0.017	0.137	0.122	0.253
仕事よりも家族で過ごす時間を優先している	0.172	0.114	0.065	0.658	0.335
休日は家族全員で外出することが多い	0.179	0.112	0.305	0.698	0.037
子どもは自然が豊かな場所で育てたい	0.142	0.412	0.211	0.305	0.435
経済的な豊かさよりも心の豊かさの方が大切である	0.099	0.256	0.150	0.228	0.554
休日はのんびり、ゆっくり過ごしたい	0.060	0.172	-0.193	0.069	0.663
仕事とのやりがいと生活の充実は両立させたい	0.240	0.095	0.065	0.028	0.571
食の安全・安心にはこだわりがある	0.393	0.104	0.208	0.204	0.398
地域の行事やイベントには参加する方だ	0.203	0.172	0.812	0.180	0.061
近所付き合いは活発な方だ	0.212	0.150	0.762	0.134	0.002

2) クラスタ分析

因子分析の結果から得られる因子得点を基に回答者の類型化（クラスタ分析）を行い、5つのタイプに分類した。

①利便性を中心とした住環境へのこだわりタイプ

利便性因子が類型の中で最も高く、その他の因子もすべてプラスであることから、利便性を中心に住環境にこだわりがあるタイプと解釈する。当該類型は、回答者の17.5%を占めている。

②都市型ファミリーライフ重視タイプ

家族因子が最も高く、コミュニティ因子が最も低い類型であるとともに、利便性因子がプラスである一方、閑静・郊外因子がマイナスであることから、都市型のファミリーライフを重視するタイプと解釈する。当該類型は、回答者の17.6%を占めている。

③スローな郊外居住重視タイプ

閑静・郊外因子、スローライフ因子が最も高く、利便性因子が最も低い類型であり、スローな郊外居住を重視するタイプと解釈する。当該類型は、回答者の17.0%を占めている。

④住環境へのこだわりが小さいタイプ

コミュニティ因子以外は、すべての因子がマイナスであり、住環境へのこだわりが小さいタイプであると解釈する。特にスローライフ因子は類型の中で最も低い。また、閑静・郊外因子は類型の中で2番目に低い。当該類型は、回答者の28.9%を占めており、最も割合が高い。

⑤独自のスロースタイル重視タイプ

スローライフ因子が最も高い類型である一方、利便性因子、閑静・郊外因子はマイナスであることから、スローなライフスタイルは重視するが、住環境へのこだわりは小さい類型と解釈する。また、コミュニティ因子は2番目に低く、家族因子は類型の中で最も低いことから、独自の価値観としてスロースタイル（マイペース）を重視するタイプと解釈する。当該類型は、回答者の19.0%を占めている。

■ クラスタ分析結果

クラスター	因子得点の重心					回答者数	
	1 利便性因子	2 閑静・ 郊外因子	3 コミュニティ 因子	4 家族因子	5 スローライフ 因子	サンプル	構成比
CL1:①利便性を中心とした住環境へのこだわりタイプ	1.011	0.040	0.631	0.173	0.316	326	17.5%
CL2:都市型ファミリーライフ重視タイプ	0.083	-0.290	-0.900	0.801	0.184	327	17.6%
CL3:スローな郊外居住重視タイプ	-0.590	0.675	0.554	0.416	0.441	317	17.0%
CL4:住環境へのこだわりが小さいタイプ	-0.162	-0.214	0.417	-0.239	-0.844	538	28.9%
CL5:独自のスロースタイル重視タイプ	-0.234	-0.047	-0.880	-0.908	0.426	354	19.0%
計						1862	100.0%

3) クラスターのプロフィール

クラスターごとに回答者の属性等を整理することにより、クラスターの特徴を分析する。

①利便性を中心とした住環境へのこだわりタイプ

東京都・横浜市 of 居住者が近隣自治体よりも8ポイント多い。性別では女性が男性よりも12ポイント多い。自家用車を所有している割合や持ち家割合が最も高い。世帯年収は600万円以上が49%を占めており、類型の中では最も高い。収入に余裕があることが、持家志向の背景にあると考えられる。SNSの利用状況を見るとフェイスブックやライン、インスタグラムの利用割合が他の類型よりも高く、情報に敏感な属性が多いと考えられる。

また、寒川町の認知度が最も高く、転居の潜在的ニーズも2番目に高い。評価要因は、住宅の価格・家賃の手頃さが32%、閑静な住環境が27%、自然等の子育て環境が25%、通勤等利便性が23%、保育サービスが20%となっており、類型の中では複数の評価要因が挙げられていることが特徴である。逆に言えば、住宅価格や閑静な住環境を評価する割合は、他の類型と比べて相対的に低い。自動車の利用を前提に、寒川町の利便性を一定程度評価していると考えられる。

②都市型ファミリーライフ重視タイプ

東京都・横浜市の住民割合と近隣自治体の住民割合は概ね半々である。性別では女性の占める割合が 66%と高いことが特徴である。結婚している割合は類型の中で最も高い。世帯年収は 600 万円以上、400 万円以上の割合が類型の中で 2 番目に高い。よく読む雑誌では、他の類型よりも暮らし系の雑誌の割合が高く、ビジネス系の割合が低いことから、基本的に日常生活に関心事があるとともに、仕事をよりは家族を優先しているためと考えられる。

また、寒川町の認知度が 2 番目に高い一方、転居の潜在的ニーズは 2 番目に低い。これは基本的に都市型志向であるためと考えられる。転居の潜在的なニーズの背景となっている寒川町の評価要因としては、住宅の価格・家賃の手頃さが 57%と類型の中で最も高い割合となっている。また、近隣自治体の商業施設の利用が便利なのが評価されている点が他の類型と異なる特徴である。これは、当該の類型のライフスタイルが都市的であるためと考えられる。

③スローな郊外居住重視タイプ

近隣自治体の住民割合が東京都・横浜市住民割合よりも 12 ポイント高い。性別では女性の占める割合が 64%と高いことが特徴である。結婚している割合、子どものいる割合は類型の中で最も高いことから（結婚割合は都市型ファミリー重視タイプと同値）、子育てファミリーのライフスタイルを表していると言える。世帯年収は 600 万円以上割合が類型の中で 2 番目に低く、経済的にゆとりある世帯は相対的に少ない。

また、寒川町の認知度は類型の中で 3 番目（中位）で、転居の潜在的にニーズは 2 番目に高い。転居の潜在的なニーズの背景となっている寒川町の評価要因としては、住宅の価格・家賃の手頃さが 47%と類型の中で 2 番目に高い。これは世帯年収が相対的に少ないことが背景にあると考えられる。このほか、閑静な住環境や自然等子育て環境に対する評価が高い。これはスローな郊外居住を重視する価値観と寒川町の住環境が合致しているためと考えられる。

④住環境へのこだわりが小さいタイプ

東京都・横浜市居住者が近隣自治体よりも 14 ポイント多い。性別では男性が女性よりも 10 ポイント多い。持家率が類型の中で最も低いことから、住環境へのこだわりの少なさが背景にあると考えられる。また、世帯年収は 400 万円以上の割合が 2 番目に低いことから、経済的な余裕の少なさも、住環境への関心に影響を与えていることが考えられる。SNS の利用状況を見ると、フェイスブック、ツイッター、インスタグラムの利用割合が類型の中

で最も低く、情報にはあまり敏感ではない属性が多いと考えられる。よく読む雑誌は、趣味・娯楽等の割合が他の類型よりも多く、流行よりは趣味な自分の関心事の方を重視していると考えられる。

また、寒川町の認知度は類型の中で最も低く、転居の潜在的にニーズも最も低い。当該類型では住環境とは別の要因が居住地選択に影響するため、積極的に寒川町を選択する動機が少ないことが背景にあると考えられる。転居の潜在的なニーズの背景となっている寒川町の評価要因としては、閑静な住環境と住宅の価格・家賃の手頃さだけが 20%を超えている。20%を超える評価要因が 2 つしかないのは、当該類型のみである。ただし、住環境へのこだわりがない分、この 2 つの評価要因のみで転居に向けたアプローチをすることは考えられる。

⑤独自のスロースタイル重視タイプ

東京都・横浜市 of 居住者が近隣自治体よりも 20 ポイント多い。性別では男性と女性の割合は半々である。家族構成では単身者の割合が最も多く、結婚及び子どもいる世帯は最も低い。また、自家用車の所有率は類型の中で最も低い。世帯年収も 600 万円以上割合、400 万円以上の割合が類型の中で最も低い。SNS の利用状況を見ると、フェイスブック、ラインの利用割合が類型の中で最も低く、情報にはあまり敏感では属性が多いと考えられる。よく読む雑誌ではビジネス誌の割合が他の類型よりも少なく、週刊誌と同じ割合となっている。基本的にはあまりアクティブではない単身者等が多いものと想定される。

また、寒川町の認知度は類型の中で 2 番目に低い。転居の潜在的にニーズは類型の中では中位である。転居の潜在的なニーズの背景となっている寒川町の評価要因としては、閑静な住環境と住宅の価格・家賃の手頃さが挙げられており、この点は他の類型と同じである。他の類型にはない評価要素としては景観等の自然環境が評価されている。基本的にスロースタイルであることから、東京等の都会では得難い地域資源を評価していると考えられる。

■各クラスターの特徴

	CL1:利便性を中心に住環境にこだわりタイプ	CL2:都市型ファミリーライフ重視タイプ	CL3:スローな郊外居住重視タイプ	CL4:住環境へのこだわりが小さいタイプ	CL5:独自のスタイル重視タイプ
CL数 (構成比)	326 17.5%	327 17.6%	317 17.0%	538 28.9%	354 19.0%
居住地	近隣自治体：46% 東京・横浜：54%	近隣自治体：49% 東京・横浜：51%	近隣自治体：56% 東京・横浜：44%	近隣自治体：43% 東京・横浜：57%	近隣自治体：40% 東京・横浜：60%
性別	男性：44% 女性：56%	男性：34% 女性：66%	男性：43% 女性：57%	男性：55% 女性：45%	男性：49% 女性：51%
平均年齢	32.7歳	33.1歳	33.1歳	32.4歳	32.1歳
家族構成	単身：23% 結婚：52% 子どもあり：40%	単身：11% 結婚：64% 子どもあり：35%	単身：16% 結婚：64% 子どもあり：51%	単身：25% 結婚：38% 子どもあり：29%	単身：36% 結婚14% 子どもあり：6%
職業	会社員：52% 主婦(夫)：18% パート等：8%	会社員：43% 主婦(夫)：24% パート等：14%	会社員：38% 主婦(夫)：27% パート等：15%	会社員：50% パート等：14% 主婦(夫)：10%	会社員：43% パート等：17% 無職：13%
自家用車の有無	有：68% 無：32%	有：63% 無：37%	有：68% 無：32%	有：57% 無：43%	有：47% 無：53%
住宅形態	持家・一戸建：32% 賃貸・集合：33% 持家・集合：21% 持家率：53%	賃貸・集合：42% 持家・一戸建：30% 持家・集合：18% 持家率：48%	賃貸・集合：39% 持家・一戸建：36% 持家・集合：13% 持家率：49%	賃貸・集合：39% 持家・一戸建：27% 持家・集合：20% 持家率：47%	賃貸・集合：43% 持家・一戸建：29% 持家・集合：19% 持家率：48%
世帯年収	400万円以上：79% 600万円以上：49%	400万円以上：76% 600万円以上：43%	400万円以上：67% 600万円以上：31%	400万円以上：63% 600万円以上：37%	400万円以上：54% 600万円以上：28%
SNS利用状況	ミソイ：31% フェイスブック：59% ツイッター：53% ライン：81% インスタグラム：40%	ミソイ：15% フェイスブック：43% ツイッター：46% ライン：70% インスタグラム：24%	ミソイ：21% フェイスブック：54% ツイッター：43% ライン：76% インスタグラム：29%	ミソイ：17% フェイスブック：41% ツイッター：41% ライン：59% インスタグラム：21%	ミソイ：13% フェイスブック：41% ツイッター：57% ライン：54% インスタグラム：23%
よく読む雑誌	女性誌：36% 趣味・娯楽等：20% ビジネス：16%	女性誌：38% 暮らし：20% 趣味・娯楽等：19%	女性誌：30% ビジネス：20% 趣味・娯楽等：20%	趣味・娯楽等：30% 女性誌：26% ビジネス：18%	女性誌：43% 趣味・娯楽等：25% ビジネス：12% 週刊誌：12%
寒川町の認知度	訪問経験：51% 知ってはいる：27% 計：78%	訪問経験：47% 知ってはいる：28% 計：75%	訪問経験：53% 知ってはいる：28% 計：71%	訪問経験：36% 知ってはいる：23% 計：59%	訪問経験：32% 知ってはいる：32% 計：64%
寒川町への転居の潜在的ニーズ	転居意向：8% 転居候補：31% 計：39%	転居意向：0% 転居候補：28% 計：28%	転居意向：3% 転居候補：40% 計：43%	転居意向：3% 転居候補：23% 計：26%	転居意向：0% 転居候補：31% 計：31%
転居先としての評価要因(20%以上)	住宅価格等 32% 閑静な住環境：27% 自然等子育て環境：25% 通勤等便利：23% 保育サービス：20%	住宅価格等：57% 閑静な住環境：32% 近隣自治体の商業施設の利用に便利：21%	住宅価格等：47% 閑静な住環境：34% 自然等子育て環境：34%	閑静な住環境：29% 住宅価格等：23%	住宅価格等：41% 閑静な住環境：23% 景観等自然：20%

(5) まとめ

①東京都・横浜市住民、②比較対象自治体住民、③町民、④寒川町職員の4種類のアンケート結果を以下に整理する。

寒川町の認知度・イメージ	
認知度	<ul style="list-style-type: none"> 東京都・横浜市住民の寒川町の認知度は約5割、このうち「行ったこともある」は1割以上 比較対象自治体住民では、認知度が9割以上、このうち「行ったこともある」は7割以上
魅力や印象 (自由想起)	<ul style="list-style-type: none"> 東京都・横浜市及び比較対象自治体住民が想起した事柄の約6割が寒川神社であり、寒川町のイメージを表すキーワードとしては、田舎、相模川、自然・緑、不便等 町民が思う寒川町の魅力では、寒川神社は3割であり、自然や閑静・のどか、暮らしやすさ、田舎・農地、コミュニティ・絆、生活コスト(安さ)、安全・安心などの暮らし方のイメージが6割以上 職員アンケートでも、寒川町の暮らし方のイメージとして町民と同様のキーワードが出現する傾向 東京都・横浜市及び比較対象自治体住民は、田舎的・自然的なイメージが暮らしやすさと結びついていないため、この点をストーリー性をもって情報発信することが重要
機能的 イメージ	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の利便性に関しては、町内外でギャップがあり、町民は「日常の買い物」や「身近な医療施設」の利便性に関し、比較対象自治体と劣らないと感じている。 魅力や印象の自由想起からもわかるように、町民は寒川町の魅力を「暮らしやすさ」と捉えている一方、町外からはそうした評価が不足している。 また、比較対象自治体の中では、寒川町と綾瀬市が郊外的なイメージを持たれていることから、綾瀬市とはイメージ的に競合するため、差別化の視点が重要
情緒的 イメージ	<ul style="list-style-type: none"> 東京都・横浜市及び比較対象自治体の住民ともに寒川町の機能的イメージは「落ち着いている」、「伝統的」、「庶民的」 また、町民及び職員は「あたたかみがある」や「憩い・うるおいがある」の点で寒川町は比較対象自治体よりもイメージが高いと評価 魅力や印象の自由想起でも、町民及び職員からは「閑静・のどか」や「コミュニティ・絆」のキーワードがあげられており、「あたたかみ」や「憩い・うるおい」は町外への発信強化が重要 また、寒川町と綾瀬市が庶民的、伝統的、落ち着いたイメージを持たれており、綾瀬市とはイメージ的に競合するため、差別化の視点が重要
地域資源の 認知度	<ul style="list-style-type: none"> 東京都・横浜市及び比較対象自治体の住民ともに「寒川神社」の認知度が卓越(8~9割)しているほか、交通環境、近隣自治体へのアクセス利便性も一定程度(2~6割)認知されている 一方、町民及び職員では、待機児童が少ないことや建物の高さを規制していることが、相対的に認知度が低くなっており、町内での認知度を高める取組も重要
地域資源の関 心度・誇り度	<ul style="list-style-type: none"> 東京都・横浜市と比較対象自治体住民では、寒川神社や寒川町の自然・景観資源、手頃な住宅地価、待機児童の少なさといった点に関心が高い(5割以上)ことが共通 一方、「茅ヶ崎、藤沢、平塚、海老名が近く、買い物などの商業施設の利用に便利」に対する東京都・横浜市住民と比較対象自治体の関心度は3~4割程度であり、町民・職員の誇り度(6割以上)と比べて評価にギャップ このため、上記の暮らしやすさ資源の情報発信にあたっては、手頃な住宅地価、待機児童の少なさなど、東京都・横浜市と比較対象自治体では手に入りにくい資源(故に関心度が高いと想定)を前面に出したストーリー構築が重要
<p>【寒川町の認知度・イメージ等に関するまとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町民が思う寒川町の最大の魅力は「暮らしやすさ」であり、この魅力は東京都・横浜市及び比較対象自治体の住民に十分浸透していないことから、情報発信の強化が重要 東京都・横浜市及び比較対象自治体は、寒川町に田舎的・自然的なイメージをもってはいるが、このイメージは「不便」と裏腹であるため、田舎的・自然的なイメージを「暮らしやすい郊外ライフ」に結び付けることが重要 近隣自治体へのアクセス性は、「不便」のイメージを払しょくできる材料ではあるが、東京都・横浜市及び比較対象自治体は、現在の居住地では得られないものを寒川町に求めるため、安い住宅コスト、閑静な暮らし、コミュニティ(ソーシャルキャピタル)、安全・安心(治安)といった固有の魅力を前面に出すことが重要 また、綾瀬市とはポジショニング的に競合することから、綾瀬市との差別化を意識した情報発信も重要(鉄道があること、寒川神社に象徴される歴史や伝統、騒音のない閑静な暮らしの場等) 	

寒川町への転居ニーズ	
現在の居住地を選んだ決め手	<p>【町外：東京都・横浜市及び比較対象自治体、職員（町外居住）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「通勤・通学に便利」を挙げている回答が最も多いことが共通 ・東京都・横浜市及び比較対象自治体の住民は、「住宅の価格や家賃が手頃」や「スーパーや医療施設が充実していて日常生活が便利」も一定程度重視 <p>【町内：町民及び職員（町内居住）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「住宅の価格や家賃が手頃」の回答が多いことが共通 ・「茅ヶ崎、藤沢、平塚、海老名が近く、買い物などの商業施設の利用に便利」など広域的な視点で生活利便性を評価
居住地を選んだ際に参考にした情報源	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都・横浜市及び比較対象自治体住民は「不動産事業者」と「インターネット上の住宅情報サイト」が中心的な情報源となっており、寒川町の暮らしやすさの情報発信にあたっては、不動産関係との連携が重要
転居の際に許容できる通勤・通学時間	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都・横浜市及び比較対象自治体住民は「30分未満」が2割、「30分～1時間未満」が4～5割、「1時間～1時間30分未満」が2割となっている。 ・東京都・横浜市は7割が鉄道利用を想定しているが、比較対象自治体住民は鉄道が5割、2割が自動車となっている。
転居の際に許容できる通勤・通学時間	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都・横浜市及び比較対象自治体住民は「15分程度」が15%、「30分未満」が3割台、「30分～1時間未満」が3割台となっている。 ・東京都・横浜市は8割が鉄道利用を想定しているが、比較対象自治体住民は鉄道が5割台、2割が自動車となっている。
現在の居住地に不満を感じてる点	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都・横浜市及び比較対象自治体住民は、「地価や家賃が高い」及び「ショッピングを楽しめる場所が遠い」ことへの不満が高いことが共通 ・寒川町の住宅取得等のコストの安さは、不満を緩和・改善できる要素として情報発信することが重要 ・「ショッピングを楽しめる場所が遠い」に関しては、自動車の利用を前提とすれば、比較対象自治体内は、駅近居住でない限り、同様の条件であると考えらる。
寒川町への転居意向	<ul style="list-style-type: none"> ・転居の潜在的なニーズは、東京都・横浜市住民が約3割、比較対象自治体住民が約4割
寒川町への転居を考える余地がある理由	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都・横浜市及び比較対象自治体住民は、「住宅の価格や家賃が手ごろ」が3～4割と最も多く、次いで「自然豊かな子供の成長環境」が2割となっている ・なお、寒川町の魅力として捉えられる「待機児童が少ない」ことが10～15%となっており、「自然豊かな子供の成長環境」よりも評価が低い。これは、待機児童がもたら共働き世帯の関心事である一方、「子供の成長環境」は全ての子育て世代の関心事であるためと考えられる
寒川町が転居の候補地とならない理由	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都・横浜市住民は、「寒川町をよく知らない」が6割であり、寒川町の「暮らしやすさ」の情報発信が重要 ・比較対象自治体住民は、「通勤・通学先が遠くなる」が3割と最も多く、次いで「寒川町をよく知らない」が2割であることから、やはり寒川町の「暮らしやすさ」の情報発信が重要
寒川町での居住に満足意を感じている点	<ul style="list-style-type: none"> ・町民及び職員（町内居住）が満足に感じている点は、「茅ヶ崎、藤沢、平塚、海老名が近く、買い物などの商業施設の利用に便利」が4割と最も多く、次いで「通勤・通学に便利」、「閑静な住環境」、「さがみ縦貫などの道路交通網」が3割であり、閑静な郊外居住と近隣自治体の都市機能を楽しむことができることが、寒川町の「暮らしやすさ」として評価されている
町からの情報として関心のあるテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・町民及び職員（町内居住）は、「イベント・行事などの情報」、「災害や防災対策に関する情報」が4割、「子育てに関する情報」、「町の産業（グルメ・特産等）に関する情報」が3割 ・暮らしの楽しみや安全・安心、子育てに関する情報提供が重要
<p>【寒川町への転居ニーズ等に関するまとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都・横浜市及び比較対象自治体住民が「現在の居住地を選んだ決め手」、「現在の居住地に不満を感じてる点」、「寒川町への転居を考える余地がある理由」を見ると、「住宅の価格や家賃が手ごろ」であることは、寒川町の「暮らしやすさ」を発信する重要な素材 ・子育て世代に対しては、寒川町の「暮らしやすさ」に「自然豊かな子供の成長環境」も含まれていることをPRすることも重要であり、この点においては、さむかわ中央公園なども素材としながら「子どもにやさしいまち」（子育て中の親の視点だけでなく、子ども目線で、子どもにやさしいまち）としてのストーリーを構築することが重要 ・比較対象自治体では、日常生活の移動手段として自動車が一定程度を占めていることから、自動車を利用すれば、生活の不便がほとんどないことをPRすることが効果的 ・情報発信を行う上では、居住地を選んだ際に参考にした情報源の実態を踏まえて、不動産・住宅関係の民間事業者等との連携を図ることが効果的 	

回答者のタイプ分類と特徴	
利便性を中心とした住環境へのこだわりタイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都・横浜市の居住者が近隣自治体よりも8ポイント多い ・性別では女性が男性よりも12ポイント多い ・類型の中で最も経済的に余裕があり、自家用車を所有している割合や持ち家割合も最も高い ・SNSの利用割合が高く、他の類型より高く、情報の受発信に敏感 ・寒川町の認知度が最も高く、転居の潜在的ニーズも2番目に高い ・住宅の価格・家賃の手頃さ、閑静な住環境、自然等の子育て環境、通勤等利便性、保育サービスなど寒川町に対する評価項目が類型の中で最も多様
都市型ファミリーライフ重視タイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都・横浜市の住民割合と近隣自治体の住民割合は概ね半々 ・女性の占める割合が66%と高い ・類型の中で2番目に経済的に余裕がある ・結婚している割合が類型中で最も高く、ファミリー世帯が中心 ・読んでいる雑誌を他の類型と比べると、暮らし系の生活雑誌が多く、ビジネス系は少ない(基本的に仕事よりもファミリー重視) ・寒川町の認知度は類型の中で2番目に高いものの、基本が都市型志向であるため、転居の潜在的ニーズは2番目に低い。 ・転居の潜在的なニーズを示した回答者の特徴としては、近隣自治体の商業施設の利用が便利なが評価されている点(他の類型と異なる特徴)であり、都市型志向を反映している可能性
スローな郊外居住重視タイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣自治体の住民割合が東京都・横浜市の住民割合よりも12ポイント高い ・女性の占める割合が64%と高い ・経済的余裕は大きくはない ・結婚している割合、子どものいる割合が類型中で最も高く、ファミリー世帯が中心(結婚割合は都市型ファミリー重視タイプと同値) ・寒川町の認知度は類型の中で3番目(中位)で、転居の潜在的にニーズは2番目に高い ・住宅の価格・家賃の手頃さ、閑静な住環境、自然等子育て環境が評価されており、スローな郊外居住を重視する価値観と寒川町の住環境が合致している可能性
住環境へのこだわりが小さいタイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都・横浜市の居住者が近隣自治体よりも14ポイント多い ・性別では男性が女性よりも10ポイント多い ・経済的余裕は大きくはなく、持家率が類型の中で最も低い ・SNSの利用割合が他の類型と比べて低く、情報にはあまり敏感ではない可能性 ・読む雑誌は、趣味・娯楽等の割合が他の類型よりも多く、流行よりも趣味な自分の関心事の方を重視している可能性 ・寒川町の認知度は類型の中で最も低く、転居の潜在的にニーズも最も低い ・閑静な住環境と住宅の価格・家賃の手頃さだけにしか反応しておらず、評価項目が類型の中で最も少ないが、住環境へのこだわりがない分、この2つの評価項目だけでアプローチできる可能性
独自のスロースタイル重視タイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都・横浜市の居住者が近隣自治体よりも20ポイント多い ・性別では男性と女性の割合は半々 ・家族構成では単身者の割合が最も多く、結婚及び子どもいる世帯は最も低い ・自家用車の所有率は類型の中で最も低く、経済的余裕も類型の中で最も少ない ・SNSの利用割合が他の類型と比べて低く、情報にはあまり敏感ではない可能性 ・基本的にはあまりアクティブではない単身者等が多い可能性 ・寒川町の認知度は類型の中で2番目に低く、転居の潜在的にニーズは類型の中では中位 ・閑静な住環境、住宅の価格・家賃の手頃さに加えて、景観等の自然環境が評価されていることが特徴 ・東京等の都会では得難いスロースタイルに対応した地域資源でアプローチできる可能性
【回答者のタイプ分類と特徴に関するまとめ】 <ul style="list-style-type: none"> ・寒川町の暮らしやすさに最も反応すると考えられるタイプは「スローな郊外居住重視タイプ」であり、当該タイプを中心に「寒川ライフスタイル」のストーリーを構築、発信することが効果的 ・「利便性を中心とした住環境へのこだわりタイプ」は、子育てのしやすさを含む日常の生活利便性が確保されている点を中心にPR ・「独自のスロースタイル重視タイプ」は、経済的余裕が少ないことを踏まえ、賃貸居住を念頭に、ゆとりとのんびりした暮らしを送る上で費用対効果が高い点をPR ・「都市型ファミリーライフ重視タイプ」は、基本的に都市的ライフスタイル志向であることから、町内でも生活利便性は十分確保されていること、ショッピング等も近隣自治体で楽しめることを中心にPR ・「住環境へのこだわりが小さいタイプ」は、住宅地価及び家賃の低価格さを中心にPR 	

7 基礎調査のまとめ

(1) 寒川町のイメージ・ポジショニング

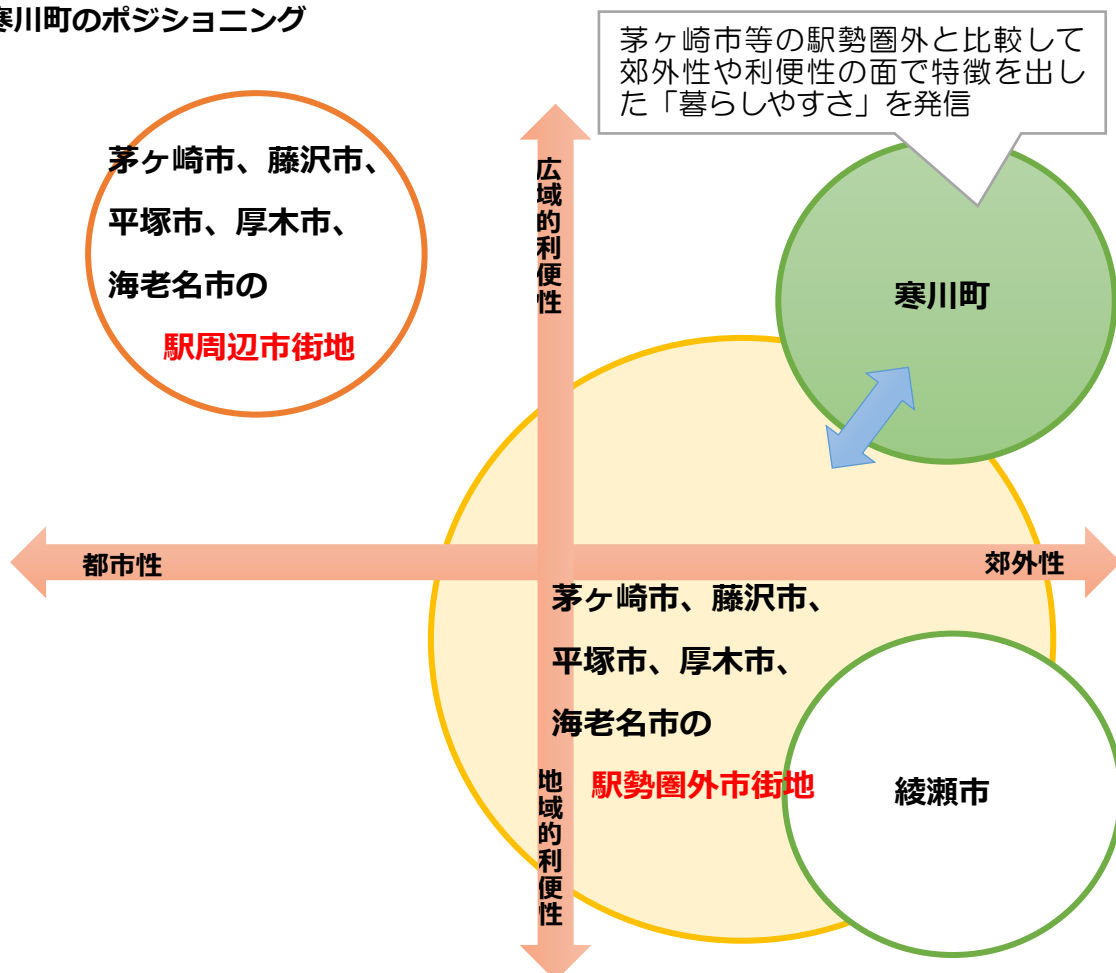
本調査で実施したアンケートによる寒川町及び比較対象自治体のイメージ比較や寒川町の魅力（回答者の自由想起）等を踏まえると、寒川町・綾瀬市と茅ヶ崎市・藤沢市・厚木市・海老名市は、郊外性⇔都市性の軸でポジショニングすることができる。

また、寒川町と綾瀬市との差別化を考えると、寒川町の特徴は茅ヶ崎市・藤沢市・厚木市・海老名市に接し、鉄道・自動車の両面で周辺自治体の都市機能にアクセスできる広域的利便性を備えていることにある。寒川町と綾瀬市は、広域的利便性⇔地域的利便性の軸でポジショニングすることができる。

さらに、一口に茅ヶ崎市・藤沢市・厚木市・海老名市と言っても、駅周辺と駅勢圏外では都市性や利便性が異なる。茅ヶ崎市等の駅周辺市街地は、都市性と広域的利便性を備えた地域としてポジショニングすることができる。一方、茅ヶ崎市等の駅勢圏外の市街地は、広域的利便性⇔地域的利便性、都市性⇔郊外性の軸をまたがる地域としてポジショニングすることができる。

このような寒川町のポジショニングを想定すると、寒川町は、茅ヶ崎市等の駅勢圏外と比較して郊外性や利便性の面で特徴を出した「暮らしやすさ」を発信することが重要となる。

■寒川町のポジショニング

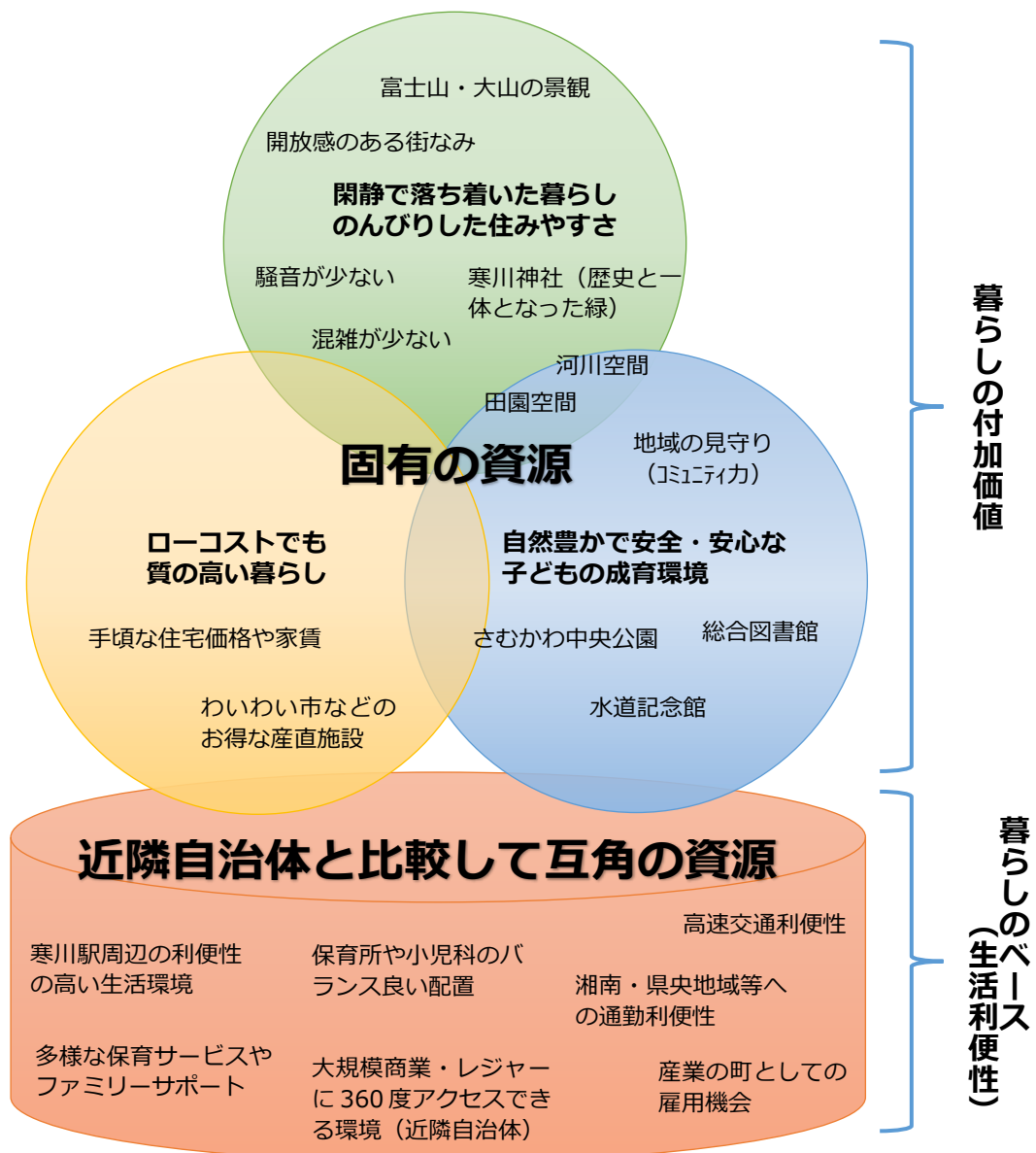


(2) 寒川町の「暮らしやすさ資源」

寒川町の「暮らしやすさ資源」は、寒川町に固有の資源（付加価値）と、近隣自治体と比較して互角の資源（生活利便性）に分けて整理することができる。

近隣自治体と比較して互角の資源（生活利便性）は、寒川町の暮らしが「不便ではない」ことをアピールする素材となるものである。ただし、これだけでは、寒川町での暮らしを積極的に選択することの動機づけとして乏しいため、寒川町の暮らしの付加価値となるものが固有資源である。

■寒川町の「暮らしやすさ資源」の概念



(3) 生活スタイルや考え方に基づくタイプ別のアプローチの方向性

東京都・横浜市及び比較対象自治体の住民に実施したアンケート結果を踏まえ、生活スタイルや考え方に基づくタイプ別に転入促進に向けたアプローチの方向性を整理する。

■タイプ別のアプローチの方向性

タイプ	アプローチの方向性
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">重視タイプ スローな郊外居住</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・寒川町の暮らしやすさに最も強く反応すると考えられることから、最重要ターゲットとして位置付け ・近隣自治体の住民割合が多いことから、近隣自治体の駅勢圏外に居住するファミリー層をPRの対象として設定 ・寒川町の「暮らしやすさ資源」(暮らしのベースと付加価値の重層的な魅力)を総動員したPR(寒川らしい郊外居住スタイルのストーリー構築) ・経済的な余裕があるタイプではないため、最終的には住宅取得等の価格が寒川町選択の決定要因として重要 ・近隣自治体の不動産事業者等との連携でPRすることが必要
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">住環境へのこだわり 利便性を中心としたタイプ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就業の場が湘南・県央地域になったなどを契機として、東京都・横浜市からの転居を考えているファミリーをPRの対象として設定(東京都・横浜市での居住経験がある場合、転居にあたり利便性が低下することは許容できないと想定) ・利便性を重視するが故に、先入観的に茅ヶ崎市や藤沢市等を選択する可能性があることから、寒川町の広域的な利便性をPR ・SNSの利用割合が高いことから、自ら情報収集する傾向が強いと考えられ、独自にSNSを活用したサイトを解説するなど情報発信面で工夫 ・寒川町の中で最も利便性が高いエリアである寒川駅周辺に焦点を当てたPRを行うなどの工夫も検討
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">独自のスロー スタイル重視タイプ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就業の場が湘南・県央地域になったなどを契機として、東京都・横浜市からの転居を考えている単身者をPRの対象として設定 ・単身者であること及び経済的余裕が少ないタイプであることを踏まえ、住宅は賃貸が基本になると想定 ・コストパフォーマンスと寒川町の固有の自然資源(近隣自治体にはないもの:例えば高い建物がないため、どこからでも富士山・大山の景観を眺めることができる暮らしなど)の両面からPR
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">都市型ライフスタイル 重視タイプ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市型ライフスタイルの志向が強いことから、先入観的に近隣自治体を選択する可能性があるため、選択と集中の視点ではPRの優先度が低い ・当該タイプ独自のアプローチを行うのではなく、「利便性を中心とした住環境へのこだわりタイプ」のアプローチ(寒川町の広域的利便性をPR)と合わせて対応
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">小さい住環境への こだわりタイプ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住環境へのこだわりが小さく、価格のみに反応する可能性があることから、選択と集中の視点では、プロモーションの対象としての効果が期待薄 ・当該タイプは単身者の割合が高いという点で「独自のスロースタイル重視タイプ」と類似 ・当該タイプ独自のアプローチを行うのではなく、「独自のスロースタイル重視タイプ」のアプローチ(寒川町の賃貸物件のコストパフォーマンスをPR)と合わせて対応

高

アプローチの優先度

低